

やまざと

会報12号 ('99冬号)



ミレニアム行事

- M1 スキー合宿 i n 野沢 (第3回OBスキー合宿)
2月26日(土) 27日(日) 野沢温泉「ふるさと」
- M2 お花見コンパ
4月15日(土) 夕方5時より 沈床園
- M3 マルチトレニング i n 倉谷
5月12日(金) - 14日(日) 倉谷ベルクハイム
- M4 花・星・人 i n 南竜
8月5日(土) 6日(日) 白山南竜ケビン

金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会

目 次

*表紙	21期 竹中 敏	2
*会報「やまざと」によせて	会長 15期 奥名 正啓	3
*行事案内		4
*パソコンによる山岳展望の楽しみ	11期 長岡 正利	5
*北国女流美術展 最高賞	7期 村田 泰恵	10
*秋の小屋酒場 13期 辰野隆義 13期 吉田穂積 15期 舟田節子		
0期 田村昭夫 13期 吉本良治		11
*鈴鹿7マウンテンを制覇!	4期 森島 稔	20
*ある晴れた晩秋の日に 白山源流 他	19期 梅 典雅	31
*秋の雨飾山山行と温泉	23期 鳥越 伸博	37
*蒲原良太郎の追悼山行日誌!!	36期 蒲原 道子	38
*拡大15期会木曽岬大会報告		
15期 祖父江直久 佐野哲雄 舟田節子		42
*23期越前海岸海水浴同期会	23期 石地 隆司	46
*OB一言通信		54
*ワングルHP 100m級低山紀行	15期 奥名 正啓	62
*E-MAIL便り		64
*会計報告		94
*住所変更 他		96
*現役小屋作業	42期 石川 真心	98
*冬合宿	顧問 前田 達男	103
*新聞切り抜き		105



もう18年も前に南竜の天場で夏毛のオコジョ君に会いました。ごろごろした石積みのところをうろちょろしていて、あっちの隙間かと思えばすぐ足元の穴から顔を出したりして、もぐらたたきをしているような気分になりました。じっとしていたら石ころと思ったのかぼくの足を駆け登ってきて、胸のところで立ち止まり顔を覗き込んでしばらくクンクンやったあと、あっという間に駆け下りてどっかの隙間に消えました。

オコジョもクマも、野生のいきものはなんでこんな厳しい自然の中で生きているのだろうと思ってしまいます。でもこれも人間中心の考えなのかもしれません。案外動物たちは、それぞれの環境でタノシク生きているのかもしれません。鳥のさえずりはテリトリーを守る為の誇示行動であるとかいう話をよく聞きますが、なんとなく歌いたいからさえずる時もアルト思います。いろんな事を思いながら動物たちを見ていると、人間もおなじだなとおもえてきたりします。

山へ行く事も少なくなりましたが、会社でパソコンの画面に向かっているそのまったく同じ時間に白山の山の上のどこかで、オコジョが走り回っているのだと思うと、なんとなく嬉しいような気持ちになります。

また、いつか、オコジョの居る場所へ行って、ホンモノのオコジョ君に会いたいと思っています。

竹中 びん

会報「やまざと」によせて

OBの皆様、それぞれにご活躍のことと思います。

いよいよ1900年代も終わり2000年代の幕が上がりました。同じ一年の違いも今度ばかりは一つの大きな節目だと感じる方も多いことでしょう。よく「ものは考えよう」というようにすべてはその人の受け取り次第でどうにでもなります。2000年はとっても素晴らしい年になると思えばきっとそうなります。そして必要なことは「勇気」と「決断」です。あなたの頭上にも私の頭上にもいろいろなチャンスが引きも切らずに飛び交っているはずです。はずれ籤をひいてはいけないといつまでも手を出さないでいると、チャンスは皆通り過ぎていってしまいます。思い切って手を出してみることも人生には必要なことではないでしょうか。

さて、我がOB会も2000年にあたり、というわけではありませんが少しずつOB会としての活動を広げてゆきたいと思っています。これまで恒例となってきた「小屋酒場」「OBスキー合宿」はもちろん継続して実施していくつもりですし、さらに参加者の広がりをめざしたいところです。OBスキー合宿は11期の皆様の大きな尽力に支えられ次第に参加者が増えてきているようです。一方「小屋酒場」は地元金沢でありながら地理的な条件の悪さからか（これが幸いして今でもあなたが現役で活躍していた頃とほとんど変わっていません）参加者が少なくしかも同じメンバーに固定されてきています。さあ、あなたもちょっと浮き世をはなれて、時空をも超えてベルクハイムへ立ち寄ってみませんか。

ベルクハイムは永遠不滅ではありません。年を経るごとにあちこち傷みがでてきています。彼の場合、傷みを放っておくとたちまち致命傷になりかねません。毎年きちんとメンテナンスしてあげないといけません。昨年水洗トイレが

足かけ3年の難工事の末とうとう完成し、ワンルーム時代の幕をとじました。

しかし一方で床の傷みが激しく、あちこちで踏み抜かれる事態となって修理の必要があります。今年はその床の張り替えを予定しています。昼間はみなさんの有り余る力を修理代に相転移させて、さらに余る方は高三郎へでも散歩に、夜は片町はちょっとばかり遠いので諦めて、力の元を存分に補給していただけたらと願っております。

とれたての山菜を味わえる5月に行う予定です。ねっあなた、行きましょうよ。

今年2000年平成12年ミレニアムには、我々を迎え送り出してきた石川門を見上げつつ、数々のエピソード、コキジのしみこんだ沈床園にてお花見コンパを行うつもりでいます。皆様天候に恵まれるよう今からお祈りし、ぶらりと来てください。

さらに、夏には白山（南竜）でお会いしましょう。

ビシッとした計画でなく怠慢の誹りを受けるやもしれませんが、みなさん一人のワネルの大人として適当に参加できるよう心づくしの現れとお考えください。

閑話休題。

金沢城跡地は来る2001年秋に催される全国都市緑化石川フェアに向けて整備や菱櫓や五十間長屋などの歴史的建造物や石垣・堀などの復元工事が行われています。大学の建物だって歴史的建造物ではないか。その計画図が目の前にありますが、これが完成したあかつきにはかつてここに大学があったということは想像できないものとなるでしょう。そういう意味では、城内で騒いでいたOBの方たちにとっては無念やるかたないでしょうが、かわいい孫の門出と思って行く末を見守ってあげましょう。

20世紀最後の年が皆様にとってよい年となりますよう願っております。そしてOB会にとっても。

* ミレニアム行事のお知らせ *

2000年行事連続開催！！

お待たせしました。デパートの餌食になるのをよしとしないKUWVOBの皆様へ、とっておきの行事ご案内です。あなたならではのミレニアムの思い出を刻んでみませんか！

あれは30年前。紅顔の美少年、美少女達が石川門をくぐり、そのライトアップの元、ワングルの洗礼を受けました。山あり谷ありの人生を生き抜き、な、なんと、今では、OB会長、副会長、事務局長のそろい踏み。乗りやすい性格も累乗され、「この面子なら、15期会もOB会も一緒やないけ。この際まとめて面倒みるべ！」狼狽するお当番の松林君には入部30周年記念大会実行委員長の称号を奉り、全員役付き兼実行部隊の陣容で策を練っています。

おりしも世間はミレニアム。こだわりの地、こだわりの人・・・夢に終わらせず、訪ねてみませんか？会ってみませんか？

この指とまれ！

M1 スキー合宿 i n 野沢 (第3回OBスキー合宿)

2月26日(土) 27日(日) 野沢温泉「ふるさと」

M2 お花見コンパ

4月15日(土) 夕方5時より 沈床園

M3 マルチトレニング i n 倉谷

5月12日(金) - 14日(日) 倉谷ベルクハイム

M4 花・星・人 i n 南竜

8月5日(土) 6日(日) 白山南竜ケビン



M1・・・2月10日までに返信必着。以降の変更・詳細は奥名宛。

(事務局不在につき、対応できません。)

M2・・・フリー。2000円程度しのばせて・・・雨天適当。

M3・・・3月末までに、ノミネート。詳細お知らせします。

M4・・・ケビン利用希望は、3月末締切。南竜荘、テント利用はフリー。

その日に行ったら、ワングルOBがたむろして酒飲んでるよ！が

スタンス。基本は自己責任。声かける方も参加する方も気楽に。会える

機会を増やそう。M2、M4は今後も続けばいいな・・・

以上、返信はがき利用か、HPでお知らせ下さい。

なお、経費削減につき、メールアドレスお持ちと判明している方には

返信はがきはカットされています。将来的に、返信はがきは用意しない

予定です。

パソコンによる山岳展望の楽しみ

11期OB 長岡正利

はじめに

まずは、添付のカラーコピーをご覧ください。

パソコンで作った、白山からの可視域図です。上図が広域版、下がその中央部の拡大。いずれも、白抜きとした部分が、白山山頂から見える部分（逆に、白山を望見することのできる地）です。

昔の記憶を呼び起こしていただければ、北東方から南東方にかけては、北アルプス北端の山々から乗鞍岳まで。さらに、御嶽山、恵那山などの眺望が思い浮かぶことでしょう。富山平野や加賀平野、能登半島から白山が見えるのは当然として、意外なのは、濃尾平野のほぼ全域や志摩半島、丹後半島の山々、さらに中国山地からも原理的には見えていること。六甲山からも白山は見えます。

また、白黒コピーの方は、上図が、白山御前ヶ峰から東を見た展望図。下は、大汝ヶ峰から北方を見たもので、その眺めをパソコンで描いたものです。全体の景観は、紅葉に新雪のきた後の晴れ上がった日。空にはのどかに雲がたなびき、という状況を再現。ちょうど、焦点距離35mmのカメラで撮ったと同じ画角にして、見えている山には山名ラベルを付してあります。

この種の可視域図や展望図が、お手持ちのパソコン（ただし、ここで紹介のソフトはWindows対応）で、簡単に作ることが出来ます。必要なものは、パソコンのほかは、標高データ。インターネットからダウンロードできるこのフリーソフトについては、インターネットを利用できる環境にならない方については、誰か知人を介してインターネットからFDで入手してのインストールも可。

日本国内の山を対象とするのであれば、標高データとしては、「数値地図250mメッシュ(全国)」(7500円)が、国土地理院の地図を扱っている書店で購入可。地図同様に、通信販売（日本地図センター：Tel. 03-3485-5414）も可能です。

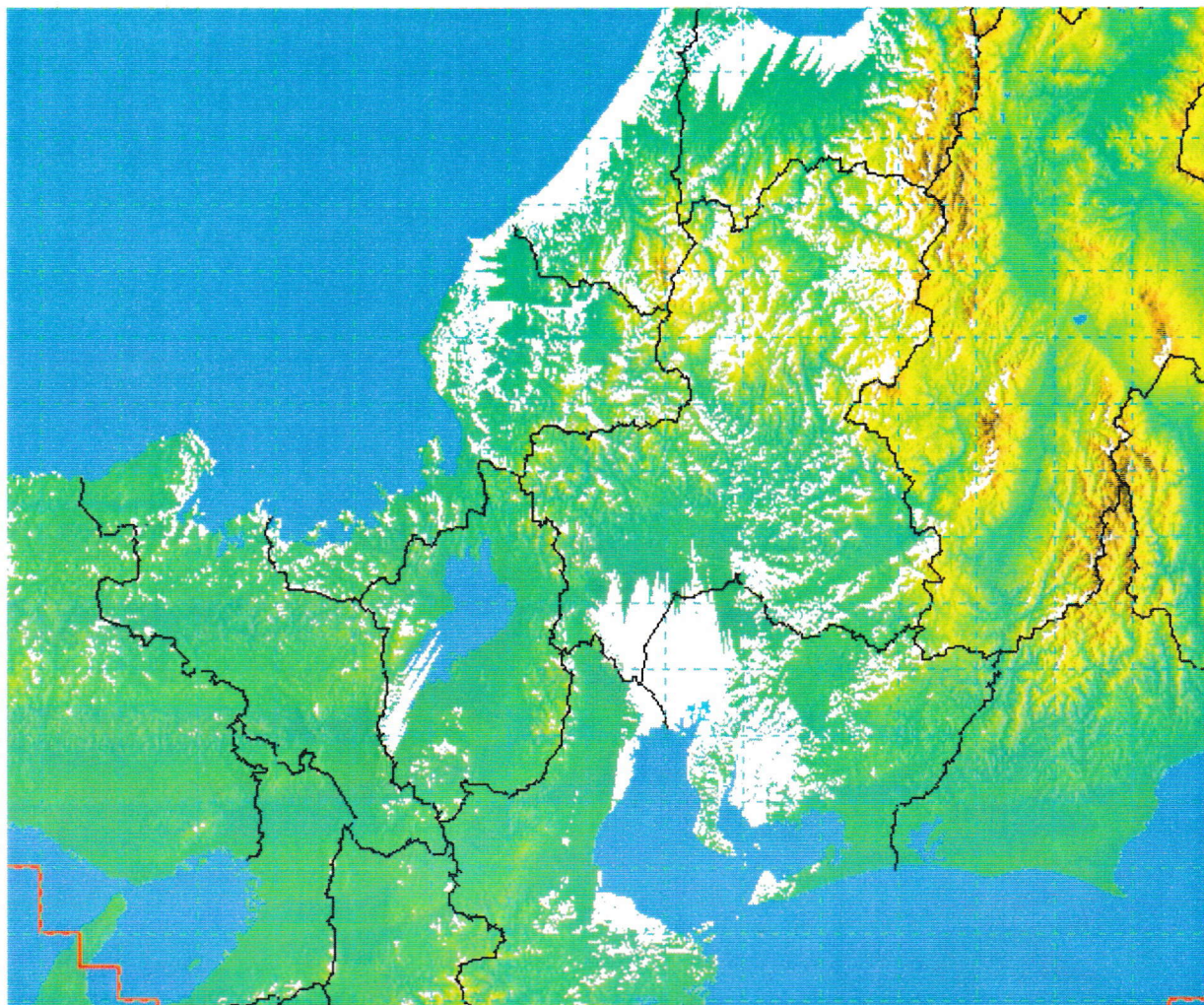
山にお出かけの際、広域にわたる地図を取り出しての山座同定も楽しいものです。しかし、山上での限られた時間のなかでは、そう簡単でもありませんので、あらかじめお出かけの前夜にこのシステムで図を作っておく。あるいは、自分の住んでいるところから時折かすかに見えるあの山は何。一方では、もう行くこともないであろうあの山上での眺望はいかばかり、などの場合に、このソフトは大変な威力を発揮します。

他にも、いろいろな機能があります。詳しくは、このソフトをお作りになった「DAN杉本」（注：パソコン通信でのハンドル名）さんによる、インターネット・ホームページ「3D風景のページ」（下記URL）をご参照下さい。ここから、ソフトのダウンロードも可能です。また、大変詳しい説明があって、「ユーザズボード(掲示板)」に質問などを書き込むと、作者からの詳しい返事が頂けます。

<http://www.kt.rim.or.jp/~sugi/>

なお、このソフトは作者のご努力によって日々改良されており、12月下旬時点でのものはVer6.0 Beta 6です。本稿で掲出の図は、確かVer. 5.0で作った筈で、現在のバージョンによるものとは少し違います。

以下で、この多彩なソフト「カシミール3D」について、作者による解説を利用して説明します。



「カシミール3D」の概要

「カシミール(Kashmir)」は、山岳展望の解析、リアルな3D風景・景観CGの作成、リアルタイムフライトシミュレーション、ハイパーマップの作成などが可能な多機能ソフトです。

もともとはその名前が暗示するように、可視マップ（ある山が見える範囲を地図上にプロットしたもの）の作成を目的として、DAN杉本さんが1994年に最初に発表されたもので、充実した山岳展望機能のほか、現在のバージョンでは、3次元CG（コンピュータグラフィックス）の機能もパワーアップして、実景に迫るリアルな鳥瞰図を作成、ムービー作成をはじめとした機能、Ver.6.0からはプラグイン機能を搭載し、多彩な機能を後から追加することができるようになっています。

扱える数値地形データも、国土地理院の数値地図から、USGS（アメリカ地質調査所）、スイス地理局の地形データまで多種あるので、世界中の地形を楽しむことができます。

【動作環境】 Windows95/Windows98/WindowsNT4/Windows2000の動作する機種

【推奨環境】 Pentium 120MHz 以上 / メモリ20Mbytes以上 / ハイカラービデオ推奨

【3Dアクセラレータ】 DirectX5 以降に対応。なくても可。

【種 別】 フリーソフトウェア

主な機能には、次のようなものがあります。

各種デジタル地図を利用して、細部にわたってカスタマイズ可能な多彩な地図表現。

地形断面図の作成機能。

山岳展望機能：可視マップ（本稿のカラーコピー）の作成、見通しの判定、山岳展望解析など。
展望図（本稿で紹介の白黒コピー図）の作成。

2点間の見通しを一発判定：地球の丸み、気差の影響などを考慮して判定。地形断面も作成。

ある山や地点からの、見える山のリスト作成。

リアルな風景CGの作成：標高データから、リアルな風景CGを作成。雲や霧、レンズフレアも。

ゲーム感覚のリアルタイム3Dエンジンを搭載：あらゆる山や谷を自由に飛び回ることが可能。

各種データの作成：地名、湖、GPSデータなどを地図上に作成して表示。

ほかにも多くの専門的機能があり、計算速度などを見ても、パソコンを限界まで駆使しているようなソフトウェアです。

参考書など

以上については、小生も参画している「山の展望と地図」（FYAMAP：@Niftyのフォーラム）の有志が執筆した次の書が参考になります。どうぞ、ご覧下さい。

『パソコンで楽しむ山と地図』実業之日本社、1997年、2000円

第1部で、パソコンを前提にした、山と地図の解説。

第2部で、FYAMAPが関係した、代表的なソフト・データの解説。

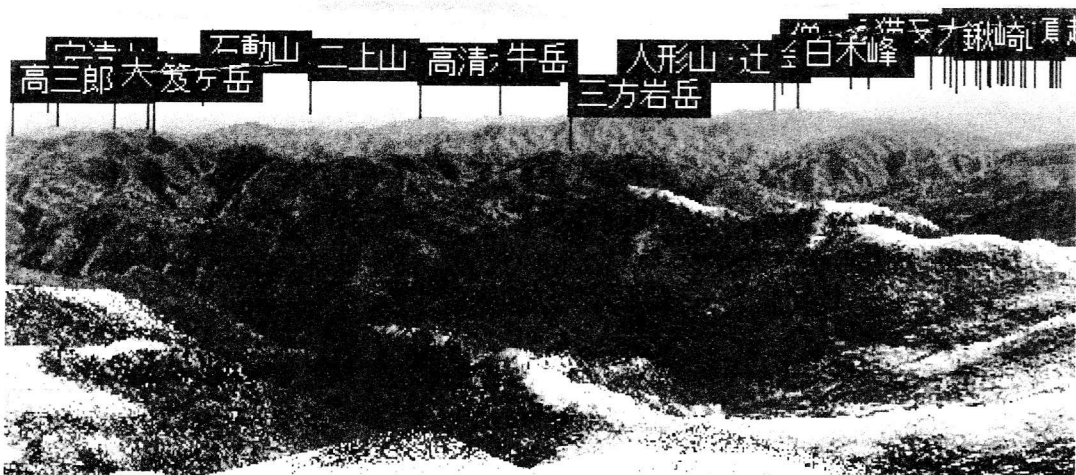
ここで紹介の「カシミール」以外にも多くのソフト。Mac版もあります。

『富士山展望百科』実業之日本社、1998年、2200円

富士山を見る、眺めるという点に絞って、様々な話題・情報・写真・データを集めた本。

第4編「富士を見続ける」は、富士山の観察、撮影、描画にこだわって。古地図の世界も。

なお、以上の説明またはソフトのダウンロードについてご質問があれば、あるいは、パソコンは不得手なのでどこかの山頂からの可視域図を作ってほしいなどのご依頼があれば、どうぞ遠慮なくご連絡下さい。



99年10月14日

10月9、10、11日と立山から入り、大日岳から称名へ抜けました。9日の午後
に金沢を出、「雷鳥沢ヒュッテ」で一泊、二度も温泉につかり、満天の夜空を眺め、
久々に流れ星にも出迎え、幸せな気分です。因に、30年前に「剣山
荘」でバイトをした際の色あせた証写真持参で、宿泊料が25%も安くなるという
おまけも付いていました。
翌日も快晴の中、写真を撮りながらのちんたら道中で「大日小屋」を目指しました。
10センチ程の霜柱が朝日を受けて、カサッ、カサッと崩れ落ちる音が耳に心地よく
響きました。室堂、雷鳥沢では紅葉は今一つでしたが、それを補って余りある剣の威
容、立山三山の姿でした。尾根道から眺める室堂平や噴煙をあげる地獄谷の景観もま
た、見応えのあるものでした。
我が故郷の山、白山も雲一つなく、くっきりと大きく輝いて見えました。風が全くな
く、ぽかぽか陽気の中、カップラーメンを作り、パンを焼き、温かい紅茶をすすり、
これぞ至福の極み以外の何物でもありません。
昼過ぎには、「大日小屋」に到着しましたが、先を急ぐこともなく、ここで一泊、時
間と共に変わりゆく剣、立山、白馬、雪倉、毛勝等々の姿を堪能しました。闇の中に
輝く早月尾根や白馬の小屋の明かりが、とても近くに感じられ、8月に登った白馬三
山の山行がなつかしく蘇って来ました。
御来光は物ぐさを決め込んで、小屋の前で、カメラ片手に、刻々変化する雲の色の美
しさと、その形の面白さに見とれてしまいました。
最終日、大日平への下り、下る毎に色鮮やかとなる木々の葉、対面の弥陀ヶ原の紅葉
の素晴らしさ、「今年の紅葉はあまり見応えがない」とは、とても言えないものでし
た。ここまで来た甲斐があったと思わせられるに十二分な美しさでした。でも、大日
平への下り、20米ばかり、道を外れて、沢に入ってしまった。でも、岩が乾い
ていたので、直に道を外れたことに気が付き、事無きを得ましたが、これが雨に日だ
ったらと、ぞっとしました。単独行はこんな時が、怖いですね。
とにも角にも、無事称名に下り立ち、豪快に流れ落ちる称名滝に別れを告げ、今年の
紅葉見物も無事に終わり、後は、写真の出来具合を、期待半分、不安半分で待つのみ
です。 7期 村田

北

国

平成11年(1999年)11月6日(土曜日)

石川総合1

(34)

繊細、鮮やか 個性光る



写真

村田泰恵さん

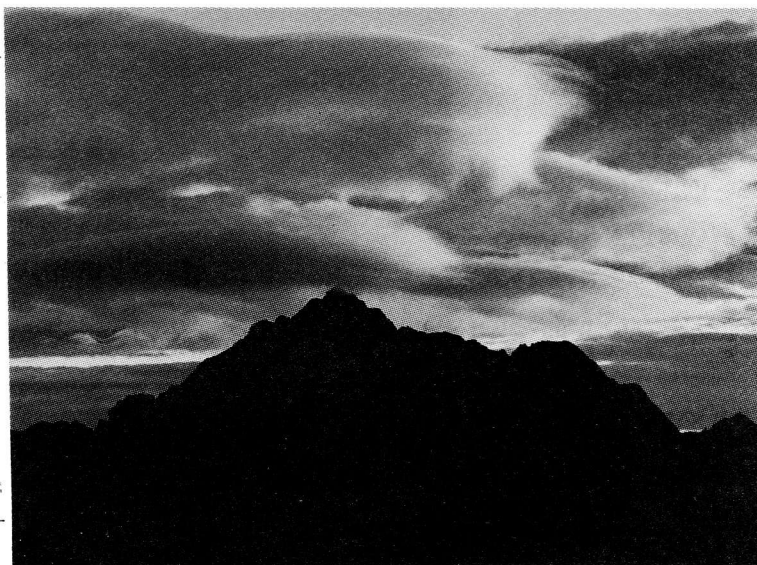
最 高 賞

入賞・入選作品は部門別
に、第一科(日本画・水墨
画)十六点、第二科(油彩
・水彩・版画)百二十八点、
第三科(彫塑)二点、第四
科(工芸)三十点、第五科
(書)八十七点、第六科(写
真)三十五点だった。入賞
・入選作は十一日から十五
日まで、金沢市の香林坊大
和八階ホールで展示され
る。入賞・入選出品は次の
皆さん。

北國女流美術展

11日から
香林坊大和

第十四回北國女流美術展(財団法人石川県美術文化協会、北國新聞社主催、テレビ金沢、エフエム石川、
北國新聞文化センターなど後援)の作品審査は五日行われ、最高賞に水越八寿子さん(日本画)、南部志津
子さん(洋画)、所司郁世さん(彫刻)、川元恵美子さん(工芸)、出村礼子さん(書)、村田泰恵さん(写
真)の作品が選ばれた。入賞を含む入選者は二百九十八名だった。



◇写真▽金沢市長賞

神々の刻

村田 泰恵

ベルクハイムの給排水設備 についての考察

山小屋酒場代表おやじ

13期 辰野 隆義

今回の作業で、ベルクハイム回りの給排水設備工事は一応完了した。

生活に必要な水を引いてくる工事、そして念願の水洗便所。実に3年の歳月と、多大な人力を要した工事だった。

この間御協力くださった方々に深く感謝申し上げます。

さて、山小屋作業が一つの節目を迎えたところで、これまでの給排水設備工事について振り返り、若干の専門知識を加えながら、考察してみようと思う。

1. 給水設備計画

数年前までの現役部員は、ベルクハイムには水がないものと思っていたらしい。が、我々の現役の頃は、小屋の前にはパイプを通して水が滔々と流れ出ていた。

しかしこの水道は、秋の小屋仕舞いには長いパイプを巻き取り、春には再度設置するという厄介なものだった。そのうえ、取水口はパイプをそのまま沢に突っ込んだだけ。砂や枯葉などの異物も吸い込まれるため、配管途中で詰まるのが当たり前。切っては継ぎ、切っては継ぎの名入芸ならぬ迷人芸が施されたパイプは満身創痍のつわものとなり、いつか横たわるのみとなったのである（作業中に少しずつ焼却処分しました。）

ベルクハイムの立地条件に、前述の反省を加え、「なるべく手間のかからない水道」を目指し、立案した。

イ) 取水口。枯葉等の異物が混入しないよう、ステンレス製のストレーナー（網カゴ）を設ける。後で分かったことだが、カゴが砂で埋まってしまった時の再調整の便宜のために、蓋をも

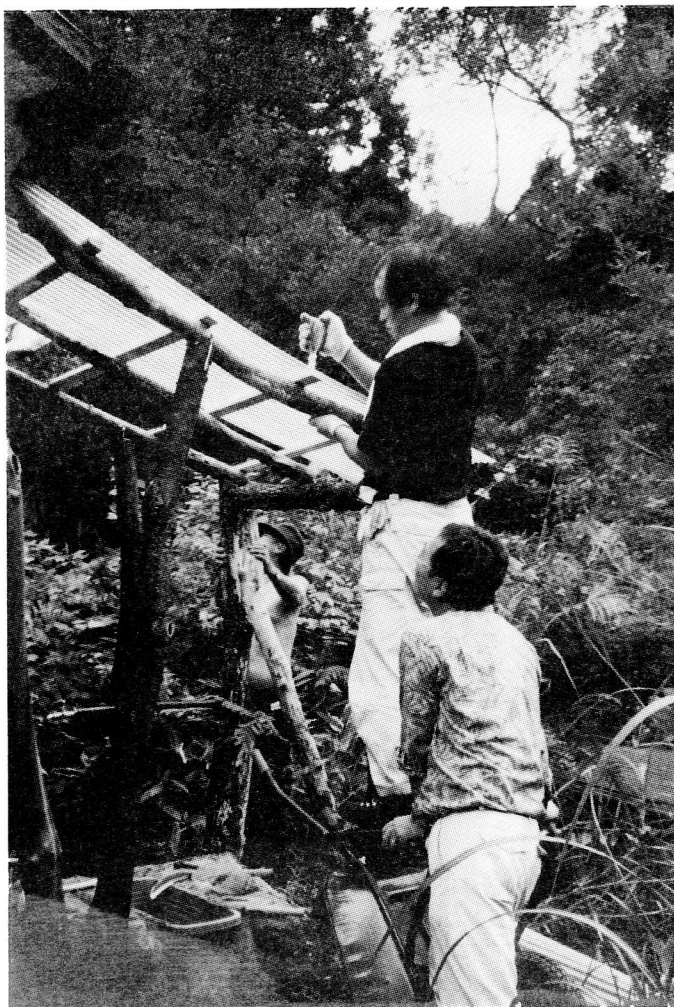
っと外し易くすべきだった。一度大雨でカゴを流されてからは、蓋はつけていない。

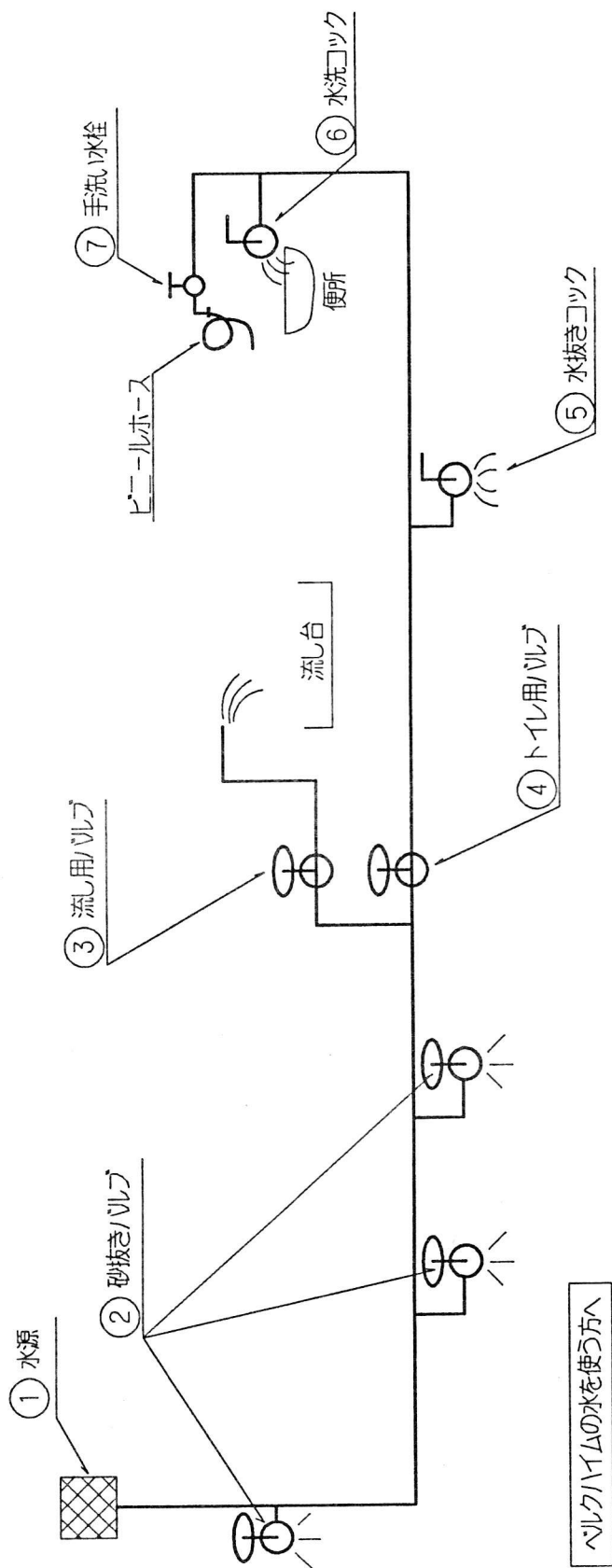
ロ) パイプの選択。現在では多種の配管材が市場に出回っている。扱い易さ、価格、可とう性、重量などから、昔と同じポリエチレン管とした。管径については、詰まりにくい水量を流せ、扱い易い（現場までの搬入と、現地での施工）の観点から25mm又は30mmが妥当と判断。

参考までに、給水に使う配管は9、13、20、25、30(32)、40、50、一等とあり、一般家庭の引き込み径は13ないし20mm、洗面台下の銀色パイプなら9mmとなる。流量でいえば、30mmポリパイプが毎分50-70lでこれは家庭風呂を4分以下で満杯にできる量となる。（目ではもっと多量に流れているように見える）

昔使っていたパイプは20か25mmだと思えるので、今回は30mmにサイズアップ。途中の詰まりを発生しにくくする対処とした。（これは大正解だった。）

ハ) 施工 配管途中での詰まりチェックと、砂





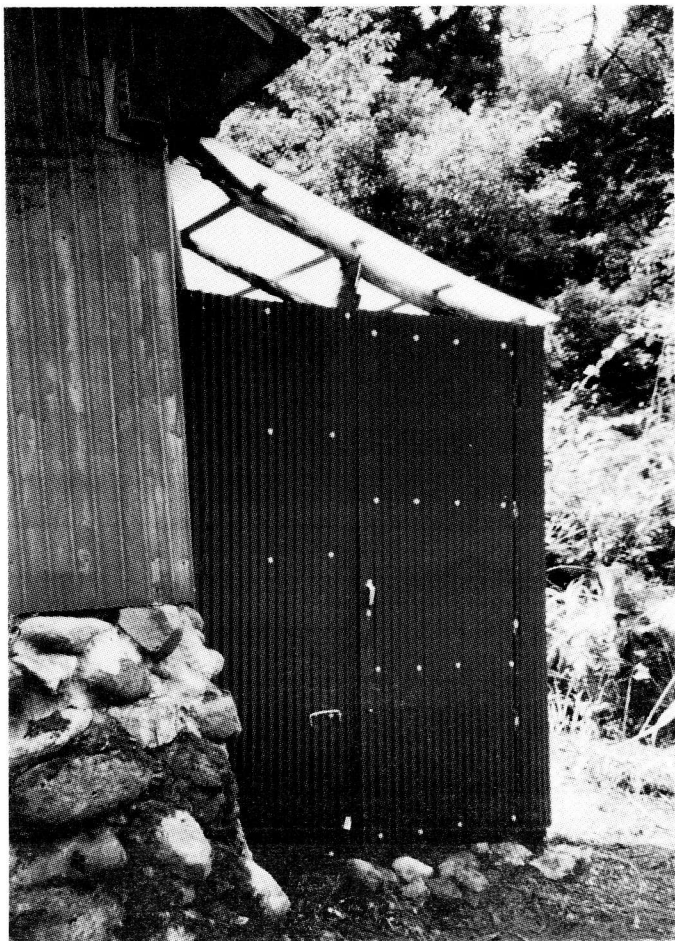
- 1) 流し台に水が出ていない場合は、① 水源へ行き、ステンレスかごの中の砂や枯れ葉等を取り除いてください。この時、絶対素手で作業をしないでください。
ステンレスのネットを手を切る恐れがあります。
- 2) その後、砂抜きバルブ ② を順に開けて、水が流れていることを確認してください。この時、水が出ないバルブがあれば、それ以前で配管の詰まりがあるので、探して木槌でたたく等してください。水を確認してから、バルブは閉めてください。
- 3) バルブ ③④ は開けておいてください。
- 4) コック ⑤ (かまどの奥にあります)は水が流れ出ないようには開けておいてください。

便所を使う方へ

- 1) 天然水水洗ですので、使用前からコック ⑥ をまわして、充分水を流しながら、汚物、臭い、音等を洗い流してください。
- 2) 手を洗うとき、または意に反して汚した場合、水栓 ⑦ を使って洗い流してください。

帰るとき

- 1) バルブ ④ を閉める。
- 2) コック ⑥ と水洗 ⑦ を開け、水抜きコック ⑤ を開けて配管の中の水を完全に抜いてください。これを忘れると、凍結して配管が破損する恐れがあります。



除去のため、3ヶ所の水抜きバルブを、砂が溜まり易そうな箇所に設置した。しかしながら詰まり防止の為に十分な流量が、流し口では大量すぎて使いにくいという事態を招いた。この為、手前に分岐配管を設けて、2個のバルブの調整により適量を得られるようにした。

この時の単なる思いつきで設けた分岐管が、次の段階で、水洗便所の発想を導き出すことになったのである。(添付図参照)

2. 便所給排水設備計画

給水設備が一段落となり、いよいよ常設トイレの設置が目標となった。これも昔は水場へ行く入口にトイレ小屋があった。今は朽ちたトタンの痕跡が僅やぶに紛れているのみである。

イ) トイレ仕様 これはいろいろ考えた。まず昔ながらのボットン便所。不潔、能なしで、論外。ベルクハイムの地形を映写機のごとく総なめしているうちに、ふとカメラアップされたのが、先の水量調整用分岐配管。あれを使えば、

水洗便所が作れるのではないか。

時代の趨勢は水洗便所であり、水洗便所に決定まではすんなり。あとは現地の特殊な状況を考慮しての方法論となる。平地で便所を作るような訳にはいかない。便器の材質の問題、凍結の問題—以上については、以前の会報に掲載してあるので省略する。

ロ) トイレ給水 どうせやるなら、便器に水を流すだけでなく、手を洗ったり、汚れを当事者に始末していただけるよう、水栓を付け、ビニルホースもつけよう。便器へはコックを90度回すだけで水が流れるようにしようなどと、楽しく考えることができた。

冬の凍結防止対策は配管の水を抜くこと。これが原則である。配管分岐のバルブから先で、最も低い場所(カマドの奥の所)で水抜きバルブを設け、冬前に便所の水を抜くようにする。

ハ) トイレ排水 これが一番問題である。計画では山小屋から離れた場所に大きな穴を掘り、洗浄した水ごと溜め、地中のバクテリアで分解させる方法をとることにする。

ニ) 現場施工 給水配管は何も問題なく施工完



了。排水は、まず穴掘りで問題発生。木の根や
笹の根で、削掘不能。急遽変更し、斜面上の配
管をなるべく下まで伸ばし、そのまま放流する
ことにした。一年間に使用する量はそれほどな
い為、これでも十分と思われる。

(编者注：もし、問題視される程になったら、
その時は嬉しい悲鳴をあげて、やり直しま
しょう。召集責任者やります。)

以上の経過により、ベルクハイムの給排水設
備工事は完了した。最後にベルクハイムに設置
しておく予定の説明書を添付しておく。

これまでの工事で、材料の調達、施工面で多
大な努力をしてくれた13期大島君に、最大の感
謝の意を表します。

3. 米春山小屋酒場作業予告

毎回、帰り際に、次の作業は何をするかを相
談して決めるのですが、今回は相談するまでも
なく、床板の張り替え作業となりました。奥の
方から床の合板が腐ってきており、恐くて踏め
ない状態です。次回は多数の人手が必要となる
ことが予想されますので、是非皆様、ご参加下
さいますようお願い申し上げます。

13期 吉田 穂積

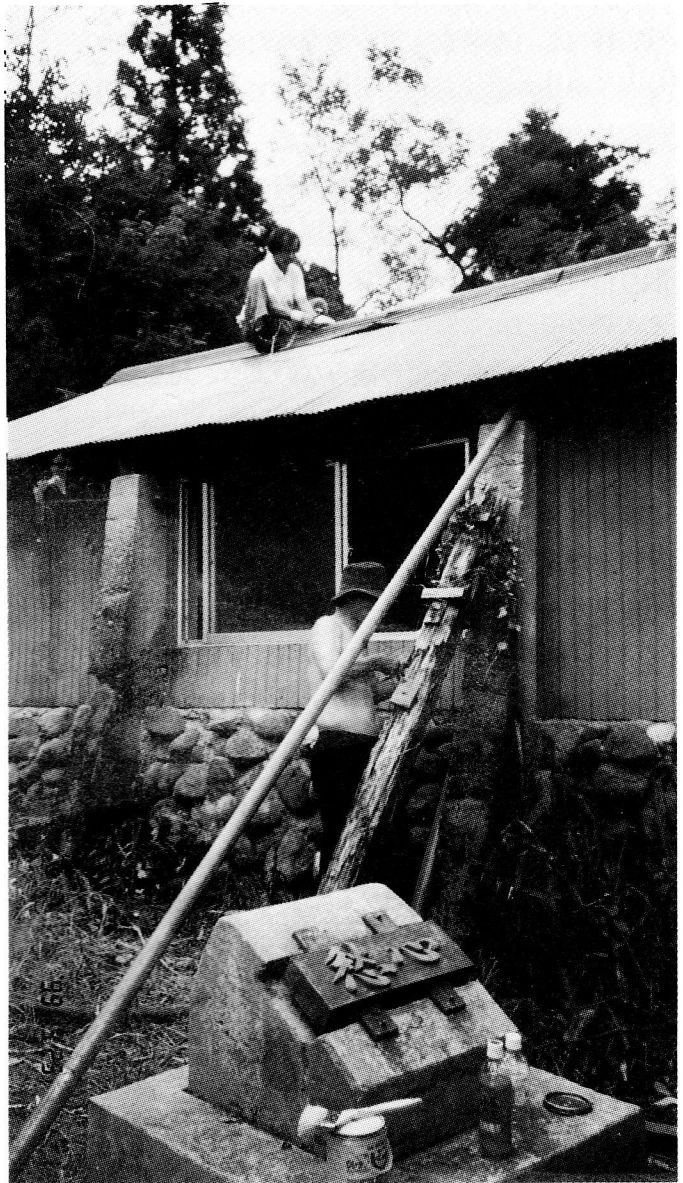
山小屋作業に皆と一緒に朝から入るつもりで
いたが、仕事の都合で、屋に一人で入ること
になった。

ダムには数人の見物客がいたが、それより先
は誰にも会わない。

ベルクハイムに近づくと、金槌の音。やって
る、やってる。登って行くと皆それぞれ持ち場
で作業をしている。

吉本が屋根の上でトタンを張っている。あれ
っ、一週間前、現役の人達が修理してくれた筈
なのに。

(実は、一週間前、次回の山小屋作業に必要な
材料をメモっておいた手帳が見つからず、や



むなく倉谷へ調べに来た。その時、ベルクハ
イムの棟のトタンが2枚程飛ばされて、空が
見えていた。登山道整備作業を終え、下山し
ベルクハイムで休んでいた現役達に、時間が
あれば直しておいてくれないかと頼んだ所、
疲れていただろうに、すぐ修理に取りかかっ
てくれたのだ。)

波トタンの底側に釘打ちしてあるものだから、
雨が溜まって漏れるので、釘を山側になるよう
打ち直しているのだという。なるほど。荷物を
降ろして、早々にトイレ建設作業に加わった。

前回、刷毛がないので、枝の先に軍手をくく
りつけてクレオソートを塗ったが、はかどらな
いので、しまいには軍手を手に嵌めて缶に突っ
込み、柱を握るようになってまで塗ってきた。と

ころが、樹皮は割りと簡単に剥がれ落ちてしまう。柱はしっかり立っていてくれたが、クレオソートの染み込んだ樹皮は剥落しており、前回の作業は全くの無駄となってしまうていた。

トイレ屋根の透明アクリル波板の取り付けから手伝う。ベルクハイムの屋根と連続する形で取り付けのだが、結構急で、軒先に座り、つんのめりそうになりながら、こわごわ釘止めする。アクリル波板を踏み破らないよう、足を懸け、先端の方も釘止めする。

下から芳しい甘い香りがしてきた。「おやつですよ」の声。舟田さんの焼いてくれたホットケーキである。でかい食器にナイロン袋入りのインスタントコーヒーで、アララと目分量を誤る。えらく苦くなってしまったコーヒーに砂糖と湯を継ぎ足して飲む。こじんまりとした穏やかな時間が流れていく。

一服してから、トイレ側壁工事に取り掛かる。曲がっている柱に桟を段違いにならぬよう下駄をかませながら打ちつけていく。ついで波トタンを波打たぬよう、あるいはコーナーで傾かぬよう、調整しながら打ちつけていく。案外うまくいった。

谷間の日暮れは早い。薄暗くなって奥名が秋刀魚をベルクハイムの前で焼く。ビールの空罐に金網を載せ、カセットコンロでも遠目の強火

のこだわり。すっかり暗くなって、魚も焼き上がり晩飯だ。舟田さんの心づくしの料理である。大出さんの思い出、田村さんの峠での熊との格闘、辰野の石川動物園の仕事の話などなど聞きながら、罐ビールと少々のおかずで腹一杯になってしまう。胃がずいぶん小さくなってしまったのが残念無念。

今日の田村さんはおとなし目である。皆も作業で疲れたのか、早めの就寝。明日のトイレ完成を楽しみにしながらシュラフにもぐり込んだ。

秋の山小屋酒場

9月25日・26日

参加者 辰野 吉田 吉本 (以上13期)

田村 (0期) 奥名 舟田 (15期)

15期 舟田 節子

またしても台風 (18号) にヤキモキさせられたものの、今年最大の台風は前日夕方に通過。ひとまず、台風一過—ということになったのでした。

また遅刻かと、大島さんに電話したら「来週かと思っていた。もう医者に予約いれてある」



奥名 田村 吉本 吉田 辰野

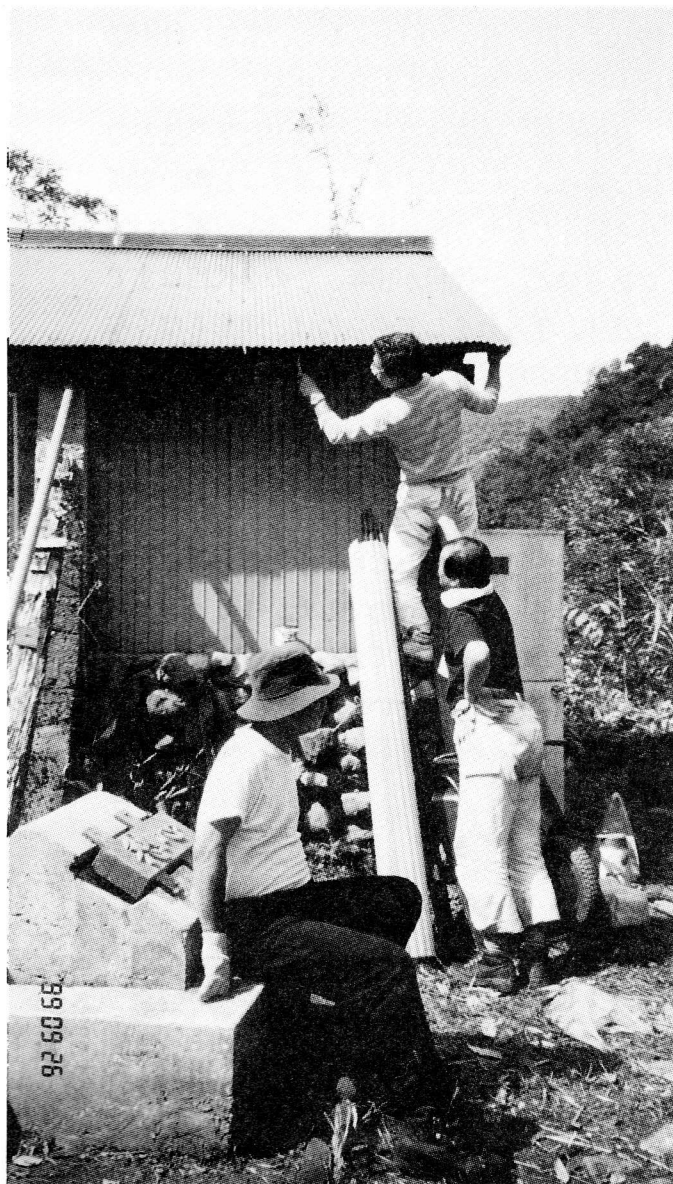
撮影: 舟田

でバス。この大物ぶりがハハ。(いえ、新トレ事故後のたいへんな時代を支えたのも、OB会というとんでもないものを支えぬいたのも、大島様の器でありました。私は利屋町に足に向けて寝てはおりません。)穂積さんは急患が入り午後入山ということで、辰野カー1台でゴー。途中、恒例の場所でビールを仕入れるも、かなり数を吟味。持てないというより、もうそんなには飲めないーが現実でありました。ついでに喫煙者もいなくなりました。煙でテントの中の向こうが霞んでいたことも、もう昔話です。

例の崩壊箇所は路肩も新しく、難なく、通過できました。(現役の出発前のうちにちゃんと電話で確認しました。当たり前のこと聞くな風のいじっかしそうな口調が返ってきて、少しいじけました。)屋奥方面にはまだ雨雲がふわりでしたが、行軍と共に後退。ひとまず、傘なし、合羽ズボン入り状態で、ツリフネソウ、ハクサンアザミの咲き乱れる道を歩きました。崩壊の進んだ箇所もありましたが、長雨続きだった昨年に比べれば、並の経年変化といった所。

先週の現役達の作業で、大々的に刈り開けされたBH。やはり人のいた形跡があると心嬉しいものです。連絡通り、戸の蝶番が外れ、小屋奥には数箇所踏み抜いた跡がありました。入ってすぐの所も濡れて合板がまくれかかっています。根太は大丈夫で、ともに上からの雨漏りが原因のようです。

まくれていたトタンは吉本さんが屋根に登って打ちつけました。小屋の反対側にロープを縛り、屋根を乗り越させて、それを手繰って屋根に攀じ登られました。ここへ来るといろんな智恵に感心してしまいます。デスクワークのハイテクは、智恵や達成感を奪っている気がします。知人の日本最良ドイツ人はたっぷりの余暇という雇用情勢の中で、和様座敷の手作りに凝っていると聞きました。OBのノスタルジア?こだわり?いえ、積木を手にした幼児の目の如きキラキラ…21世紀の趣味を先取りという雰囲気です。ただ、こうなると、バッサリ、ギーコギー



コ道端に捨てておけの伐開とは違い、手順、強度、技術諸々が必要になり、相応の人夫の質が求められてしまいます。そこで、教祖様と私は使いっぱなしで汚れて溜まるだけのビニルシートを拡げて、拭いては畳みの、結構果てしない仕事の方に専念しました。

穂積さんも到着されて、トイレ大作戦のドンパチはさらに高らかに静かな倉谷に響き渡ります。援護射撃は「来た時よりも太らせる」のが使命の、ちょっと焦げたなホッケーキです。

やめられない!とまらない!も暗くなれば、上がりで、夕餉です。ガスコンロも随分傷んで、小屋酒場の年季を物語っています。ロウソクの光、そして外にはまぶしいほどの十六夜の月。皆さんそろって会社やサークルでは唯一の携帯

持たず人間になっているらしく、あるいは小屋好きの人ってそうかもしれません。

夜中には、台風は過ぎた筈なのに??ほどの雨が降り、ついにはポタッ、ポタッと例の箇所から雨がしたたり始めました。バケツをおいてなあるほど。一代目が10年、この2代目はすでに25年。手入れをしてやらねば、跡形もなくなった倉谷の廃屋群と同じ運命をたどることでしょう。建て直すなんてほぼ不可能であるからには、早め早めに修理していかなば。

翌日は、「仕事をしなさい」とばかりに、これまたカラッと晴れたのでした。トイレ作りはいよいよ佳境に入り、「ありゃ、遊んでいるんだよ」と苦笑するくらい楽しそう。釘の一本一本も丁寧に曲げて、最後にはペーパーホルダーもつけて、ついに完成したのでありました。

あっぱれ、お見事。ちゃんと試してみました。赤いレバーをひねれば、水は滔々と流れ、音の心配も匂いの心配もなし。思わず笑っちゃって、腹圧もかかり、出のよくなるトイレです。

今夏北アへ行って、どの小屋も水回りが快適、

清潔になっているのにびっくりしてきました。中高年登山ブームの現在、山は不潔でも当たり前がもう通らないのでしょうか。そして、確かに、水回りが快適というのは、心安らぐことで、疲れが癒されることでもありました。小屋にトイレあるいはなくてもと思えぬこともなかったのですけれど、現に出現してみると、ふつふつと、これから小屋の新しい時代が始まるの予感が湧いてくるのでした。

帰りのダムからは高三郎が見えていました。今年も登山道整備がやれた、そして遊び心満点のトイレも出来た。来春も再見！

後日談--15期入部30周年イベントは、ここ倉谷で中年トレーニングを行うと決まりました。舟付場から小屋まで資材を運び上げ、トイレも使いまわります。

おりしも2000年ミレニアム。おしきせミレニアム品をデパートで購入するより、BHにミレニアムの汗を落としてみませんか？そのことにピカ一の満足を感じるあなたがいる筈です。



コンロはこんなことにも使われます。ホースの破損部には接合器具が両端にセットされ、完璧に補修されてしまいます。

0期 田村 昭夫

(お読みになる前の予備知識)

道路工事のため今春の小屋酒場が中止となったのは前号にお知らせのとおりです。よって小屋のわずかな備蓄食糧は夏をも越して、ワンゲル規格にも適応できない物品となり、焼却及び廃棄処分を受けました。そのうちのカップ麺ビッグサイズ6個を、これはもったいないのではないかと、教祖様は隠匿ならぬ明匿されて、ザックにお詰めあそばされたのです。

その晩は芸者衆も愛用のひがし湯で垢を落とされ、歴史博物館前の芝生で立待ち月を愛でられました。翌日は長岡のお嬢様のもとを訪ねら

れるとのことで、事務局長宅で一杯のお湯をご所望になり、先のうちの1個をお召し上がりになった---その後の御話です。)

拝啓 舟田事務局長殿。即席麺をお宅で御馳走になってから、武蔵ヶ辻まで来た時、突然腹に異常を覚えて、名鉄デパートの便所へ駆け込みました。山小屋の年越し麺の効果はてきめんでした。娘の所で残りのめんを全めん的に調べたら総て、カビ入りめんでした。

そこで新たに教義がヒラメキました。

「めん喰い」を認ずる諸君、その中身をよく調べなさい。 敬具



13期 吉本 良治

ふるさとの山々 (卯辰山、医王山、そして白山)

山は眺めるだけ、せいぜい春と秋の山小屋酒場の2回山靴に足を通すだけとなった今、紙上で思い出と共にふるさとの山々をトレッキングして見ます。

わが家は金沢市の隣、松任市の郊外の田園地帯の真ん中にあります。外に目を向ければ左から医王山、戸室山、倉ガ岳、そして正面に獅子吼高原さらにその右に白山が見渡せる絶好の場所にあります。(私の知識では白山主峰から右につながる山々の名前はわかりません)さらに通勤途中の手取川を渡るあたりから笈ガ岳の尖鋭な姿を眺めることができます。これらの山々には金沢に生まれ育ち、ワンゲルを卒業した私にとって多くの思い出が詰まっています。

金沢市民にとってもっとも身近な山は「卯辰山」です。

春の花見、遠足、そして今はなくなってしまう金沢ヘルスセンターなどこの山と市民との関わりは親密なものがあります。それに昔は横空台の北側の斜面を利用したスキー場もありました。(リフトなんてものはありませんでしたよ)

私にとっては小学生の「林間学校」が最も印象に残っています。当時虚弱体質だった私は4、5、6の3年間、夏休みの度に林間学校へ通ったものです。天神橋でバスを降り今の金沢ユースホステルのあたりで設営されていたテントまで毎日歩いたものです。おかげで徒歩コースの途中にある顕彰碑や文学碑は今でも記憶しています。それ以外はテントで昼寝をしたことしか覚えていませんがね。

もちろんワンゲルで奥卯辰山健民公園(大学1年のときまでは金沢ゴルフクラブだった)までトレーニングのため走ったことも鮮明に記憶しています。特に子来町付近の長い昇り坂の辛かったこと。

近年は奥卯辰山墓地公園に年に数回墓参に行き、帰りに健民公園を散歩したり望湖台から金沢市街を眺めたりする程度です。もちろん徒歩でなく車で

金沢市を代表する山は「医王山」でしょう。

残念ながら高三郎山でも大門山でも金沢市の最高峰である奈良岳でもありません。医王山、犀川、浅野川の3点セットは多くの小中学校の校歌や校章に使われていますし、市街地のどこからでも眺めることのできる戸室山をしたがえた左右対象の特徴的な姿は覚え易いからです。

私にとって遠足ではなく山登りとして初めて登ったのは医王山です。子どもたちにとっては中学生で医王山に初めて登るのが普通ですが、私の場合はなぜか高校1年生の夏でした。同級生のY君、T君の2人と国鉄バスで加賀二俣まで行き鷹岩を経て頂上へ、帰りは多分見上山荘前からバスに乗ったのだろうが記憶がありません。記憶しているのは途中でT君からもらって飲んだ「コカコーラ」の印象だけです。初めてのコカコーラの味は「**???!!!」でした。

この時の経験が私の「ワングルへの原点」です。同行したY君と後にワングルへ入部したのだから。

先日の山小屋酒場の夜に田村教祖が「ワングルで初めて登った山は医王山だった」との話があり、同じ原点なんだなと思い本稿を記すきっかけの一つになっています。以後は新入生歓迎登山、新2トレでの山行くらいであり疎遠になってしまいました、活動の中心はベルクハイム、高三郎山にありましたから。

先日、富山県の「イオックスアローザ」温泉の帰り道に、同行した家内に「富山県の人たち特に福光地方の人たちにとって医王山は富山の山なんだよ」との話をしたところ、私と同じく金沢育ちの家内にとっては信じがたく、許されないことでした。曰く「医王山は金沢の山です」同じ論理で「白山は古来より”加賀の白山”であり、石川県の山です。」となります。これが県民特に金沢以南の人たちの思いでしょう。

ふるさとの山の代表はやはり「白山」です。

御前峰でも大汝峰でもなく「白山」なのです。初めて登ったのは確か1年の時ワングル10周年記念登山だったはずです。白山については語り始めればきりがなく、それぞれに思いでがあるはずです。深田久弥は日本百名山のなかで「加賀の平野でも、私のふるさとの町から眺めるのが最上であることを、私は自信をもって誇ることができる。」と書いているが、私は大聖寺からの眺めより松任平野からの眺めの方が素晴らしいと自信をもっていうことができる。

山から足が遠のきました。毎年同じ時期に必ず訪ねるところが2カ所あります。一つは水芭蕉の時期の大嵐山です。最近是有名になりすぎ花より人の数の方が多いように感ずる時もありますが、丸山や大倉岳より容易に水芭蕉を見ることができます。

もう一つは石川県林業試験場の樹木園です。桜の時期、かたくりの時期に樹木園、獅子吼高原の麓、白山さんとめぐるのは里山の自然観察が手軽にできて楽しいものです。

これからは少しずつ、自分の足でふるさとの山を巡って見ようと思っています。機会があれば今度は卯辰山から医王山につながる山々を紙上トレッキングしてみます。



平和な時代に「召集令状」を出しました。私からの封書が恐ろしい方も既に発生しているようですが―それなりに「白羽の矢」なのですから、宝籤でも買って腹いせして下さい。

従来、山に登るOBは、暇かあるいは職種の恵まれているか、かなり特殊の側に属する―らしき傾向がありました。下っ端故、あるいは上司故、登れないと諦めている方もあられるかと存じます。そんな中で、職場ぐるみで、職場から見える山々にチャレンジの森島様からの原稿は、まさに待ちこがれていた類の原稿でした。

さらには、原稿掲載料まで同封いただき、心おきなく写真の網掛け掲載を行えました。ご配慮の数々ありがとうございました。

鈴鹿 7（セブン）マウンテンを制覇！ 4期 森島 稔

はじめに

原稿の召集礼状が来た。船田事務局長からの督促状である。7月に転居通知を出したとき「そのうち送る」と書いたことを事務局長は忘れていなかった。恐るべし！滅多なことはいわないほうがよいという証明である。しかし、私自身もこれが頭から離れず、7月以降重荷になっていたので、意を決して書き始めることにした。今も長野から名古屋に向かう特急「しなの12号」の中で書き始めたのである。

私が三重県の四日市市と桑名市に挟まれた川越町にある「中部電力川越火力発電所長」に着任したのは平成4年の夏のことであった。

その時は発電所の規模が70万KW2機であったが、世界でこの2機しかないという最新鋭のプラントをもつ発電所で、平成元年に1号機が営業運転を開始した発電所である。そして着任して1ヶ月後に3、4号機の増設工事を開始するための建設事務所が併設され私は所長兼務である。

21年ぶりの火力発電所勤務でしかもいきなり責任者ということになり、どう振舞えばいいのかわからないまま、とにかく自己流で、「わかりやすいこと」を主眼に300名あまりの所員を引っ張っていた。

毎年の新年祝賀式には年頭宣言をすることとし、具体的に、「年間に単行本50冊読む」「プールで年間1万メートル泳ぐ」「映画館で映画を12本以上見る」「毎週7万歩歩く」「ゴルフに20回以上いく」などなど。これを、私の語録としている「有言実行」の実践として毎年宣言していたのである。（余談ながら「私の有言実行は」「有言すなわち公言・広言すれば実行される」であり、年頭の宣言も、公言することにより一年中、みんなから「・・・やりますか？」などといわれることになるので実行する確率が高くなるものである、ということである。したがって順序も「有言実行」「有言不実行」「不言実行」「不言不実行」の順になるのである）

さて前置きが長いが、平成11年1月4日。7回目の新年をむかえることになったが、もうネタもきれてきたし、大きい数字は無理だな、もっと小さいので・・・と考えているうちに「7」が浮かび、「鈴鹿7マウンテン」がひらめいたのである。

鈴鹿はホンダでも有名だが、鈴鹿山脈は滋賀県と三重県の県境にあり、ほとんどが1000～1200m級の連山でそのうちの7つを選んで7マウンテンとして宣

セブン
『鈴鹿7マウンテン踏破スケジュールについて』
“99所内各課TRY NEXT企画”

<主旨>

見学に来所されるお客様に、発電所から見える鈴鹿山脈を説明していますが、その山々に実際に登って見れば、説明時に心が伝わるはず（説得方向上）と考えています。

川越火力の思い出に TRY NEXT!!

よって、所長のスケジュールを作成し各課と調整したいと考えていますので、よろしく申し上げます。

<参考>

時期的なもの：3月後半まで雪が多く、雪が固まっているとのこと、よって、より安全に登る場合アイゼン等が必要。

：4月初旬から中旬まで雪は残っているが、春の花が咲き始める頃であり始めとしては良い頃・・・

：5月もう雪の心配はなく、新緑、花の咲き始め。

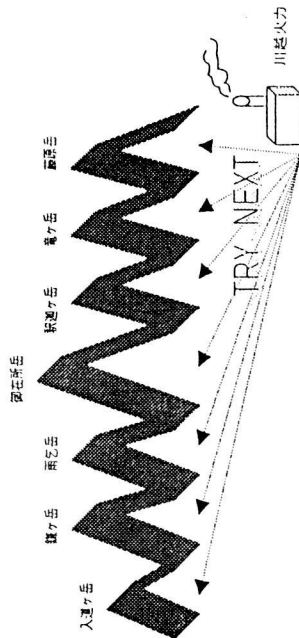
：6月晴天事は5月同様、しかし、雨が心配。

：その他、安全性、景色等を考えると4月中旬～6月中旬（梅雨前）の正味2ヶ月で計画するのがベターと考えます。

<スケジュール表>

3月から6月の間の土日および祭日と電力館については休館日および全休日の日におちを入れてあります。

御都合のよい日（予定）に○印等を記入願います。



7マウンテン	計画部署	3月							4月							5月							6月										
		(土・日・祝日：丸数字)							(土・日・祝日：丸数字)							(土・日・祝日：丸数字)							(土・日)										
御在所岳	所長室	6	7	13	14	20	21	22	27	28	3	4	10	11	17	18	24	25	29	1	2	3	4	5	6	12	13	19	20	25	27		
雨乞岳	総務G																																
入道ヶ岳	保修課																																
秋迎ヶ岳	LNG課																																
竜ヶ岳	発電課																																
藤原岳	環境保安課																																
鎌ヶ岳	電力館	8	15	19	23	23	29	29	5	12	12	16	19	26	6	10	17	21	24	31	7	14	18	21	28								

◆計画部署の実施内容：①行動計画詳細立案（所長との詳細打合せ、山でのイベント企画等） ②所内周知（個人参加の募集）

伝されている。私が中部電力に入社し会社人生のスタートを切ったのは四日市市内の「四日市火力発電所」で、私の入社直後に完成した同期？の発電所であるが、当時は当直勤務であったので、夜勤を終えると寮でおにぎりを作ってもらい、そのまま若手を引き連れ鈴鹿の山に登っていたもので懐かしい山である。

会社人生も終盤になり今年が年貢の納め時と考えると、われながらよき目標と悦にいったものである。

こうして宣言したあと、あらたな動きが始まった。かねてから進めていた「川越火力発電所10周年記念行事」とリンクして所大の行事に格上げすることになり、所長の個人の目標から所全体の行事になったのである。こうなると動きが速いのが会社の特徴である。まず7つの部署にわけ、アミダクジか何かで責任分担が決められたのである。私の知らないところすべてが仕切れ私は日程調整だけになってしまった。

①御在所岳^{ごさいしょ}（1209.8m） H11.2.20（土）

最初の分担は所長室。所長・副所長、5名。御在所岳は7マウンテンの主峰である。

時期は冬。冬山から始めるとは思っていないところへ幹事の副所長は目をつけた。スキーでもやる気か？ 事前偵察する人が出てくる。（このときから必ず事前調が行われることになる）

実行当日、天気はまずまず。御在所岳の麓は歴史の古い湯ノ山温泉があり、山頂までロープウェイがある観光地でもある。

麓を少し歩いて蒼滝を散策、防寒衣に身を包み万全でロープウェイに乗る。（あれ登山でないの？） ロープウェイ頂上駅では気温低く寒いが樹氷がまぶしい。

スキー客のゲレンデの端をラッセルして山頂へいく。三角点まで斜面を歩く。スキーヤーは不思議そうな顔をしつつ迷惑そうであったが無事？山頂を踏む。

この日の参加者は所長室2名、友情出演3名の5名。



頂上からスキー場に戻ると天候は急変して吹雪になった。避難小屋で早速持参した酒、肴を出し宴会の開始。スキーヤーは吹雪の中でも滑っていて入ってこないのが我々のみで盛り上がる。いいかげん酔ったところでロープウェイにて下山。麓にはなじみの旅館があり女将に頼んで温泉に入らせてもらう。

かくして鈴鹿7マウンテンの第1号が終了した。いいのかな？

案の定、翌週、所内では「そんなのあり？」という声が・・・

「山に登る」といったのだ。「くやしかったらロープウェイをつけたら？」

所長室が御在所をひき当てたのは天の助けかも。

(この後、最終回に御在所に登りなおすこととなっていたが実行されなかった)

②入道ヶ岳(906.1m) H11.3.6.(土)

朝から快晴。近鉄四日市駅から貸切バスに乗る。40名も集まったら臨時バスを出してしてくれるという。幹事の腕である

登山口は椿大社という大きな神社の裏になる。この椿大社は猿田彦を祭る伊勢一ノ宮である。「一ノ宮」の名称は各地にあるがここは伊勢の一宮である。

この椿大社は中部地区では工事関係者などにも有名で我々も毎年一月に発電所の行事として参拝しているなじみの神社である。

(ちなみに大社という名は条件があるようで簡単にはつかないそうである。大社と名のつく神社を数え出してみてもらえばわかる。出雲、多賀・・・)



のっけから急な石段を登ることになる。コースは北尾根コース。事前偵察隊の資料では「ハイキングに毛が生えた程度」とあったものだから早速参加者から「どんな毛や？」と怒ること、怒ること。私は相変わらずマイペースで歩く。

今回は必修課の担当なので若者が多い。30分遅れて登山開始した連中が30分早く着いて頂上で昼食をしている。我々は2時間半行程で頂上である。標高は906.1mと高くはないが眺めはすばらしい。伊勢湾を眼下に見下ろす。川越火力発電所の煙突(200m)やプラントが平野にひときわ目立つ。

頂上で詩吟(後述)を朗じ、二本松尾根コースを下山。麓の椿大社附属会館一風呂浴びて宴会。どうやら下山したら風呂・宴会が定番になるようだ。

③竜ヶ岳(1099.6m) H11.4.17.(土)

分担は発電課である。所内でもっとも所帯の大きい課であるが大半は3交代勤務者であり、参加者はそれほど望めない。

4/10に計画したところ雨のため一周延期したらメンバーも入れ替わる。今日は29人が各地から宇賀溪キャンプ場に集まってきた。キャンプ場から中腹の小峠まで車で運んでくれるという。ここから登山開始。鈴鹿山系の縦走コースの峠(石グレ峠)にでて、竜ヶ岳を目指す。2時間余で頂上に到達。視界は360°の大展望台である。おにぎりの軽い昼食の後、詩を吟じて下山。午後3時には麓のキャンプ場に戻り、河原で早速バーベキュー大会。発電所のように俗にいう現場では機材が豊富である。20畳くらいのシートからコンロ、鉄板、と機材が集まっている。ないのは女性の姿くらい、見事に男性社会である。登山中にもいき会う人から「30人も男ばかり。へー」と言われたなあ。

この場所は温泉がないので風呂なし。肉をたらふく食べて帰途に。

④鎌ヶ岳(1161.0m) H11.5.10.(月)

御在所岳の南にあって、鈴鹿の「槍」と呼ばれる。担当は川越電力館(PR館である。このメンバーは社員4名とコンパニオン15名からなる職場で、毎週月曜日が休館日である。このため、5/10の月曜日が選ばれた。もちろん私は休暇を取っての参加である。

彼女たちは20~24歳で山もほとんど経験していない人たちで、参加してくれるか怪しかったのでもっぱら偵察・準備は副館長(男)の役目である。しかし、電力館の若い女性の担当ということでもあり、協賛の若者が各課から参加するであろうことは読み筋にある。案の定、女性5名に取り巻き18名、計23名になった。

御在所岳のとき同様、湯ノ山温泉からロープウェイでまず御在所岳頂上へ行く。そのまま尾根伝いに鎌ヶ岳に向かう。途中、武平峠まで下るがここから鎌ヶ岳までが険しい。鎖とロープを使って一気に頂上に上る。まさに「槍」であり、頂上には2~3人しか居れない。

登りきったときの彼女たちの汗の顔のいいこと。口口に「初めて・・・」「ワーきれい・・・」などとはしゃぐこと。私には娘がいないので彼女たちの歓声が珍しい。下山は長石谷を歩いて下るのだがこれが結構急で膝がガクガクしてみんなこらえる



のがやっと。

ロープウェイの麓駅に近づいたところで、風呂や宴会の心配をしている。アテにしていたホテルには予約が入れてないという。私の手帳から近くの国民宿舎に携帯で電話させてみたらOK。山で携帯が使われるようになったのだと妙に感心。

一風呂浴びて、ジョッキで乾杯。みんな満足感でいっぱい。

私はこの日、もう一仕事である。地元の有力者との懇親を予定しており、背広一式を麓の駅のロッカーに入れておいたのである。月曜日のことなので休暇とも告げず、約束していたのである。風呂に入る前に背広をとってきて着替え、解散と同時に四日市の街に出かける。

時間ぎりぎりに到着し、陽に焼けた顔でばれる。山の話で場が盛り上がり、「若いね」と言われてまんざらでもない。二次会まで騒いで終電車で自宅に帰ったら日付変更直前。一日フル回転で終わる。翌日メンバーから私のタフさを冷やかされる。

⑤^{あまごい}雨乞岳 (1238.0m) H11.5.29.(土)

いよいよ7マウンテンも半ばを越えた。7月までにあと3つ。急がねば。

今日の当番は総務課である。総務と言えば事務系の人ばかりといってもよい。寮母も含めて女性も多い。雨乞岳は鈴鹿7マウンテンでも縦走コースからそれていてあまり人気がない。私も若いころ1回しか登らなかった。

今回も偵察がなされている。三重県と滋賀県を結ぶ国道477が武平峠で山越えをする。ここが雨乞岳登山の入り口である。今度は湯ノ山温泉から通称「鈴鹿スカイライン」の有料道路を車で登り、武平峠で駐車場におき、登山道に入る。

多くの沢を横切り、ひたすら雨乞岳を目指す。参加者は私はもちろんであるが、総務課の人のほか各課の友情参加があり、28名になった。ところがそのうち5名は偵察に参加したので今回は麓でバーベキュー待機するという。頂上へは23名が向かっている。



この山は標高はあるが急な上りがなく、道のりが長く一気にというわけにはいかない。しっかり歩かされる。

武平峠から雨乞東岳に3時間余りして到着し、本峰の雨乞岳にはさらに15分という具合。

そして、昼食、詩吟。下りは同じくだらだらとひたすら足を運ぶしかない。歩かなければ届かない。元の武平峠に戻ったのは15時を過ぎていた。

ここからバーベキューの準備ができている場所まで車で運んでもらってようやく靴が脱げる。

早い連中はすでに1時間前に着き近くの国民宿舎で風呂に入り、すでに飲み始めている。我々も後を追う。改めて5つ目の山に乾杯。



⑥釈迦ヶ岳（1092.2m） H11.6.5.（土）

いよいよ追い込みに入る。6つ目はLNG課の担当である。釈迦ヶ岳は7マウンテンのなかで北から3番目。ロープウェイや車で嵩上げできる山（3つ）とはちがって麓からしかも一気に尾根を登っていかねばならない山である。LNG課長は義足であるがこの日のため事前登山を行い義足の調整しての登山である。

もちろん若手のサポート隊もいる。17名が登り始めてから汗だくである。さすがにきつい。私は最初からマイペースで、先導から離れているので気遣ってくれるがはるかに私より遅い組も必ず居るので中間位にいつも居ることになる。この頃になると皆もわかっているの誰にも気にせず、それとなく前後を固めている人が居るといふ感じられる程度である。

しかしさすがにきつい。というのも5月半ばから毎日夜のお付き合いがつづいており、かなりボディブローを食っているからである。6月末の退任を予想してのお付き合いがまだまだ続く。

多少夢遊病者のようになりながら松尾尾根の頭まで3時間。途中尾根からの景色と谷風で元気を取り戻したが、それにしてもきつい。

松尾尾根の頭（1290m）でおにぎりの食事を済ませ後者組といっしょになる。釈迦ヶ岳（1290m）の頂上はそのまま3分程縦走路を歩いたところにある。皆で記念撮影して頂上を往復して下山。元の道を下る。下りは速い。ほとんど休憩なしで

下る。2時間以内で下るが若い者は1時間余りだったと言う。

麓の谷川のある朝明（あさけ）テント・バンガロー村でバーベキュー。材料をしっかり仕込んできているので食べきれないほど。マイカー組には悪いが缶ビールが次々に空いていく。

しかし、さすがにきつかった。



⑦藤原岳（1143.4m） H11.10.17.（日）

6月までに7マウンテンを制覇するはずだったが6/19（土）は雨天のため中止。次の6/26（土）再設定の予定をしたがすでに人事異動の内示後になり、結局7月以降に持ち越しになった。

私も週5日の送別会が続き、6/21には新しい会社の株主総会出席と引継ぎに上越市と東京にでかけ、6/22上越共同火力発電株式会社の社長に就任している始末である。中部電力は6/30に退任したのでその間兼務していたのである。

鈴鹿7マウンテンもこれまでと思いながら、名古屋から長野経由で妙高の麓を走る信越線に揺られながら直江津に入ったことであった。

その後、再挑戦のチャンスは8/21にあった。8/24に名古屋出張があり帰省することになったのである。がよく考えたら、22日は年に1度の発電所行事があるので所員は忙しい日である。前任が知らぬはずがない、電話するのをやめた。

次のチャンスが来た。10/18日に名古屋での仕事ができ16日から帰省すれば

17日に実施可能である。週間天気予報も「曇り」でまずまずだ。しかし、いまさら

という気もする。ぎりぎりの15日（金）にもとの分担の環境保安課へメールを打った。夕方、「了解。早速メンバーを集めました。スケジュールは6月のまま。名古屋駅7時01分の電車に乗って」との返事。続いてFaxも6月の計画書が修正されて送られてきた。これで決まりだ。

10月17日（日）朝からよく晴れている。週間予報よりずーとよい。7/1付けで川越から転出した人も混じって13名が参加だそうである。

三岐鉄道の終点西藤原駅に着くと車組がいて、総勢18名になっている。若夫婦と1歳半の赤ちゃんも混じってる。久しぶりの再会に喜び、9時過ぎ登山開始。この山はなだらかで初心者向けであり、30年前私もよく来た山である。3つのコー



スのうち大貝戸道を登る。杉林の中、整備された登山道を zigzag に登っていく。〇〇合目の看板も新しい。9合目のすぐ下の山荘（無人）まで2時間余り。18名も先頭と尻ではかなり開いている。私のペースは相変わらずマイペースで中間位にいる。今までの6回でまわりの人は私のペースを知っている。「いつも呼吸が乱れず、翌日もケロッとしている」と一目置いているようである。

頂上もなだらかで極めたと言う感激に乏しい。もう涼しい、早々と下山。

下山して予約した民宿で風呂に入り、最後の宴会である。デジカメでとったスナップがTVに映し出される。新兵器をわけなく使いこなす連中である。でも準備が大変だったと思う。近況を話し合い、7マウンテン最後の達成にみんな心地よいようである。集まってくれたみんなに感謝しつつ別れた。



あとがき

かくして7つ目を無事？登山し終えて今年の新年の宣言を100%達成することができた。もちろん7マウンテンすべてを登ったのは私一人である。

6月末川越を去るとき、所員から、すでに達成していた6マウンテンの思い出をアルバムにして手渡してくれた。この気遣いもうれしいがそのアルバムの中には山のすばらしさ、初めて終わりと思う女性の感動の言葉、など感想文が詰まっていた。そして、最後の7つめの余白を残して……

川越火力発電所営業 10 周年記念のひとつにもなった私の7マウンテン挑戦。ここで各山頂で吟じた漢詩をご披露しよう。

「堂々圧海」

「伊勢湾頭萬尺楼 堂々圧海怒涛浮 誰知此業為公益 欲点明灯竟不休」

(伊勢湾頭、萬尺の楼)(堂々と海を圧して怒涛に浮かぶ)(誰か知る此の業、公益の

為)(明灯を点ぜんと欲し、ついに休まざるを)

〔解説〕

伊勢湾の岸には大きな建築物が建っていて、堂々と海に押し出すように浮かんでいるかのようである。だれが知っていよう、この仕事が公益の為であり、電灯電力を供給せんとして日夜休むことなく働いていることを。誰もが知っていてくれる。

この詩は中部電力の現社長太田宏次作であり、川越火力発電所の入口にある詩碑に刻んである。

私の在任中に行われた3, 4号機(各165万kw)の増設は、完工によって総出力470万kwの日本最大の火力発電所なったのであるが、この建設工事を管理している間の5年間は「7」をコンセプトとし、7シリーズであった。

すなわち、

●3・4号機とも各々7台の発電機(トレイン)で構成されていること。

●燃料のLNGを輸送するLNG船が7隻である。

●3・4号機建設工事費が約7000億円

●3号と4号の合計 $3+4=7$

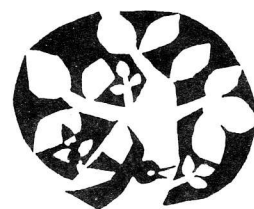
●LNG産地のカタールまで約7000マイル

●堂々圧海の漢詩は7言絶句

●所長在任期間 7年(新記録)

おまけ

●鈴鹿 7マウンテン



おあとの準備がよろしいようで。

(おわり)

ある晴れた晩秋の日に

「趣味」を問う欄に、たいして迷いもせず「登山」と書いてきたが、近年、何だか違和感を覚えるようになってきた。例え標高千メートルを超える山であっても、山道を2、3時間歩いて山頂に至ることが「登山」なのかという思いがあるし、反面、道なき藪山を這いずり廻っている行為をそう呼ぶのも似合わない気がする。僕が敬愛する植物研究家で、若き頃は登山家でもあった小牧旌先生が言われる「山野跋涉」ほどの清廉枯淡の境地にはまだ遠く、せいぜいが「山歩き」、いや「山遊び」というのが一番当たっているようだ。

*

*

*

たしかに、登山道を辿るだけではなく、沢をつめ、藪や雪の尾根を歩きだせば、山は面的な広がりを持った存在となる。ひとつの山でも季節を変え、次は右俣の沢とか、あの踏跡はどこへ続いているのか、などとやっているとまったくきりが無い。そんな僕の「遊び場」は、概ね医王山から南の標高千メートル前後の山々なのであるが、ほとんど変態的ともいえるこのような「山遊び」を喜ぶ物好きは稀であろうし、付き合わせるのも気の毒というものである。それで、気の合った仲間との山行がかなわない休日が、僕の「遊び場」探究の日となる。その時々、目的、季節、安全性などを総合的に勘案して、最も適当なメニューを選び出すのであるが、情報が整理されておらず、これがなかなか難しい。

*

*

*

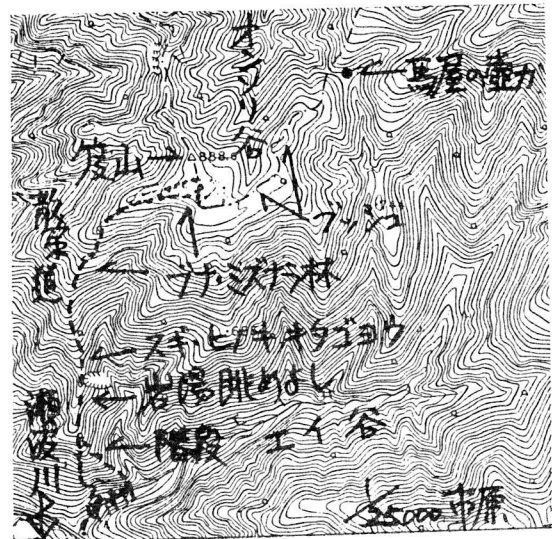
先週の土曜日(1999.11.20)は、前夜の残業もあり、行き先を決めたのは例によって朝になってからであったが、いつになくすんなり決まった。吉野谷村の瀬波川キャンプ場から河内村との村境稜線にかけて付けられている「散策道」を調べ、近くにある白山信仰の遺跡とされる「馬屋ノ壺」を探索しようというものである。実は今年の6月初旬、家内と河内側から直海川支流のオンソリ谷を遡ったとき、888mの三角点峰付近にループ状の道があるのを確認し、その道は瀬波川の方から来ているものであろうと推測していたのである。この三角点峰は、恐山または笈山と呼ばれる山で、ナカオ山岳会の『なかお特集号ふるさとの山・2』(1979)に、林正一氏は〔泉鏡花の『風流線』に「昔、西国方の旅の巡礼の若い夫婦、奥三方に詣でむとして途中笈ヶ岳の半腹で不意の寒さに封じられて千丈の雪に埋った。」とある笈ヶ岳は松尾山西の笈山のことであろう。〕と書かれている。また、「オンソリ谷」の地名は、「オソレ(恐れ)谷」の転訛と考えるのが普通かもしれないが、国土地理院の地形図は、この西の谷を「コンソリ谷」と記しており、内尾の下に「下折(そそり)」という集落もあることから、僕は「大ソソリ谷」「小ソソリ谷」(ソソリはそそり立つ・崖地の意か)ではないかと思っている。ともあれ、この一帯は白山修験の影が色濃く残る地域であり、まさに興味を「そそられる」ところではある。

*

*

*

瀬波川支流のエイ谷右岸に付けられた「散策道」に行く。一つ目の堰堤で初級コースを左に見送り、上級コースを取る。道は荒れており、徒渉もあるが、地下足袋をはいてきて正解。三つ目の堰堤からの小尾根には、急な階段が延々と続く。よくもまあこんな道を付けたものだと感心半分、あきれ半分。暑くて夏と同じ半袖シャツ一枚になる。左からの初級コースと合流し、急登は終わってヤセ尾根となる。岩場からの眺めはよく、地図を広げて半時間ほど山座同定に費やす。キノコを探しながらゆっくり登り、うっすらと新雪におおわれた見覚えのあるループ道に達したが、



尾根は広く、現在地さえ確信が持てない。ここで焦っても仕方がないと、まずはビールを飲んで昼食。それから、三角点峰の笈山へ登って現在地を確定し、「馬屋の壺」へのルートを見定めた。しかし、濃密なブッシュにおおわれた尾根は、だだっぴろい上に微妙な小尾根があり、ルートファインディングが難しい所。再三、ルート修正を余儀なくされた。

ようやく鞍部に下ると、エイ谷支流の小沢の源頭から踏跡らしきものがあり、これをほんの少し下ると、2m四方ほどの石積みがあった。「馬屋の壺」にしては小さすぎるのではといふかりながらも、水音高く流れるエイ谷支流の沢の上には白山の姿があり、修験の行場には相応しい所であると思われた。写真を撮って引き返す。

帰りは登りなので、神経質になる必要がなく、ブッシュの薄い所を選んで行くと、下りの半分の時間もかからずに登り返すことができた。しかし、この調子良さが仇となって、下り始めてもループ道には一向に出会わない。さらに見覚えのない杉林も出てきて、頭の中は一瞬パニック状態。これはいかんと小キジを打ってお茶を飲み、地図を広げて誤りに気づいた。

＊

＊

＊

こんなふうに、晩秋の一日、僕の「山遊び」は終わった。道のない山は怖い、このスリルがまた、たまらない。いつもうまくいくとは限らないし、「バカくさ物語」に終わることも少なくないのであるが、今回は三つの目的が概ね達成できて、充実感を味わうことができた。ひとつは、6月から気になっていたループ道と「散策道」との関係・位置を明らかにできたこと。ちなみに、石川県勤労者山岳連盟の『新北陸の名山』に記されている「散策道」のルート図は、やはりまったくのデタラメであった。二つめは、これも宿題であった「馬屋の壺」を探索できたこと。そして、三つめは、ナメコは無理でもクリタケぐらいは採れたらと思っていたのだが、それが少し採れたこと。しかも、それは普通のクリタケとは異なり、生長しても傘の裏が灰色にならない新品種のようなのである。商品価値のある「石川ブランド」の栽培キノコとして生産・販売できる可能性もあり（商品名は「白山くりたけ」なんてどうだろうか）、早速、鑑定と組織培養を依頼したところであるが、「山遊び」にはそんな楽しみもある。

(19期 梅 典雅)



次ページからは
アクトス9号 p37-39を
転載。p36の黒滝の写真は
割愛します。
(きれいに印刷できないため)

れている。白山から流れ出る川の源流部は、山頂付近やスーバー林道周辺を除けば、そのほとんどが秘境といってもよい地域である。特に地獄谷やその上にそびえる火の御子峰などは、人を寄せつけない凄絶な崩壊地であり、秘境の最たるものであるといえよう。

私たちの生活している空間とそれほど遠くないところに、荒々しくも未知なる原生自然が今も息づいているということ、は、実に豊かなことであると思う。

とが・のりまさ◎金沢大学ワンダーフォーゲル部OB・グループ「藪」代表

登頂記録 わずか3回。 ハーケン効かぬ 魔の山

火の御子峰には、過去3回しか登頂記録が残っていない。岩盤がもろいためハ

ーケンが効かず、登頂は極めて危険である。初登頂は昭和7年、第2回目の登頂は終戦間もない昭和24年のこと。石川県勤労者山岳連盟の干場晃さん（松任市）はそれから実に44年ぶりに3人のパーティーで火の御子峰登頂に成功した。

「通常より長さが2倍近くもある特注のハーケンを使い、落石や落盤に細心の注意を払いながら頂上を目指しました」（干場さん）

お年寄りや子供さえも気軽に登れる白山の御前峰が表の白山なら、火の御子峰は裏の顔を持つ魔の山である。

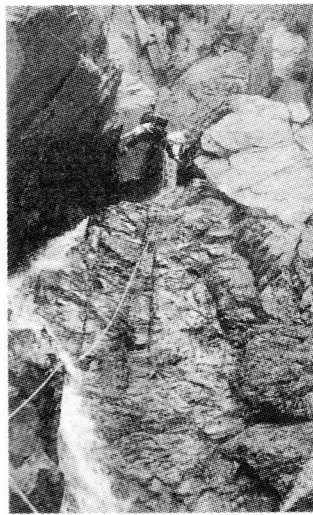


火の御子峰の頂上付近（干場晃さん提供）



火の御子峰登頂を目指す干場さんらのパーティー。平成5年。（干場晃さん提供）

岐阜県側の横谷も難所が連続する秘境である。(根上町の今村道往さん提供)



において定義する「原生流域」という地域がある。これは、人工物や森林伐採地など（登山道や道標は除く）を含まない1000ヘクタール（10平方キロメートル）以上の河川集水域をさすものである。1993年度の調査時点で全国に99カ所あるが、実は石川県には、白山山系に何と5カ所もあるのだ。その内訳は、犀川（1043ヘクタール）、倉谷川（1800ヘクタール）、尾添川（1254ヘクタール）、目附谷川（1320ヘクタール）、中ノ川（1622ヘクタール）の各源流域で面積は計7039ヘクタールにも及ぶ。「原生流域」は3000メートル級の北アルプスを擁する富山県でも意外に少なく、2カ所で計5441ヘクタールである。

日本のイヌワシの1割が生息

これは、単なる調査上の基準といえはそれまでであるが、白山という山のひとつの特質を表しているように思う。白山

は、高山帯の面積に比べて山地帯の面積が広く、急峻な地形と多量の積雪によって奥地までは人の手がほとんど入らなかった。そのため、野生生物の宝庫として、ユネスコの「生物圏保護区」や林野庁の「森林生態系保護地域」などに指定されている。例えば、山地の自然環境の指標となるイヌワシについてみると、全国の推定生息数400〜500羽のおよそ1割が、白山山系に生息しているのである。白山には、山頂から四方八方に登山道があるが、そのほとんどは尾根道であり、面的には細い線でしかない。その間は、幾筋もの溪谷が走り、山腹はタケカンバやブナ、ミズナラなどの深い森におおわ



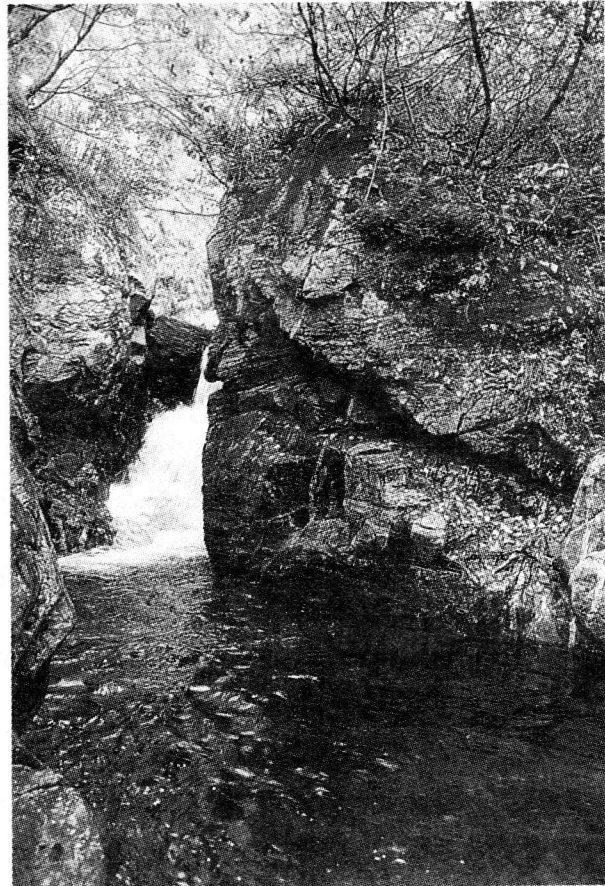
北陸の秘境

石川県 白山源流域

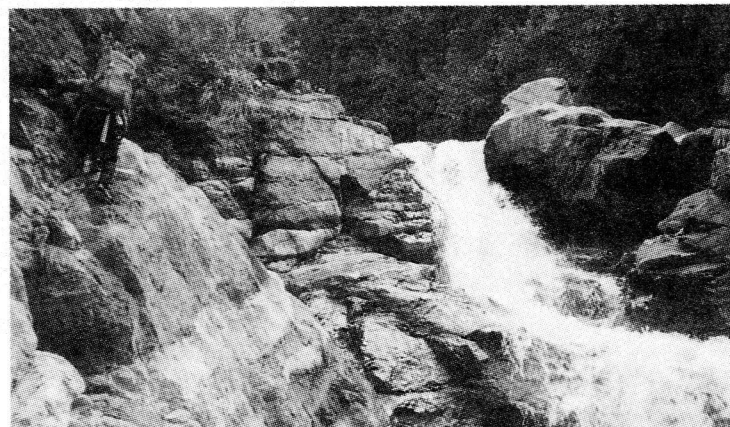
左／雄谷S字峡の紅葉。ブナやミズナラ、カエデが妍（けん）を競う。
下／水晶谷。大笠山に源を発し、蛇谷支流の雄谷に合流する。源流域の千丈平や笈ヶ岳一帯も原生的な自然が残る。



市ノ瀬から雪上徒歩3時間の山中にある。幹周は15.6メートル。カツラの木としては日本一の巨樹である。(金沢市の北川正司さん提供)
右／水晶滝。水晶谷の源流に懸かる二条の滝で、落差は30メートルほど。菊仙女の伝説を思い出させる幽玄な雰囲気がある。



仙人谷の激流をさかのぼる。(根上町の今村道往さん提供)





上／別山谷の滝に挑む。滝を登るには熟練の技術が必要だ。(根上町の今村道往さん提供)

右／百四丈滝(ひやくよじょうのたき)。四塚山に源を発する丸石谷に懸かる滝で落差は約90メートルと白山の滝では最大級。昔は千丈滝と呼ばれた。加賀禅定道からも望見されるが、近付くのは容易ではない。

下／蛇谷の支流には、沢登りのエキスパートのみが入谷できる険悪な谷が多い。カモンカ谷もその一つ。国見山北の稜線から見下ろす源頭部は一枚岩の大スラブ帯が続く。



閉鎖的で
威圧的な谷

当たり前のことではあるが、山は尾根と谷から成っている。谷は常に水流と地表がせめぎあう躍動の世界であり、兩岸が切り立った「廊下」や地図にも載っていない幾多の滝といった多彩な景観を有する山のもう一つの顔である。しかし、日当たりのよい尾根に比べて、谷は一般に閉鎖的で暗く、ときには威圧的すらある。なかには、高度な溯行技術と体力を持った者にしか知られていない険谷もある。「秘境」を「人のめったに行かない、世間に知られていないところ」とするならば、そういった渓谷やその源流域は、秘境に違いない。

また、あまり知られていない言葉であるが、環境庁が自然環境保全基礎調査(緑の国勢調査)の一環である河川調査

北陸
Land of mystery
in HOKURIKU

秘境

石川県
白山
源流域

7000ヘクタールの“未踏”の地

文・写真◎榎典雅

◎神と自然の観念、現代に、褥典雅

白山信仰、越前禪定道復活の意義

本文：今夏、白山信仰の登拝路の一つであった越前禪定道の一部が復活した。市ノ瀬から慶松平まで五キロの区間で、そこから観光新道に合流して室堂に至る。この道は別当出合からの砂防新道が整備された後も旧道と呼ばれ、昭和の中ごろまでは通る人もあったルートである。

●泰澄踏み分けの道

ところで、古来から神仏の坐します山として崇拝されてきた白山に登拝路が開かれたのはいつの頃からなのであるか。

白山比＝神社に伝わる『白山記』には「天長九年(八三二)に三方の馬場を開いて、そこから御山に参詣する」と書かれている。「三方の馬場」とは加賀、美濃、越前における白山信仰・登拝の拠点と解され、加賀馬場は現在の白山比＝神社(石川県鶴来町)、美濃は長滝白山神社(岐阜県白鳥町)、越前は平泉寺白山神社(福井県勝山市)がそれにあたる。そして、各馬場から白山山頂に至る道を「禪定道」と呼び慣わしてきた。「禪定」とは『白山記』では白山山頂のこととしているが、修行のための登拝を意味する言葉でもある。

白山は越前の僧泰澄によって養老元年(七一七)に開かれたと、越前馬場最古の縁起書『泰澄和尚伝』は伝える。その開山伝承から越前禪定道は「泰澄大師踏み分けの道」とか「白山本道」などとも呼ばれ、平泉寺から法恩寺山、小原峠を越え、三ツ谷、市ノ瀬を経て六万山に登り、現在の観光新道を通って室堂、御前峰に達していた。

加賀禪定道は、尾口村の一里野から四塚山までの間が昭和六十二年(一九八七)に復元された。また、美濃禪定道は、今でも石徹白道(南縦走路)として利用されている。

●三本の登拝路そろう

今回、復元整備された越前禪定道のルートは、昭和九年の大洪水まで湯の谷左岸にあった旧白山温泉からの道に近いものであり、急な坂が六万山山頂付近に続く。この先には「檜宿」があったとされ、石段とも見える石積や江戸期の紀行文にいう「権現の愛木」とおぼしきヒノキの巨木がある。

近年の地形図に「指尾山(一四一八メートル)」と記される峰は、御前峰、大汝峰、別山の白山三所権現が望まれる遙拝地「伏拝」であった。天井壁のヤセ尾根の途中には「泰澄剃髪所」と伝えられる「剃刀窟」があり、明治の廃仏毀釈によって破壊された石仏が残る。

五輪坂を登り、江戸期から明治中期にかけて慶松室が存在したという慶松平(尾平)を過ぎれば、別当坂で観光新道に出合う。

今回の越前禪定道の復元により、白山に開かれた三つの禪定道すべてにおいて山ろくの拠点と山頂が結ばれた。どの道にも多くの遺跡や伝説が残り、古の登拝者をしのぶことができる。豊かな自然と信仰の歴史が白山の特質であるなら、禪定道はそれを具現化するものといえよう。

●「擬死再生」の登拝

昔の人は現代の登山者の何倍もの時間と労力をかけ山頂にたどり着いたに違いない。その行為そのものに罪やけがれを落として新たな自分に生まれ返る「擬死再生」の意味があったのかもしれない。また、荒涼とした火口跡に地獄を見、畳ずく山々を埋める雲海や一面のお花畑に浄土を感じたであろうことは想像に難くない。それこそが「禪定」であったのであろう。神と自然は信仰という糸で結ばれた同一の観念であったとしたならば、それを犯すことなどできるわけがない。

我々現代人は、さまざまな効率と引き換えに、大切な何かを忘れてきたように思う。また、自然を科学的に観ようとすればするほど、魂を揺さぶるような感性が失われてゆくのもかもしれない。自然と人との共生をいうなら、我々の命と文化の根源である自然に対する

畏敬の心を忘れてはなるまい。

(とが・のりまさ＝石川県自然保護課企画専門員、金沢市)

(＝は口ヘンに羊)

秋の雨飾山山行と温泉

23期 鳥越

元来、文章を書くというのは、小学校の読書感想文以来大変苦手なのですが、舟田事務局長に、この前雨飾山へ行ってきたという話をちらっとしたところ、20期代の原稿が少ないので、その話をぜひ書いてほしいという依頼が突然来ました。会計とは名ばかりで、普段の事務局の仕事はほとんど舟田さんにやってもらっているし、歩いて5分ほどの近所のよしみもあるし、ここは断る理由も難しく、出筆依頼を受けることと次第です。ただしOBとなってから15年以上がたちますが、山へ行く機会といえは年に1～2回、1泊2日で白山や立山へいく程度でしかなく、最近になってようやく2泊3日で北アルプス、後立へ行くことが年1回あるかないかといった私が、山行の原稿を書いてもあまり面白い原稿とはならないのではないかと思いますので、そこのところを含んだ上で読んでいただければと思います。

さて本題ですが、今年の10月2日に、百名山で有名となった雨飾山へ会社の先輩・後輩男5人、女1人で行ってきました。実は2年前にも同じような時期に、やはり会社の人で雨飾山へ行ったのですが、その時は頂上へ着いた後土砂降りとなり、こんな大雨の中を歩くのはいつ以来かなと考えてしまうほどの雨の中を全身ずぶ濡れで下りて来たというのがあって、その時にぜひ天気の良い時にもう一度上ってみたいと思っていたし、今回は天気が良さそうだったので、多少期待に胸躍らせながらの気分でした。

10月2日(土)AM5:30に金沢を出発、途中小矢部SAで小松出発組と合流して、一路小谷温泉へ向かいます。しかし皆さんも同じ感想だと思うのですが、大糸線の道路は本当に良くなりましたねー。もう地藏さんも、国界橋もトンネルの上。昔の道を忘れてしまいそうです。そんなことを考えている間もなく、小谷温泉すぎの上り口に到着。さあ静かな秋の山を出発、と思ったらちょっと様子が違う。何と広い駐車場が満車なのです。連休でもないのに関東方面、関西方面、名古屋方面、各地のナンバーがズラッと並んで、中高年登山ブームってすごいんだなと改めて感じざるを得ませんでした(そういう自分も中高年の部類に入りつつあるのですが)。駐車場の手前の林道に車を移動させて、今度こそにぎやかな秋の山へ出発です。大海川沿いに7～8分進んでから、樹林帯の急登開始。仕事の疲れ?と日頃の運動不足のせいで急登はかなりこたえます。それにここの急登は30分近くずっと続きますから、早くもバテ気味です。そうこうしているうちに、やっと急登も終わり、トラバース気味の道となり、やがて少し下って荒菅沢へ出ます。ここはなかなかのビューポイントで、沢の上部に雨飾山の三角形のピークと、その手前にふとん菱と呼ばれる岩壁が圧倒的な迫力で迫ってきます。沢の水量も豊富で今までの上りの疲れをいやすにはもってこいの場所です。ここから再び急登となるのですが、空は快晴、それにここから徐々に樹林も低くなりアルペンのムードも味わえるため、快調な上りが続きます。1時間程も上ると、広い笹原に出て、ここからピークまではもうすぐです。今回で2度目の雨飾山ですが、個人的な感想としては、このピーク手前の一面の笹原が雨飾山のベストポイントではないかと思うのです。遠く姫川の河口には糸魚川の町並みが小さく見え、その向こうには日本海が広がり、標高2000mに満たない山とは思えないほど高山的な雰囲気も味わえます。ここでのんびり昼寝でもすれば気持ちいいだろうなと思いながらピークに到着。案の定ピークは関西方面からのツアー客もいたりして超満員。昼食を食べながら、にぎやかな秋の山を満喫し、

下りは一気に再び小谷温泉へ。2時間ちょっとで上り口に到着し、今回の山行は無事終了となるわけですが、ここから今回のもう一つの（本当はこっちがメインかも知れない）お楽しみ、日帰り山行の後の温泉です。実は2年前もやったのですが、日帰り山行の後に温泉に泊まるというのは最高ですよ。クセになりそうです。泊まった場所は、上り口から車で5分ほど戻った、小谷温泉の一番奥にある「柎の樹亭」というところで、ここがまた非常にいい宿なのです。ぜひおすすめスポットですので、ガイドブック用の紹介を少し。ここは関西の某大学のワンゲル出身である会社の先輩の、大学時代の友人の方が夫婦でやっている宿で、夫婦そろってワンゲル出身です。民宿より若干豪華な雰囲気ですが、非常にアットホームな感じで、食事は最高に美味しいし、すぐ近くには村の作った露天風呂まであります。玄関からは遠く後立の山並みも見えます。ぜひ一度利用してみてください。

とりとめのない文章となってしまいましたが、ふらっと山へ行くといった感じで行く時なんかには、おすすめコースとなるとおもいますので、機会があればぜひお試しください。

蒲原良太郎の追悼山行日誌！！

蒲原 道子

日時 99年8月20,21,22

名古屋の自宅を3時50分に出て36期の清水君の運転で、朝とは言うものの夜、殆ど眠っていないままの出発です。3人で車に乗りいざ富山に、一宮インターに4時19分→北陸道を通って立山駅に8時着。

集合時間、8時30分 未だ間に合う、

いつも集合時間には殆ど守らないという、ワンゲル時間があるみたいで、でも私と主人はせっかちな性格で時間にはピッタリ！

立山駅、今回で7回目

見なれた風景、皆来ているかなあ？ 最近は皆と頻繁に逢っているのになんか懐かしさよりちゃんと来ているかの方が心配、今年は皆早い、どうしたのか時間を守っている「おかしい」

今から荷物の点検、振り分け、私と主人は悪いと思いつつ、持てない、今年こそと思いつつ無理、皆の荷物分けを見ているだけ、私、10キロ、主人、テントがあるので14キロ、之を持つだけでも大変です。

私も以前なら出来なかったが今では平気（ちょっと無理しているかなあ）になりました。いよいよ立山駅9時出発、 美女平9時30分着、

天気がいまいち良くない、途中の道でも雨がパラパラしていた、少し心配、そうこうしている内に、室堂に到着、ここからが大変いよいよ登山開始、室堂10時50分出発、雷鳥沢に11時30分、昼食

メニュー（サンドイッチ、ハム、チーズ、サラダ菜、オレンジ、なぜかオレンジジュース）とても豪華な昼食、30分ぐらい休憩してさあここから、劔御前まで頑張ろう！！



進藤 清水 和田 片岡 福田
 樫村 石川 奥 山本 新倉 寺島 柴田
 藤牧井上 蒲原 蒲原 井村 吉田 立山駅で

ここの登りは 30 分がとってもきつい、ハアハア、呼吸がづらいいつもならここで、もうバテているが今回は違う、すこし有酸素運動をしたお陰で思ったより辛くない、汗が額からどっと流れてくる、そうするとふっと楽なときがある、こんな事感じたのは初めて、心の中で嬉しくなった。私にもこんな気持ちで登れるんだあって一人でうきうきな気持ち、主人はどうなんだろう？

前の日まで遅くまでいつも仕事をしているので、きっと疲れているんだろう？

だんだん標高が高くなるつけ頭が痛くなるみたいで、何回登っても痛いみたい之はきっと疲れていて登るからだと思う。

ゆっくり登ればきつと言いたいと思うけど、ようやく劔御前に着き後は劔沢小屋に行くだけ、3 時 30 分着、雨が降ってくるので手早くテントの設営、之も慣れた手つきで設営終わり、少しテントで休憩し、夕食の準備（私と主人は作ってもらうのを待っているだけだけど）5 時 夕食 （ビーフシチュウ）

6 時 息子の追悼 劔が見える高台の場所で、毎回ここに来て本当に嬉しい、みんなと手を合わせ、[また来た] よって息子に話しかけた。ここに来るととっても悲しくなる。

二日目、

3 : 30 起床

4 : 00 朝食

5 : 00 出発

朝、二時ごろ目がさめた、トイレに行きたくなりテントから出て、空を見た星がどっと落ちてくるみたい、ここにいること、ここにいなかったらこんな星は見れない、こんな事考えていると不思議な気持ちになる。

未だ起きるのに早いのでもう一度眠りに入った。

平蔵コルそば

片
福 吉 進 岡
清 田 田 藤 井 山
水 蒲 井 上新本奥 藤
前 蒲原 村 樫 倉 出 牧
田 原 村
金 石 柴
井 川 田



4:00 朝食 棒ラーメン

5:00 出発 雨が降りそうな天気なので今日はピークまでは行かない事にし、
息子の落石の現場近くまで行く事に、

いざ出発、

剣山荘まで途中少し雪のある場所を慎重に通過し、5:45 分剣山荘につき少し休憩
10 分ぐらい、

さあ少し登りを頑張ろう！ 一服 6:45 分 休憩 15 分

前 6:45 分 休憩 15 分 8:30 分

早めの昼食、パン、ウインナー、

その後現場まで行くのはやめ、前 6:45 分 休憩 15 分 8:30 分
た、とっても疲れました。。。。。

そのときのビールの美味しさは、言い表わせないくらい美味しかった。

夕食まで、又テントで休憩、うとうと眠っていたら、懐かしい声が聞こえてきました
34 期の岡田さんだ、一人で登ってきたみたい、どうも途中、道を間違えてきたみ
たい、剣山荘に行ってしまった、大変な思いをしたみたいです。

ご苦労様でした。

夕食を食べ、この日、メニュー（ビーフシュチュウ）

3 回目の追悼をしました

22 日

さあ今日は帰るだけだあ、、、

5 時 起床

8 時 20 分 出発

雷鳥沢に 9 時 20 分着き、いつもなら休憩するけど雨のため休憩なしで行く事に
熱沢小屋からずうっと雨、初めての体験でした。辛かった歩いていると雨が顔にか

かり大変でした。最後の室堂までの登りの階段が、とっても嫌いここを過ぎれば、もうつく頑張ろう、みくりが池の前ぐらいで息子の同期の清水君が私のリュックを持ってくれました。も嬉しくて元気になり、ようやく室堂に着きました。此れで今年の追悼山行は終わりです

最後に、
毎回、皆が息子の為に有難う。

毎年みんなに迷惑をかけないように、今年はエアロビクスをしたり、プールに行ったりしました、又体を鍛えて、毎行けるように、皆と登れるように、いつまで行けるかわからないけど、また鍛えていきたいです・

最近では山以外皆と会う事が多く、皆結婚をしそのたび私と主人は二次会に出席させてもらっています。つい最近、京都で34期の片岡君、37期（福田君、新堀さん）の二次会にも出ました。其れにいろんな処に行く事が出来て嬉しいです。

皆とお酒を飲んで喋っているだけでなんかとっても幸せな気持ちになれます
なんでか解からないけど、今では仕事の仲間とか友達とかいろんな人との交流の中でワングルは私と主人には欠かせなくなっています。

息子がこんな形で、私たちにいろんな事を教えてくれていると思うと嬉しいです
息子が居たからこそ楽しさ辛い事もあったけど今では幸せです。

本当にワングルに人達に感謝しています。

有難う。 此れからも宜しく！！！！



拡大15期会 木曾岬大会報告

幹事 15期 祖父江 直久

「そして生が、やはり、死ねない人間が背負わねばならないものの様に思えて来る。つまらなくて、そして本能的でしかあり得ない生は、それ故にこそ重いものとして光って見えてくる。」

(横井 昭次 追悼集より)

追悼集の横井の文章には必ず「死」が出てくる。横井ほど、生と死を見つめていた男は、私のまわりにいない。その思想は哲学的で、聞いていても理解出来ないことが多かった。

今回の慰霊に際し、追悼集を読み直してみたが、眼は文字を追っているものの、頭の中のモニターは、横井の顔が映し出され、ほとんどの文字は脳の中を素通りしてしまった。

9月11、12日のワッゲル拡大15期会木曾岬大会には、遠路はるばると集合してもらってありがとうございました。お蔭様で無事終了することが出来、佐野君ともどもホッとした所です。あの暑い、よく晴れた日が懐かしく思い出される今日この頃ですが、いかがお過ごしでしょうか。

低俗(?)な長島温泉の近くという設定のせいか、連絡の遅延のためか、出席者が当初の予想の47名を大幅に下回り、14名となりましたが、逆にこじんまりとまとまり、不慣れな幹事としてはスムーズに会を運営することが出来てよかったと思っています。しかし、次の松縄君には頑張ってもらって多数参加していただくようお願いする次第です。

今回は11期の森川さん、16期の川端、清水両君も参加してくれ、御苦労様でした。また、4年振りに横井君を追悼することが出来て、胸のつかえが少しラクになった気がしました。松縄君からも、「葬式も行けずにずっと心残りであったが、今回行けて本当に良かった」という電話をもらって、幹事として嬉しい言葉をもらったと思いました。

9月12日、みんなと別れたあと森川さん、上馬夫妻と、桑名の六華苑という明治時代の建物を見学し、落ち着いた和風庭園の茶室でお茶をいただいて帰りました。もし又来るようなことがあれば案内します。

本来一人でやるべき幹事の仕事の面倒な部分をみんなやってくれた佐野君にこの場を借りて感謝の意を表したいと思います。

ではまた来年、金沢で会いましょう。



間所 川端 佐野 鈴木 清水
祖父江 坂尻 舟田 森川 奥名
上馬 高村 松縄 上馬

金沢大学ワンダーフォーゲル部拡大15期会
木曽岬大会会計報告

平成11年9月18日
報告者 佐野 哲雄



収入の部	金額	備考
前回繰越金	34,082	
今回会費	224,000	16000*14
小計	258,082	
支出の部		
旅館「庄 助」	207,733	
喫茶「BMW」	8,500	
なばなの里	12,000	1000*12
お弁当	12,000	1000*12
お花代	5,000	
通信費・事務用品費・雑費	12,849	
小計	258,082	
合計	0	

注意

桑名の居酒屋「串まん」の費用、及びタクシー代は、
祖父江先生のポケットマネーからの支出となっています。感謝！！

残暑厳しい中でしたが、幸い天候にも恵まれ、楽しい時間が過ごせたかと思います。
スライド、自然観察員の説明、牡丹鍋、花火、停電、焼き蛤、医院見学、慰霊、ケーキ
ベゴニア、河口堰、松坂牛のお弁当に検尿コップと盛りだくさんの2日間でしたね。
来年は、出会いから30周年ということで金沢での開催とし、
幹事は松林君にお願いすることになりました。
来年もおいしいお酒が飲めるよう、お互いがんばりましょう。

(舟田 節子)

弥富―金沢発の観光ルートに、まず載ってはいません。15期同期会では、地元ならではの名所を幹事にコーディネートしてもらえるのが、本当に楽しみです。現役時代には、後年にこんなスペシャルワンデリングサービスまでついているとは知りませんでした。現役の新人勧誘に是非役立ててほしいです―なんちゃって、駅舎から何から、金魚のモチーフがあふれています。

「なんで？」と聞いたら、弥富は、金魚生産NO.2の町で、テレビで金魚品評会が映っているのもここと教わりました。千佳ちゃんと私は、これで恥を搔く機会が一つ減ったと喜び合ったものです。なるほど水田に交じり多くの養殖池が広がり、かなたには長島温泉の大観覧車が見えて、太平洋を控えた水郷地帯なのだと納得できました。

「庄助」の部屋はもう温泉とビールでできあがった人が一杯。これでは送迎係が哲ちゃんになるはずで、ワングルには飲めない人も必要と、またここでも悟ることがありました。

女性用の部屋で一息つきながら、敏栄さんのスケッチブックを見せてもらいました。上馬さんの不調、入院で千々に乱れた心か絵にも綴られていて、生きるとは闘いであり、支え合いであるとも改めて思いました。何がどうではないけれど、一年の無事を喜び、讃え合う大切な集まりです。

おしつけがましく、高山植物のスライド上映。何がおしつけがましいって、全部今年撮影の生々しい映像で、観光新道のものは先週撮ったばかりのものだったからです。それに奥名会長のほやほや自然解説員の説明付き。このくらいノル性格でないと、根性だけではOB会の屋台骨は支えられません。

クラクラときた所で、牡丹鍋へ。水田の真中でイノシシ？と思ったけれど、川端君の言うにここらはまことにイノシシの多い所で、害獣駆除にも大いに食すべきとのこと。恥を搔く機会がまた一つ減ったとすべきか迷いつつ、箸を進めれば、ポンポンと花火の音。長島温泉今夏最後の花火だとか。誰か気を回して消燈したのかと思ったらほんとの停電で、15期になりきった森川さんと寄り添い？光の競演を楽しみました。

二次会は桑名までタクシーを走らせ、居酒屋へ。あの有名な、桑名の焼き蛤他を御馳走になりました。さっきの庄助もここも、（ついでに翌日のケーキ屋も）、皆、祖父江先生のお得意様で、携帯でのそつない連絡で、着けばVIP席が用意されておりました。清水さんが「学会の帰りということにしよう」と気取ってみたいけれど、親父さんにはすぐばれてしまったみたい。

すっかりいい気分でお宿に戻り、恒例ワングルソングのゆうべ。なんであの頃、こんな歌ばかりで満足できたのかな？その歌が、いろんな思い出を蘇らせてくれます。歌詞があやしいのは仕方なしとして、なんべん白山の尾根を歌い出したっけ間所さん。その席で次回金沢編幹事は松林さんと決まってしまうました。

翌朝は、お供えの花束を取りに祖父江医院に寄り、内部も見学させてもらいました。華やかな女性スタッフに囲まれにこやかにほほえむ院長先生の写真。いかにも、関節や腰の痛みがほんわか薄らいでしまいそう。卒業してから得た家族、仕事に励む姿を垣間見るのは、何かほのぼのとした幸せです。もう学生時代は帰らない――それがキリキリとした感傷をよぶこともあったけれど、みんな相応の責任を背負い生きてきた――それを振り返る時間を共有できるのは、感謝としかいいようのない気がします。





そんな感謝の気持ちに浸りながら、木曾川べりに立ちました。金沢では想像のつかないほどの広い広い河川敷とはるかかなたの対岸と、まぶしい空でした。この近くで4年前、横井さんは亡くなりました。

大分からの第一家と立山に登った8月14日、「ワンゲルからの電話がいっぱいかかっていたぞ」と旦那。数日前にやっと会報を発送し終えていた私は、そんなに反響があったんか！と脳天気ニタッとしたものでした。が、ようやくつながった電話は思いがけない訃報でした。机の上には宛名を書いたままで、お盆に本文を書くように用意してあった山のポストカード。横井さん宛のを手にしながらポロポロ涙がこぼれました。

事故の時にもこんな青い空が広がっていた筈です。今も水上スキー大会で賑わっています。賑やかな笑いが一瞬に凍りついた日のことは、想像するだに残酷です。どんな哲学書より、宗教より、高村さん、比田井さん、横井さんは、「生きる」ことを教えていきました。きちんと生きていかなばと思います。

木曾三川公園。恥ずかしながら、私、川の名前を棒暗記した記憶までしかありません。長良川の源流が白山…の知識がプラスされた程度でした。川との関いのあった地と認識すると、景

色の中にも、防水の備えが見えてくるのが新鮮な発見でした。

ベゴニアガーデンは見る値あり。植物園はそれなりに見たことはありますが、すごいスケールでした。これほどの管理ができるなら、農産物の未来は明るい！と思えました。

そして噂の河口堰の横で、松坂牛のお弁当を広げましたが、配達のおっさんが柿安の店員ではなく、祖父江さんの父上と判り狼狽。その上に、ビールを本物の検尿コップについてもらい、尿をビールみたいと思ったことはあるけどなあ。そう、幼児は右から10まで数えて、じゃあ左からは？と言うと、やっぱり数えてみてでないと10とは納得しません。これは本物のビール！逆転の発想に軽い頭のきしみを覚え、思わずそんな幼児の気持ちがわかった気がしたヒトコマでした。

河口堰もしっかりお勉強していよいよお別れです。盛り沢山のスケジュールでの歓待ありがとうございました。男は黙って、ずっとややこしい精算に励んでいた哲ちゃんもありがとう。30年経っても、成長と発見のあるこのご縁を本当に大切に思います。

今回は金沢で。歓待というよりシゴキかもね。でも優しく、懐かしく30年前を再現させます！

23 期越前海岸海水浴同期会 H 11.8.7～8

23 期 石地隆司

11 月のある日、学研教室と書かれた見慣れぬ封筒が舞い込んだ。「しまじろう」の DM はよく来るが学研は初めてだなあと裏を見てドキリ。編集長からの原稿依頼であった。幹事だった責任上、報告書は書くつもりでいたが、催促されないと腰が重くて…。それにしても今月いっぱいとは切がきつい…。20 期代の原稿が少ないということなので、いろいろ寄り道しながら報告を。ちなみに参加者は以下の通り。

	大人	子供	計
石地	1		1
宇野	1		1
小久保	2	1	3
興井	2	2	4
高橋（旧姓塩山）	1		1
戸水	2	3	5
中川	2	3	5
名倉	2	3	5
宮西	2		2（犬 1 匹）
村井	2	2	4
計	17	14	31

前回の同期会は富山グループが主催して五箇山で、前々回は金沢が白峰で行なった。今回からは名古屋にもやってもらおうかという話も出ていたが、中心となるべき窪川がアメリカに飛ばされてしまったので今まで通り関西担当となった。で、昨年末、23 期関西支部恒例の忘年会において、今回の打ち合わせをした。関西のメンバーは、僕と宮西、興井、小阪のつつあん、高橋（旧姓塩山）のちーちゃんの 5 人。ここ 2 年程とつつあんは仕事が忙しいらしく今回も欠席。

この忘年会と言えば 3 年前だったか、鈴木ヤスが参加したことがある。ヤスが広島から岡山に転居したというので、それなら関西の隣県だから関西支部みたいなものと宮西に相談したところ、早速声をかけたらしい。結局仕事場が広島だったので当日は広島から新幹線でやって来た。忘年会ごときに呼ぶ方も呼ぶ方だけど、来る方も来る方だ。こういう付き合いの良さが何とも嬉しい。ヤスとは興井の披露宴（前日がヤスの披露宴だった）以来だったから 6 年ぶり。23 期のほとんどが卒業以来この時くらいしか会っていないらしい。大津駅で待っていると向こうから学生時代と変わらず「やあ」と言ってヤスが来た。が、見てビックリ。確かにヤスなのだがあのヤスが丸くなったのである。2 合飯食っても太ら

ん、春合宿ではザックの方が重いなどと言われていたヤスが見事に丸い。聞くと結婚して10 kg 以上太ったらしい。まあ典型的な幸せ太り。体重も僕と逆転してしまった。ワングル時代を思うと考えられないことである。ヤスは広島大の大学院で心理学の学位をとり短大の講師をやっているとか、確か言ってた。カウンセリングもしているらしい。学生時代を知る我々からすると、大丈夫かな？と思ってしまうけど…。

話がかかなり横道に逸れてしまったが、打ち合わせの前に宮西と相談して幾つか候補をあげておいた。前回関西担当のときは白馬乗鞍スキーを企画したので今回は関西方面でやろうということになった。ただ、メンバーの大半は北陸なのでアクセスを考えると滋賀県北部あたりとなる。山なら伊吹山くらいかなあということで、山東町のグリーンパークに宿泊して翌日伊吹山登山というのが一つの候補。あと余呉のウッディパル、琵琶湖の水泳場という話も出たけど、僕の個人的好みで福井方面の海水浴を入れた。結局話し合いの結果、伊吹山登ってもなあ、ウッディパルじゃ今までのと余り変わり映えせんし、ということで海水浴に決まり。早速正月5日に宮西と越前海岸へ下見に行った。

最初は敦賀でも良いのではという話があったが、あのあたりは8月は大変な渋滞で早朝に敦賀インターを出ても浜に着いたら昼過ぎだったなんて話をよく聞く。越前なら武生か福井で降りればよいからあの渋滞はない。それに越前へは毎年数回必ず潜りに行っているのでこのあたりのことはよく知っている。実は僕自身山派より海派で、ダイビングクラブなんてものが大学にあったらそちらに入っていたかもしれない。越前へは通いはじめてもう20年近い。最近道路事情も良くなって昔に比べると随分近くなった。あの彦根の人が10人程亡くなった崩落事故の日も天気が良ければ潜りに行く予定だった。事故はいつも潜っているところから数百メートルのところでおきていて、強行して行っていたら崩落の大音響を聞いていたのだろう。

いつもは何人かで行って採りたての魚貝類（本当は漁業権の問題で採ってはいけないんです。ハイ。でもその場で食べる分くらいなら大目に…。実際、巡視の漁船が見回りに来たことがあったが「ここで食べる分くらいならいいけど。」と怪しい注意を受けただけだった。それどころか「これくらい小さいのは逃がしてやって。あの岩場辺りまでいくと大きいのがいるから。」とポイントまで教えてくれた）を焼いて浜でバーベキューをやりながら一杯飲む。これが最高！特に採れたてのアイナメの塩焼きは絶品。以前広岡を誘ってここでバーベキューをやった事があったが、「何ちゅう贅沢なことしとるんや」と感嘆していた。ただ最近ダイビングブームとアウトドアブームの影響か、昔ならどこに潜ってもいたサザエが激減している。たまにボンベを背負った数人が大きなケースに山盛りのサザエ・アワビを何杯か浜に揚げるのを見かける（ボンベでの魚貝類採取は違法らしい）。最近山でも高山植物が栽培ブームの影響で業者に不法採取されていると聞くが、金もうけの為なら何でもやってしまうというモラルの荒廃ぶりはさみしい限りだ。

話がまた逸れてしまったが、岩場に関しては精通しているが宿泊施設となるとまるでわからない。それで良さそうな旅館・民宿のパンフを手当たり次第かき集めていった。杉津から三国の手前まで約 60 km 走って一通り集め、やはり子供も多いし砂浜がいいだろうと越廼村蒲生海岸に場所を決める。岩場の続く越前海岸にあって貴重な砂浜だ。



1999年7の月か8の月に何かが起こる？

関西支部からの大予告

いよいよ1999年になってしまいました。今年はその予言の年。そうです、関西支部の当番の年なのです。ということで、恒例の関西支部忘年会の席で今回は、

越前海岸で海水浴と宴会

ということになりました。ぜひとも御家族で参加下さい。

民宿に1泊2日（夕方迄に順次集合、翌朝解散）で場所は検討中です。（新年に偵察済）開催日を下記のように計画しておりますので、参加可能な全ての日程と参加人数を返信はがきに記入して、

2月20日までに返送をお願いします。

※ 日程 (A) 7月24日(土)～7月25日(日)
(B) 7月31日(土)～8月1日(日)
(C) 8月7日(土)～8月8日(日)

正式な案内は、日程を決定して春頃ごろにお知らせいたします。

問い合わせは、石地または宮西までどうぞ。

越前海岸で海水浴と宴会

に参加できるすべての日程と参加人数（子供の場合は年令も）を記入下さい。一番多い日程に決定して予約を入れます。

日 程	大人（人）	子供（人数・年令or学年）
7/24(土)～ 7/25(日)		
7/31(土)～ 8/1(日)		
8/7(土)～ 8/8(日)		
氏 名		

御意見または近況をお知らせ下さい。

場所が決まったところで、宮西が上記の往復はがきで23期全員に都合を聞いた。その結果、日程は8月7・8日と決まる。最も条件の良かった民宿「よねや」も予約が取れた。下見しただけあつてこの民宿は本通りから一本浜寄りの海岸通りに面した宿で文字どおり目の前が海。1泊2食で大人7,000円、子供5,500円と値段も手頃。それでも4人家族だと交通費を含めて3万円近い出費になる。



海水浴

ワッゲル23期OB通信
関西支部



1999年夏、
海水浴の
お知らせ



お待たせしました。

春ごろに連絡する予定が、大幅に遅れまして申し訳ありません。

『越前海岸で海水浴と宴会』の日程を、おしらせいたします。



8月7日(土)～8月8日(日)

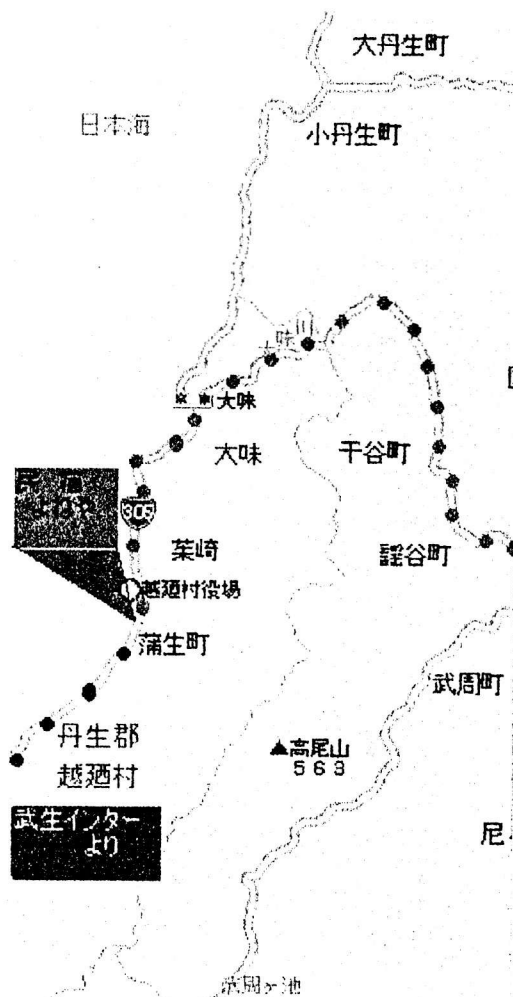
他の日程で返事を出された方も、ぜひご検討ください。

民宿の前が海水浴場なので、皆様適当な時間にお集まりください。民宿の駐車場にとめて、着替えや荷物あずかりも、民宿を利用できます。夜の宴会までは自由行動で、特には催し物を考えておりません。翌日も朝食後順次解散としますが、シャワーや着替えはできと思います。

最終の、予約確定のため同封のはがきに出欠を記入して**7月17日必着**で返送して下さい。

民宿は、よねやです。

福井県丹生郡越廼村蒲生11-6 TEL(0776)89-2266



8月7日～8日の 越前海岸で海水浴と 宴会に

- ☐ 参加
☐ 不参加



参加される方は、人数等記入ください。

大人 () 人

子供 () 人 年齢or学年 ()

氏名[]

ご意見または近況をお知らせください。

同封の、『よねや』のパンフレットも参考にしてくだ

前ページの通り、宮西の力作で案内状を送付した。一応企画として地引き網や体験漁業（大敷網の最後 30 分程を手伝うというもの）を探したが、地引き網は越前海岸ではやっていないとのこと。体験漁業も日曜の AM4:00 からということで参加者に呼び掛けはしたが早起きできる自信のある者はいないようで希望者はなし。

ということで、今回はメインを夜の宴会としてあとは各家族単位で楽しんだらいいだろうということになった。幹事の役割分担は、興井が花火とすいか割りの準備、宮西が会計とこまめな連絡係、僕が巨大クーラーを幾つか用意してビール・酒・つまみの準備、ちーちゃんは宴会盛り上げ役となった。

1 日目、僕はいつもの岩場で潜っていて（今回はカミさんが臨月だったので単独参加）宿に着いたのが夕方だったので既に全員宿に入っていた。聞くところによると三々五々宿に着いて家族単位で適当に泳いで夕方には宿に集まったらしい。そして夜の宴会。料理の方は舟盛りを 4 つ用意して値段の割には豪華そうに見えるようにした。ただ、半分近くは子供なので今回も終始子供会の雰囲気ですぐに花が咲くなんていう状況からは程遠い。それにしてもみんな飲まなくなった（飲めなくなった？）。それだけ年をとったということか…。宴会もそこそこに子供たちを連れ浜へ出て大花火大会。遠くにイカ釣りの漁火が浮かぶ静かな夜の海に色鮮やかな花火が舞い上がってなかなかの風情である。

そして子供たちが寝静まったあとが我々の時間。今回は宇野の話が中心だった。実は昨年末宇野から年賀状欠礼の葉書が来た。見ると奥さんが亡くなったとのことではびっくり。折しもその 1 ヶ月前、僕の高校時代の同級生で、同業でもあり、業界青年部の会長・副会長と一緒にやっていた友人が会長現役のまま急死したばかり（しかも亡くなる前日は親会主催の慰労会で隣で飲んでた）だったので、身近なところに続く不幸に暗い気持ちになったものだ。彼の会社は社員 50 名余りの我業界中堅企業だったが、今年に入って病身の親父さんも亡くなり若き指揮官を失った会社はあっけなく倒産してしまった。まさに人生何が起こるか分からない。

宇野の奥さんとは随分前の同期会で一度会ったきりだが、きわめて健康そうで病弱な雰囲気はかけらもなかった。宇野の話によると、一度ガンの手術をしていったん回復し職場復帰もしたらしいがその後転移したらしい。最期の方はかなり痛みに耐えかねていたと言っていた。幼子を残してさぞや無念であったろう。現在子供は名古屋の実家で育ててもらっているとかで毎週末福井と名古屋を往復するという大変な生活を続けている。普段は飲んだくれていたとかで（確か学生時代あまり酒が強くなかったはずだが今回一番飲んでたのは宇野だろう）、「何でみんな飲まんのか。ほんまに弱くなったな。」としきりにボヤいていた。翌日のこともあったので 12 時には寝たのだが、宇野ら 3～4 人はまだ飲んでたようだ。



○ ○ ○ 犬 ○ ○ ○ ○ ○ ○
 戸水村井 名倉中川 宮西 ○ 小久保 宮西 中川 興井 村井
 小久保 宇野 名倉 石地 戸水 高橋○ ○
 (撮影 興井)



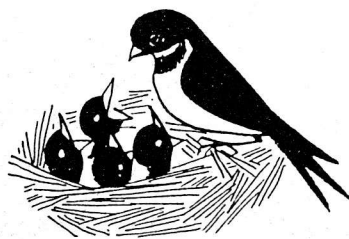
高橋 (旧姓塩山) 宇野

翌日、小久保、村井と子供たち数人が早朝より近くの港で魚釣りをしていたらしい。が、食べられるほどのものはとれなかったようだ。朝食後、集合写真を撮る。幹事が全員カメラを忘れて来たので戸水のを借りる。ナリの家族は所用により帰っていった。10時半からはすいか割りですれまで自由行動。その間を利用して沖のテトラポットまで泳いでみた。裏側にまわると砂浜なのに意外と所々サザエがテトラに付いている。これは後で子供たちに焼いてやれると採っておく（本当はいけないんです！）。小さなタコもいた。これも誰か喜ぶだろうと袋に入れる。浜に戻ると興井の家族がいたので早速子供にタコを見せた。気持ち悪いと言ってつかもうとしない。興井が「あれ、やっぱし石地やったんか」。何でもテトラの上から潜っているのを見ていたらしい。タコはすぐ逃がしてやるつもりだったが、興井の「食おうぜ」の一言であわれブツ切りの運命に。

10時半になりすいか割り。担当の興井は、砂浜だと台が要ると言って小さなみざらまで用意していた。ただ、砂浜でやると割れたすいかが砂まみれになりそうなので、結局は駐車場の空いた所を借りてやった。何人目かで棒が折れるハプニングがあったが、すいかもみんなに配り一応これで団体行動は終了。あとは各家族自由に泳ぐなりして適当に帰ってもらうことになっている。

さて、先程のサザエとタコだが、実は個人装備として20人分程度の焼きそばの準備をしてきていた。本当は昼食としてバーベキューをやればよいのだが、人数分コンロから鉄板から材料から用意するのはとても無理だから昼食は各自で食べてもらってちょっとした付け足しに子供たちだけにでも焼きそばをと思って準備しておいた。まずは網でサザエの壺焼き。それと前日たまたま採れたアワビを刺身にする。そして鉄板で焼きそば。豚バラと共に具になったのがタコのブツ切りである。これが意外とプリプリと歯ざわりが良くうまい。宇野がずうっと焼く世話をしてくれて、宿に残っていた数人以外の大半が舌鼓を打った。大いに盛り上がった昼食海鮮バーベキューであった。

こうして今回の同期会はお開きとなった。次は金沢が担当で何か企画してくれるだろう。この年になると1～2年ぶりでは変わり映えしないが、子供たちの2年は随分成長している。次回はうちも子供2人連れて4人で参加できるだろう。2年後が今から楽しみだ。



*田村 昭夫 0期

昨日（8月22日）、12期小西一家が拙宅を訪ねてくれました。楽しい語らいのひとつでした。近くの郡山市に越してきた由。表敬訪問を受けた訳です。

小屋酒場に出席します。

（80円切手ですから、準速達のはずです。）

（別便）拜啓 昨日、久し振りにカミさんと裏盤梯を散策してきました。思えば三十一年前、同床異夢はこの地から始まりました。そして昨日も又、カミさんが足を挫いたのにも気付かず、ドンドン歩いてしまいました。でけた。

「秋深し アキ・アキ夫婦 飽きもせず」

（昭夫）（昭子）

敬具

学制改革私案

0期 田村 昭夫



日本の大学生の学力低下が云われている。（これは今に始まったことではないが。）

学問は嫌いだが、学歴は付けておいて損はないと進学する学生がほとんどだから、これは当然なことである。

生活に心配のない経済的に豊かな階層の若者や、時間を持て余した年金受給者層が遊びに行く所、そこが大学である。ラッファエッロの名画「アテネの学堂」に画かれている人物達は、プラトン、アリストテレス、ターレス等で、時や歳を超越して勝手気儘に議論したり思索したりしている。教授も学生もいない、学問と真理を愛するものの集う所が、ラッファエッロの画く理想の学堂である。従って、入学試験や卒業証書など無用となる。

一方、貧しい家庭の若者は生きる為の技術を身につける必要がある。その様な青年の進学先は各種専門学校がある筈だ。そこでは、厳しく、

自立出来る青年を鍛える場としたい。

専門学校では授業料を無料とする。しかし、卒業試験は厳し過ぎる程にする。一方、高等遊民達の集う所、大学は、高い受講料をとり、講師（*1）達への謝礼とする。

教育、経済、法学、医学、農学、工学（*2）等の実学は大学の学部から外し、専門学校に譲るべきだ。老若男女が、宗教、哲学、文学、芸術等を楽しく学び合う楽園が、大学の本来の姿である。

つまり、旧学校制度に戻すことだ。旧学校制度はドイツに学んだものだが、戦後GHQの云いなりになって米国の制度を真似てしまった。本家ドイツは米国の云いなりにはならず、制度を取り入れなかった。頑固なゲルマン魂をそこに見る。

*1 講師は誰でもなれる。

*2 工学を大学の学部に入れたのは、日本が最初である。科学と技術は全く異質なのに、科学技術などと云う言葉を作ったのも日本だけである。

ミレニアムに思う

0期 和飲酒多飲

日本は今、老人大国である。

「人生五十年」と云われた約百年前と比較して、はたして今の八十才の老人達は幸福だろうか。むしろ長生きする事に負担すら感じてはいないだろうか。介護医療など無用と思っている老人も多いのではなからうか。

人生とは退屈以外の何者でもない。特に、子供が成人してからは。

孫の顔を見たいとか、孫の結婚式に出たいなど、贅沢と云うものだ。少なくとも私は孫など見たいとは思わない。

出来れば、晩年はベルクハイムに住みつき、金沢市民の「憩いの場」としての倉谷を守りたい。そして倉谷の地を市民と「渡鳥」達の交流

の場としたい。さらに子供達には、自然の優しさと厳しさを体験させたい。

それにはダムからの道を整備しなければならぬ。建設工学出身のワングルOBの出番である。

また、木炭の製造工場を今年こそ立ち上げたものである。昔倉谷で炭を焼いていた人達に秘伝を習い、後世に伝え、且つ、元気な老人達の生き甲斐の場を作ることが、我々金沢大学ワングル部役割でもあると思う。



21世紀へのお荷物 (金大ワングル同志への メッセージ)

喰っちゃ寝老人、五十過ぎのサラリーマン、年金生活者、税金にたかるウジムシ達。しかし浮浪者（ホームレス）は決してお荷物ではない。腐敗、墮落した今の世で彼等こそ立派に自立した掃除人（スカベンジャー）即ち、「糞コロガシ」（スカラベ）である。

私は21世紀の偉大な「糞コロガシ」になりたい。

*岩井 修 3期

拝啓 KUWV部を創設するメンバーの一員となり、WV活動にすべてを忘れていたのはもう40年の昔の事です、私の充実した青春の日々でした。以来、山登りは続けましたが、いつしか企業戦士となりひたすら仕事と生活に没頭した日々となりましたが、それはそれで良い人生でした。”人は生まれ、生きている限り社会のお世話になっている。だから働く事により少しでもお返しをするのが人の道”との人生哲学に従って歩いてきた人生です。何も思い残す事ありません。

しかし私も2000年3月には60才となります。
(1998年2月にはもはや私を必要としなくなった武田薬品を退社し、私を必要とするニッショ

ーに入社し、新しいプロジェクトで毎日13時間働いています。)

1999年11月13日には初孫(サッチャン)が生まれました。そろそろ人生の転機として”死ぬための準備”に入る時期かなと考えています。
ヒンズー教で云えば

私の今の状態 オワリ
生まれ 学生期 家主期 林間期 放浪期
(一人前になる勉強) (家族を守る) (一人に彷徨っている) (たれ死ぬ)

俺は今から田村教祖よりスゲー事をやらかすぞ!!

OBとして何もしなかったのに、いつもいつものお便りに感謝しております。 敬具

*森島 稔 4期

残暑お見舞い申し上げます。大変遅くなってしまうましたが、7月から左記へ転居しております。6月までの間は送別の毎日、7月から挨拶まわりで、1ヶ月してようやく平常になりつつありますが、未だです。

2月からの月一登山の様子は別にまとめてお送りします。

*高田 昌嗣 4期

いつも一方的にお世話になっております。1月にドイツから帰国し、6年ぶりの日本の酷暑の洗礼を受けて、ほとんど夏バテの状態です。これでやっと日本に腰を落ち着けることになったので、今後はOB会の行事にも参加出来るものと楽しみにしています。

3期の登内氏の後をうけて、サラリーマンを卒業する日もそう遠くないところまできたので、これ迄に出来なかった山歩きの復活と晴耕雨読の新しい人生に向けて、もっぱら体力の維持、増強に励んでいます。

私の郷里は福岡県久留米市ですが、名簿によると6期の石橋、大崎氏もあり遠くない所に居られる様なので仲間に入れてもらおうと思っ

ています。

*川島 勇 5期

やまざと11号有り難うございました。皆さんの
お便りを拝見し、青春時代にタイムスリップ
したような気分になります。

小生も最初の職場を4年前にリタイアして
現在第2の職場で時間的余裕も出て山歩きを楽
しんでおります。

昨夏は北アの表銀座通りを常念岳から燕岳へ
縦走を楽しみましたが、今夏は7月24-25日
に南アの北岳へ、続いて8月7-8日に北アの
白馬岳を楽しんで歩いてきました。中高年の山
歩きで、幸い両方天気に恵まれ、特に白馬岳か
らの展望は素晴らしく、高山植物の花々と共に
強い印象に残りました。

山歩きを出来る喜びを味わいつつ頑張ってお
る昨今です。

*林 克郎 5期

毎回やまざとを送付して貰いありがとうございます。

この度転勤し、表に記載の場所に移る事にな
りました。勤務先はNTNトランスミッション
ズヨーロッパとなります。

OB会誌は今後再び帰国する迄、送付を止め
ておいて下さい。OB会の発展と、OB諸氏の
ご健康とご活躍を祈っております。

再度皆様及び会誌にお会い出来る日を楽しみ
にしております。 以上

*合津 尚 6期

今年の夏は東北も暑くてビールばかり飲んで
走り込みが不足でした。

4、5月は山菜取りで忙しかった。熊が多い
ので大変です。5月22、23日焼石岳の一角、経
塚山(1300m)に登りました。雪が多く、冬山的
でした。

7月31、8月1日岩手県内で最も秘境といわ
れる和賀岳(1400m)に登りました。春には雪が
多すぎてナダレの危険があると思い、見送った

のですが、夏は簡単でした。

「やまざと」の倉谷や犀川の資料懐かしく拝
見しました。S39年には犀川ダムのコンクリー
トの配合を実習でやっていました。水漏れして
いませんか？

*今井 春昭 6期

御無沙汰しております。というよりも怠けて
おりまして申し訳ありません。OB会事務局の
舟田さんに心から敬意を表します。現在県立岐
阜商業高校に勤務しておりますが、その関係上、
10期寺本氏、16期川端氏とは懇意にしてもらっ
ています。

*伊予 欣二 8期

いつも御苦勞様です。舟田さんのすごいパワ
ーと、懐かしい顔と便りを載せて、楽しく読ま
せて頂きました。

私の方はかなり前の白山が最後のままですが、
敦子さん(10期)は近郊の山歩きや、北アを歩
いています。今年も針木一鳥帽子を歩いて来て
コマクサがきれいだったと。

今後ともよろしく願い致します。本日遅く
なりましたがようやく振込ました。

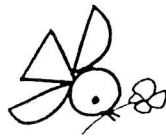
*篠島 益夫 8期

やまざと11号を受け取り、昔の仲間や山の情
景に想いをめぐらしながら読み始めたところ
です。

今年は5月10日の四国の剣山に続き、7月10
日には山陰の大山に嫁さんと一緒にチャレンジ。
登山口から1000mの標高差の登りは久しぶりで、
だいぶシンドかったが、コースタイム通り3時
間40分で登ることが出来て、まだいけるぞと少
し自信を回復した所です。

夏後半から秋にかけては広島、島根、岡山県
の県境の1300m級の山々と四国の石槌山を楽し
むつもりです。

鳥取の大山は、遠目には岩峰の連続のように
見えた南峰も、多くは山の崩壊による地面の露
出景観だと判ってきましたが、山全体の崩落が
ひどく、高山植物も巻き込まれて被害が出てい



るやや痛々しい山でした。日本列島や山の歴史で起きている現象でもあり、泥縄のような崩落防止工事も自然の歴史に逆らっているような感じでした。

OBの皆様の自分流ワングル活動を、やまざと誌面で教えて下さい。 以上

*白井 勇 9期

拝復 会報お送りいただきありがとうございます。

ワングルOB会もE-Mailですか。山村先輩、篠島先輩はじめ、同期の伊藤、山中、保田兄達の老眼にもめげずキーボードにむかわれている姿が目にかびます。

小生、目下殆ど「会社人間」です。四日市の片田舎の倉庫会社にも「国際会計基準」の大きな波が押し寄せてきており、21世紀の生き残りをかけて無い智恵をしぼっています。



*木津 治男 10期

前略 「やまざと11号」受け取りました。ご送付ありがとうございました。毎回ボリューム満点の労作ご苦勞様です。久し振りに、青春時代の懐かしい仲間の便りや、山の息吹にふれ、このところの猛暑にうだっていた身も心も少しシャンとした気分です。

e-mail通信は限られています、送信する方が割とフリーな気分で送れるので面白いと思います。

上村氏の自然保護通信や御大田村氏の便りは面白く読みました。田村氏の「新平家物語」はかつて部室に備えてあった落書き帳を髣髴とさせるもので、ついにやにやと読んでしまいました。また、石川の百低山や犀川源流等のガイド記事はちょっとした情報ですね。利用実践にほど遠い者にとっては豚に真珠かも。

現役の合宿メモからは、8-9日間の北ア南ア4Party と少な目になっていますが、今昔も変わらぬコースで「あーやってるな」という思いです。

本号でOB会のHPが掲載されていることを

知り、早速アクセスしてみました。世の移り変わりを感しました。

次の5年分の会費送ります。よろしく。

*白石 淑子 10期

会報ありがとうございました。会報を読んでいると、まるで学生時代にタイムスリップした様な感じになりました。

今年の夏のあまりの暑さに、暗くて冷たい沢の五指に入る甲川（きのえがわ・大山山域）へ行ってきました。何度行ってもおもしろい沢ですが、年々体にこたえます。

スノーブリッジをぬけて眼前に現れた犀滝に対面した時の感動は今でも鮮やかに残っています。あれが沢歩き初の体験ではなかったかと思っています。

*寺本 典生 10期

やまざと11号ありがとうございました。その後のことについて

- 1) 我が校にも山岳同好会が発足しました。熱心な新入生と、昔の山仲間である学年主任が顧問になろうということで、渋る教頭をなだめて…。早速活動を始めていますが、小生は日程が合わず、なかなか同行できません。
- 2) 11号では、先輩諸氏のEメール原稿からのものをたくさん読ませていただき、再チャレンジを考えております。前の所属では、受けても、回答は次長室へ走ったり、庁外へは電話…。こころで心を入れかえるべきようです。悪筆や字の書き誤りもカバーできますし…。

*矢崎 利哉 11期

創部40年。早や半世紀経つとは、我々の時代に、10周年記念をし、創部時代のツワモノにお会いし記念号を出したのですが、それもはるか昔のこと。

すさまじく動いているこの頃に、変わらぬ自然とワングル魂をかいま見れるのは何にも変えがたく…。小生、最近は御近所様とテニスに熱を上げ、愚妻との年1回の山行（温泉）を楽し

んでおります。諸兄の御健康を。

*津田 伸生 12期

拝啓 大変ご無沙汰いたしております。OB
だよりをお送り頂きながら、ご連絡をさしあげ
るのが遅くなり申し訳ありません。

小生、四半世紀の東京暮らしを経て、昨年10
月に金沢へ戻ってきました。その矢先に大出氏
の事故があり、こちらでは会えずじまいとなり
ました。

本年8月21-22日に、彼の追悼を兼ねて12期
OBを中心とした集いの会を河内村千丈温泉で
開催しました。

12期で金沢在住は大出夫人と小生のみですの
で、今後イベント等ありましたら、ご一報頂け
れば幸いに存じます。 早々

大変遅ればせながら、11年度OB会費5000円
を振り込んでおきました。

(事務局より。年会費は2000円ですので、2.5
年分と処理いたします。)

*橋正 徹 13期

昨年の医王山記念山行以降、ゆっくりとしか
も確かに心の中の重要な部分で、山の思いか頭
をもたげてきつつあります。

今は、第一段階として、NHKTVの趣味悠
々の「日帰り登山で基本を学ぶ」のテキストを
購入し、また放送を視聴し、勉強を始めました。
同期の吉田穂積君から最近の登山情報について
情報を得ることも忘れていません。勿論、きた
るべき山行に備えての靴の購入積立預金を始め
る必要性も感じています。何年か後には、この
「やまざと」誌上にて山行報告が出来ればと願
って止みません。

ところで、能登に生活の根拠を置いて後、20
数年にわたって、能登の山々の植物について、
特に穴水の植物について調査を進めてきました。
今、手元には記録が整理されていませんが、そ
のうち植物のリストだけでも紹介できればと思



っています。特に三角点周辺の植物については、
身近な低山の日帰り登山の継続の「証」とも言
えるもので、是非にと思っています。

5万分の1の地形図や2.5 万分の1の地形図
が手の届くところにある生活を大切にしたいと
と思っています。

*辰野 隆義 13期

13期生がさる11月13、14日に第7回目の集い
を開催しました。今回のサブタイトルはベタベ
タの東京見物。東京在住27年の島崎君がコーデ
ィネートしました。

その中でも最も話題となったのは、13日の夕
食でした。連れていかれたのは、有名な「どぜ
う屋」。どぜう鍋に、柳川、蒲焼、汁物、骨煎
餅と一生分のどじょうを一晩で食しました。そ
の数推定 50-60/人。

おいしかったと言う人、もうこりごりと言う
人、反応はいろいろありましたが、貴重な思い
出となりました。

*伊藤 直和 14期

住所が転々と移動します。転居も14回目。人
事異動も12回目となりました。あと何回できる
かな。

*上馬 康生 15期

槍ヶ岳の暑中見舞いありがとうございました。
うらやましいです。

当方ようやく8月から職場復帰しました。体
調はまだまだで、今年の山歩きはあきらめまし
た。毎日自主的なリハビリ、トレーニングを続
けています。

15期会に今年こそ出たいです。息子がワンゲ
ルに入って、今合宿で南ア北部へ行っています。
まだまだ残暑厳しそうです。ご自愛下さい。

*間所 新一 15期

6/14ワンゲル15期関東支部の佐野君歓迎会
(松縄、間所)

7/10ワンゲル15期会夜叉神峠ハイキング

(佐野、松縄、間所)

7/10-8/1 北岳登山

飲み会で決まったハイキング、その時の夜叉神から見た北岳に刺激を受けて、久々に山に登ってきました。

久々の山行きでしたが、昔のなつかしい感覚を少しばかり思い出しました。これからチョットずつ近くの山を登ってみようかなという気になっています。

*金井 澄 15期

先日(10月19日)、久々にテントに泊まりました。仕事です。2年ぶりに明石の海岸に産卵に来たアカウミガメの卵が産まれそうだとこのことで、泊まり込みました。

波の音や星空の中で、仕事を忘れ、生き返った心地になりました。たまにはテント生活もいいものだと思います。

ところで、パソコン始めましたが、金沢大学のホームページには行き着きましたが、ワンゲルのページが見当たりません。そのうち近況もe-mailでと思いながら過ごしています。

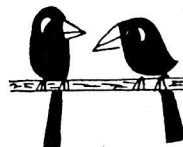
それから、この夏、高校卒業30周年の同窓会をして、おっさん、おばさんが再会しました。思えば石川門をくぐって30年…。早いですネ。

(冒頭のカメの子供は、神戸と姫路の水族館に展示しています。機会があれば見て下さい。かわいいですヨ。)

*佐野 哲雄 15期

最近、奥名会長の故郷の宇都宮へ行く機会がありました。途中、浦和付近の車窓から思いがけなく雪を頂いた富士山がキレイに見えました。何度も通っているのに初めてだったので、チョットと感動しました。

2000年は富士山の見える山々に出掛けようと思っております。



*大家 慎一 17期

やまざと11号うけとりました。ありがとうございます。毎回熱心に読んでおりますが、通信

せず、非礼をおわび致します。奥名会長、舟田事務局長ともに大変な苦勞をされていることに頭がさがります。

今回はじめてワンゲルのホームページを読ませてもらいました。九州に帰ってから13年、山とは随分遠ざかっておりました。大分の山々にも、素晴らしい自然が残っております。身近な100m級低山にでかけようという意欲がわいてきました。

OB、現役の諸氏、九州を訪れることがあれば連絡して下さい。

*森 博彦 18期

開業して10年が過ぎました。今回、事務所移転5回目となります。ワンダーフォーゲル出身者らしいでしょうか。

*石田 郁子 21期

いつもありがとうございます。住所変更のお知らせもタイムリミットで遅くなりましたが、お知らせします。なつかしく楽しく読ませていただいています。

*加藤 万里子 21期

先日金沢へ行った折りに、金大の跡へ行ってきました。建物は全部なくなり、何か新しい物が建てられていました。(お城ができるのでしょうか?) 植物園だけを歩いてきました。下草がぼうぼうだったはずが、切られて歩き易くなっていましたが、やはりさみしく感じました。

*難波 清芽 26期

いつもありがとうございます。

8月中頃、浅草岳(1500m位、南会津)只見登山口にてテントを張り、夕暮を楽しんでおりましたところ、オロロとアブと、蚊と、羽蟻の大群に襲撃され、全身痛かゆになりました。尚、只見の名誉のため申し上げておきますが、登山口そばには、水洗トイレも水道もあり、広々と美しい所です。夏期、南会津の山々へアクセス

するなら、只見町の「いこいの森キャンプ場」は虫に悩まされず、お勧めです。(車一台3000円)

*定田 誠

26期

ごぶさたしています。3年間横浜にいましたが、異動で再びいわきに済むことになりました。横浜在住の間は、休日も委員会活動のため、思うように休めない状態でしたが、5年ぶりに職場復帰となり、少し落ち着いて生活できるようになると思います。

10年近く山とも遠ざかってしまいましたが、子供も3才となりよく歩くようになったので、ハイキングから始めようかな？と考えはじめています。

*浜本 信一

28期

会報・案内状等の発送いつも御苦労様です。依頼のありました佐原 康之君の転居先ですが、実は私も把握しておりません。お互いに連絡をとりあうことが稀になってしまっておりますので、調べる手段も思いつかない状態であります。誠に申し訳ありません。

この場を借りまして。

佐原様につきましては、早々と年会費も納めていただいております、不明とする訳にもいきませんでした。昔の部誌ベルクハイムから実家をつきとめ、「現在海外勤務中」と判明しました。

上記のように、転居先不明者は、同期代表連絡員にお願いして、探して頂いています。それでも年々、疎遠になるのは仕方がなく、せっかく実家に連絡がとれても、近年は友人・同窓会を騙った不審電話も多いため、思わぬ叱責が返ってきて狼狽することもあります(24期麻田連絡員にも不快な目に会わせてしまいました)。

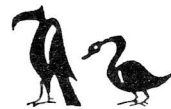
もし、不明者につきまして、連絡先をご存じの方がいましたら、一言通信に書き添え

てお知らせ下さい。

*土井 泰彦

28期

事務局の皆様、いつもありがとうございます。やまざとを読むことで、日本中どこにいても、金沢や白山のことを思い出すことが出来ます。今後もしよろしくお願い致します。



年賀状からちょっとだけ追加

一編集長はもちろん、年賀状など載せる予定なしで、原稿催促をしています。ところが海度一となってしまいます。元凶は一。

*中山 美津枝

7期

ご活躍うらやましい限りです。私、何事もほどほどにどうにか頑張っております。昨年は山行き8回ほどでした。

*三宅 毅

15期

同期会への出席できなくてすみません。仕事の方が営業で忙しくて大変です。体は健康にしています。

*北川 隆次

16期

細かい文字に、眼鏡を外す昨今です。

*山内 政司

16期

子供も大きくなりましたが、夏休みは家族で軽い山行をやっています。いつまで続くやら一。

*辻村 善徳

25期

御無沙汰しております。子供につきまとわれここ2年程山から遠ざかっておりますが、今年こそはと思っております。

*北村智明・高木美保

29期

5月19日に風樹が生まれ、その日に200匹の金魚、8月には90匹のカブト虫が誕生とベビーラッシュの一年で、ますます賑やかになりました。

*深井 嘉浩

29期

今年の雪はどんな様子でしょうか？転勤で、
東京から名古屋に戻り1ヶ月、ようやく”自分
らしい生活”を取り戻しました。

DAI-ICHI KANGYO BANK EUROPE N.V.
APOLLOLAAN 171 - 1077 AS AMSTERDAM
P.O. BOX 7075 - 1007 JB AMSTERDAM
THE NETHERLANDS

TEL. 31-(0)20-5740200
FAX 31-(0)20-6760301
SWIFT: DKBLNL 2A

26期 浅井 浩一郎

Merry Christmas ! 2000年まであと僅かとなりましたが、如何お過ごしのことでしょうか。

今年になってようやく国内留守宅(妻実家)よりワンダーフォーゲル部OB会書類(ベルクハイム35周年号、やまざと会報8号等)が届きました。私自身、長らく海外勤務の為、音信不通でご迷惑お掛け致しましたこととお詫び申し上げます。また、93年にOB会が結成され、KUWVを愛するOBの方々のご尽力で意欲的な活動が行われていることを知り、大島様や船田様等のご活躍にまったく頭の下がる思いであります。

私、浅井 浩一郎は92年に一年間国内留学したあと、93年4月にアメリカ・ロスアンゼルス支店に赴任、その後97年3月にオランダ・アムステルダムにある欧州第一勧業銀行に転任し、日系企業課長を務めて現在に至っております。26期の同期数名とも年賀状だけのやりとりとなってしまいましたが、KUWVの話題が出てこなかったのは、私の不徳の致すところであります。

結婚後は登山から遠ざかってしまい、いまや山一つない低地地帯のオランダに居りますが、山を愛する気持ちに変わりなく、ヨーロッパに来てからは夏休みは毎年スイスと決めてます。取りあえずマッターホルン(ツエルマット)、ユングフラウ・アイガー(グリンデルワルド)、モンブラン(シャモニー)等の主要ポイントは制覇しました。因みに今年はグリンデルワルドに一週間滞在し、一歳の次女を歩荷しながら家族ハイキングを楽しみました(体力の衰えからか4000mを超えるユングフラウヨッホでは高山病状態でしたが、雪原をスニーカーでうろうろしました)。展望台としてはモンブラン中腹のエギーユ・ド・ミディ、ハイキングにはグリンデルワルド(ワルスト、マリツェンなど)、山の美しさはマッターホルン、麓の町としてはシャモニーがそれぞれ一番です。

仕事の話に変わりますが、七年間国際金融業務に従事し、ジャパンプレミアムや欧州通貨統合等を体験しました。欧州第一勧業銀行日系企業課ではイギリスを除く欧州大陸日系企業取引を管轄しており、西はスペイン、東はポーランド、南はイタリアまで出張ベースでカバーしています。ご存知の通り弊行は日本興業銀行、富士銀行との統合が決まっており、2002年の本体統合に先んじて、2000年中にも海外現地法人統合が行われる可能性が高く、帰国はまだまだ先のこととなりそうです。

KUWV・OB会については自分自身情熱を燃やした時代もあり、会費などなにかお役に立てることがあれば申しつけ下さい。ただ連絡先は恐縮ですが以下として頂きたく存じます(留守宅に送って頂いても、こちらまでは緊急分・重要分以外届きません)。

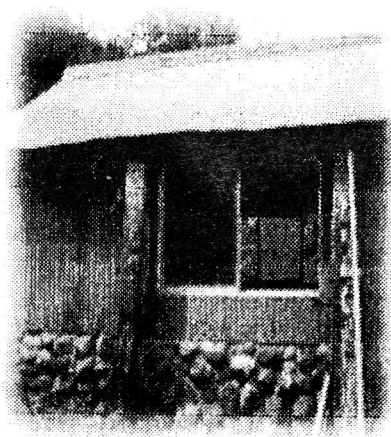
今後のKUWV・OB会のますますのご発展をお祈り申し上げます。

住所 : WEZER 26 1186LK AMSTELVEEN THE NETHERLANDS

電話番号 : 31 (国番号) -20-640-9907

氏名 : Koichiro Asai

ワングルHPの1月3日の表紙です。画面ではかわいい蛙チャンが顔を出して挨拶してくれますが、印刷しようとする、「変換中です」が表示されて、このスタイルになってしまいます。笑ってるのだあれ？編集長にすれば、感激の進歩なんです！



Bergheim

◆冬合宿レポート 前田顧問より OB通信 01/03 青柳（11期） 長岡（11期）（道 路情報あり） 森川（11期） 松林（15期） 清水（16期） ◆OB通信 12/23 森川（11期） 舟田（15期） 加藤（11期） 藤野（17期） 青柳（11期） 現役の部屋 前田顧問より ◆OB通信 12/17 加藤（11期） 森川（11期） ◆現役の部屋 12/10 前田顧問より冬合宿・ ．． ◆OB通信 12/10 清水（16期）	◆第3回OBスキー合宿 ところ：野沢温泉「ふるさと」 とき：平成12年2月26・27日 ----- 2000年行事予定 ■お花見コンパ（予定） ところ：沈床園 とき：4月15日（土） ■若年・中年・熟年・老年 in倉谷 とき：5月12日～14日 ところ：もちろんベルクハイム ■白山で会いましょう とき：8月5日～6日 ところ：南竜	◇舟田事務局長ヒマラヤへ 2000/2/22～3/5 ◇村田（7期）最高賞受賞 「北國女流美術展」写真部門最高賞 剣岳の写真で受賞  ◇長岡（11期）古地図に関し寄稿 地図に興味のある方は是非「ラパン」冬号別冊  ----- おくやみ：鈴木 正國（4期） 12/24
--	---	--

会長の「石川の百低山シリーズ」は、会報11号で紹介の後、「巻10 西市瀬山」「巻11 後高山」「巻12 白抜山」「巻13 還水観音山」「巻14 高尾山」そして今回の「巻15 倉ヶ岳」となっています。私の機械の印刷モードではこのタイプでしか出てきませんのでもっと鮮明迫力あるカラー映像は、HPから直接お楽しみ下さい。

HPでは、OB各位のHPへのリンクも行っています。「このHPは役に立つので紹介したい」の情報も歓迎です。

100m級低山紀行

石川県、特に金沢近郊の山と名の付く丘のようなところ
写真・文 15期奥名

◆倉ヶ岳



倉ヶ岳 標高 565.4m

倉ヶ岳への道はいくつかある。もっとも手っ取り早い行き方は頂上直下の大池のすぐそばまで車で入る方法であるが、これだとあまりに安直すぎて、山に登るというよりも散策に近い。

今回は風吹き峠経由で倉ヶ岳へ向かった。名前の通り「風の吹き抜ける峠」で、現在は金沢から獅子吼へと通じる林道がほぼ南北に走り、これに交差するようにかつての鶴来・内川を結ぶ道があり、その交差点が風吹き峠である。犀川の支流である内川にダムができる前は、内川沿いにある部落は金沢よりもこの峠を越えた鶴来のほうが交流の中心だったようだ。その村々がダムの底に沈み、この峠越えの道は廃れた。

峠あたりは樹木に覆われて暗い。

その薄暗さのなかに30体ほどの仏がおかれている。顔つきがおっとりして大きめである。



風吹
峠の
仏群



風吹
き峠
から
登り
きる
と緩
やか

風吹き峠からは急な登りが続く。道ははっきりしているがかなりの急登で、しかも滑りやすい。それも15分ほど耐えて登り続けると尾根筋に到達する。ここからは多少のアップダウンはあるもののほぼ平坦な尾根道で、歩く分にはまったく苦にならない。ただ、道は林に囲まれているためあたりの景色を楽しむことはできない。

ほとんど行き交う人もなく、カモシカも人が来ることを予想していない。出会ったカモシカはすぐそばにくるまで気づかなかったようだ。（



頂上
間近
の岩
場

な アッ プダ ウン の道 が続 く(	こちらは随分前から気づいていた) 間近にヒトが現れて驚き、あわてて飛び跳ねるように鶴来方面の斜面へ走り去った。カモシカはウシ科の動物でシカとは違う。体型はズンドウで足も短く、シカの精悍さあるいはしなやかさというものが見受けられない。それでも「カモシカのような足」という表現があり、どこからそのようなたとえができたのか不思議である。	
 頂上か らの展 望	平坦な道を進み杉林を抜けると大池にぶつかる。杉林のなかにはスギヒラタケが採りきれないほど生えており、人の少なさを窺わせる。 大池は静まり返っている。このすぐそばまで車で来られるにもかかわらず人はほとんどいない。この大池を右手に巻くように登っていくと途中岩場があり、ロープを頼りによじ登る。この岩を登り切ったところが一番の展望で手取川の扇状地、蛇行する手取川、その川をきれいに平行にはさむ河岸段丘などが見渡せる。そして、あそこが倉ヶ岳とすぐ指させる目印となっている大きなアンテナも不細工に目の前にある。 それに引き替え頂上の展望はあまり芳しくない。	 大池

E-MAIL便り

*「打ちマメ」の方につきましては、山関連情報のみに削減しました。

*同一人においては、最新のものから逆の順での掲載になります。

*文明の利器インターネットは、OB会のように会員が全国に散らばる組織にとって、今や必須の情報手段です。廉価、簡便な機種もありますので、是非とりくんでみて下さい。(というわりには、筆者は初心者のもまで停滞...)

アドレス報告の方には、折々のOB会通信が発信され、HPでは最新情報を見ることができます。

*このようなハイテク時代にKUWV・OB会が乗り遅れずに済んだのは、ひとえに奥名OB会長の御蔭です。OB会にあっては、会長は名誉職ではなく、激務職となっています。この厚意に応えるのは、皆さんからのメッセージ。どうぞキーを叩いて近況をお知らせ下さい。

8期 山村

99年07月28
日

7月25日26日、会社の友人夫婦と二組で立山へ行ってきました。一日目は室堂山、浄土山、雄山往復室堂のコース。わずかな晴れ間と雨がばらばらと来た他はほとんどが薄曇りとガスの中。それでも群生する花々の華麗、可憐なこと言うことなし。泊りは大賛沢して弥陀ヶ原ホテル。天候も回復して最高の夕日と夜景そしてディナー。翌日はちょうど良い晴れ具合で、再度室堂へ向かい、のんびり散策。ここでも花々の歓迎と、大日、剣、立山三山等々の眺望絶佳。

大自然に歓迎されたのは良かったのですが、カップラーメンとコーヒーの準備をして行ったのに、ヤカン忘れる不始末。年のせいにしたらいかんとは思いますが、忘れた事実はどうしようもない。

それではいづれまた。

99年11月16
日

KUWV・年忘れの会で楽しく締めくくろう会

先日ご案内いたしました件につき、皆さん早速ご返事をいただきました。そして久しぶりに多くの方の都合がつかしました。ありがとうございます。

なお、日時につきましては、12月10日(金)の希望が多くありましたので、当初予定を変更しますのでよろしくお願いします。

つきましては、最終版として下記の通りご案内申し上げます。

記

1. 日時 12月10日(金) 6時30分
2. 場所 葵荘 (NTT関連施設。いつも俊成さんの世話で確保しているところで
す。)
港区赤坂1-5-11
電話 03-3583-7655
地下鉄銀座線、南北線の溜池山王駅近く
3. 出席者 (順不同)
吉田洋次郎、伊藤俊成、保田敦、伊藤博道
清水一、森本千秋、鍋島武

以上

追。

1. 俊成さんへ 葵荘については、10日の方の確保をお願いします。
 2. 森本さんへ 私のPC技術未熟のため、あなたのメールアドレスを消去しました。申し訳ありませんが再送願います。
 3. 山中さんへ 予定が変わり、都合よくなればぜひ参加願います。
 4. 皆さんへ 葵荘の地図が必要な方は連絡ください。お送りいたします。
- 鍋島 武 TEL&FAX 047-485-5034 (自宅)
E-Mail nabeshima.nabeshima@nifty.ne.jp
TEL 03-3746-6458 (日産火災)
E-Mail nabeshima44142@nissan-ins.co.jp

99年10月08
日

10月11~12日待望の北海道十勝岳に登ってきました。
平日をかけたの登山で人っ子ひとりいない山行で熊がでてこないか心配でしたが、北キツネに会っただけで快適な一時を過ごしました。
帰りに、宮沢りえの入った吹上げ温泉の露天風呂に入浴して空路東京につきました。
11月には、九州の祖母山に行く予定です。

99年08月14日

やまざと11号 有り難うございました。
年会費未納でしたので、早速振込み致します。当方 年初より坐骨神経痛でMRI診断の結果、腰椎椎間板ヘルニアで一時は手術の覚悟もしましたが、徐々にしびれもやわらいできました。老後の楽しみは軽登山と決めていますので完治必須です。ヘルニアの自然消滅が、あると聞いています。ワングルOBは医学部の方が多のですが、手術せんでも直りますよね。
整形の先生、お教えてください。
親の苦しみ子知らず、で息子はTUWV(東京にあらず、徳島)で建設へ行っていますが夏休みは朝日連峰・後立山・阿波踊・バイトで、家から見えるJRを通過はすれど、我が家へ寄ろうとしません。卒業後も自分と同じで、あてになりません。

第 9 期 平村 耕作

FROM: "Kosaku Hiramura" <hiramura@mx.biwa.ne.jp>

SUB: 犀滝について

こんにちは

「やまざと」ありがとうございました。

今回 犀滝の特集が載っていましたが

とても楽しく懐かしく読みました。

前回の連絡で” 自然人夏号” に犀滝の特集がある
と聞いて随分本屋さんを探しましたがありませんでした。

現役の時 犀滝が好きで何度も行きました。
特にs 4 1. 5. Eに3日間かけてテントを持ってベルクハイムから
犀滝を通って見越山までいきました。あの時高橋君と一緒にでしたが、
とても良く覚えています。(高橋君は今どうしているのかな?)
美しい犀滝を後にしてどんどん登って行くと深いブッシュが連続して
それをかき分けて稜線に出たときは夕暮れで赤い夕日が印象的でした。
あの頃はタバコを吸っていましたが、夕日を眺めてタバコの煙を
くゆらす! ああ 醍醐味だったなあ!

ということで今回の特集にいたく感謝いたします。

10期 木津

99年8月14日

本日、船田節子さんより恒例の「やまざと11号」受け取りました。
KUWV_OB会の専用HPが存在するなぞと、つゆ知りませんでした。
アクセスすると、なんと懐かしい人たちのメッセージがたくさんあり、
一人一人の懐かしい肉声が伝わってくるようです。
これで又、ぐっと身近に感じるようになりました。
会長や節子さん、その他世話人の方々のご苦勞忍ばれますが、今後もさらなる
盛り上げを期待いたします。小生も参加できる機会が有ればと思いつつ、つい
諸々の世話に明け暮れております。 99.8.14 木津 治男

11期 青柳

99年11月14
日

やったね! おめでとうございます。
女流最優秀賞受賞とはさすがです。

ワングルHPで、お姉さまの立山山行と舟田の節ちゃんの穂高山行を拝見、
絶好の日和のなかで、絶景の山岳紅葉を楽しまれたさまを知らされ羨ましく思っていたもので
す。

良い写真ができていますか楽しみとのことでしたが、結果がこの賞に結実したとは、またまた羨
ましかぎりです。

私も、はるか25年ほど前の夏、はじめて買った一眼レフ持参で、北穂高に登った時
に撮った写真(大キレットから槍を望む)で、神戸市の市民写真展に応募し入賞した
ことがあります。それ以降は自己満足の世界で写真を楽しむのみ。
本格的な写真展への応募などは、夢のまた夢。

残念ながら、展示会にはいけない身。どうか成果をワングルHPに掲載するか、
ポストカードにして、年賀状としてでも御配布いただけたらと思います。

そうそう、2月の野沢温泉スキーに、カメラと傑作集持参で御参加されますこと
期待しています。天気に恵まれたら毛無山からの絶景は最高ですよ。

そして、節ちゃんの穂高の写真はどんなだったのかな?
やはり年賀状として配布されてくるのだったら、楽しみにしています。

青柳です。久しぶりにメールします。
この6月に、長岡さんの国土地理院退職を知って以来、ワングル同期で長年のご苦勞を
慰労したいものだと考えていたが、秋になりやっと実現したので報告しておきます。

・11月10日(水) 田町「日本料理 道灌かがり」
長岡・上村・島崎(13期)・青柳 以上4名 18時30分21時

上村とは、スキー仲間。島崎とは、自宅が同じ市内。しかし最近御無沙汰。
長岡とは、電話でのやりとりはあるも、合ったのは、多分筑波技術博以来。
そして、この4人が一同に合ったのは、多分われわれの追い出しコンパ以来では

なかろうか。

そんな仲間でも、「おお、久しぶり」と言い合って「変わらないね」と言って話はじめると全然違和感なしに話がはずんでしまうのだから変なものだ。

長岡氏は、実際何も変わっていなかった。もう少し、頭の毛が後退し、少し太って恰幅良く官僚組織の管理職らしくなっていると思ったが、そうでもなかった。そして、退職した後も、片道3時間の通勤を律義にこなして、「日本地図センター」というお堅い組織の管理職を真面目に勤めあげている。立派だが、本当は、やはりなにか似合わない。

退職して肩の荷を降ろして、気楽な身分になっていると思ったが、どうもそうでもないようで「退職おめでとう」とも言えないようです。

国土地理院の地図は、売り上げが半減し、地図センターは、そのうち潰れる運命にあるとのこと。日本の地図の発展のためには、国土地理院も含めて、民営化したほうが良いと思うが、どうもそんなに簡単にはいかないようではある。

まあ、もう少し、日本の地図のために、似合わせぬ汗をかいてもらわなければならないようですな。

長岡さんへ一言

筑波から都心に出勤が変わったことで、我々とも付き合いやすくなったはず。

9期の伊藤さんたちを中心とした、KUWV東京の集いもあるので、また誘いましょう。

そして、時にはスキーをはくのも気分転換には良いでしょう。2月の野沢は、もう一回考えてみる価値はあるぞ！

・時はちょっと戻った、10月30日(土)11月1日(日)、那須羽鳥湖高原別荘地
北川・上村・青柳 以上3名

絶景の紅葉を愛でるべく出かけた東北の旅で、絶景の紅葉にカラプリしたことで悔いが残った。何とかリベンジをと、色々考えた末に思い付いたのが、同期北川氏所有の那須の別荘だった。長岡氏も一緒に行ければ、すべて上手くいくと思ったが。

まず、北川氏に電話して、同期での別荘行きを交渉、本人仕事の追い込みで新潟出張あるものの、土日は空けることができると交渉成立。

次に長岡氏に電話すると、土日はいろいろと忙しく、勘弁して欲しいとのこと。那須に日帰りでは満足できない。そこで、那須と都心夜の2回戦にして、北川氏に都心夜の部を再交渉。しかし、府中の会社と新潟の支社を行き来している身で無理とのこと。

結果として、北川＝那須、長岡＝都心の2回戦となってしまったのだ。幹事は辛い。さて、主賓が別れたが、後の仲間として、やはり上村氏と島崎氏に声をかけた。

当日朝になって、島崎氏から電話。急に仕事が入ってだめになったとのこと。残念。彼をさそったのは、我が自宅近くに住むゆえ、運転手として最適だったのに。ということで、同期3人の那須行きとなった。

北川氏の別荘は、那須羽鳥湖高原にある。浦和の北川邸から、高速東北道で2時間半。近くにゴルフ場が2つ。そして、羽鳥湖スキー場まで約7。標高800Mの高原で、何より温泉付なのが良い。別荘は、北欧材を使ったウッディハウスで、北川氏本人の設計によるもの。家族または数人の仲間でするのには手頃な大きさ。グットである。

食事係りとして、上村氏をさそったのは正解であった。

白河のジャスコで仕入れた焼き肉を、きれいに料理してくれた。

温泉は、別荘の管理センターに立派な露天風呂があり、また別荘にも温泉が引かれていて、夜と朝の2回楽しめてしまった。これまたグット。

さて、期待の紅葉だが、羽鳥湖の周りを快適ドライブ。紅葉のトンネルの中を走るようで、最高のはずであったが、当日はあいにく小雨が降り出し、紅葉狩には今一步の天気になってしまったのだ。

すべて上手くいくのは難しい。写真は、記念写真をとる程度で終わってしまい、これはやや不満がのこった。まあ、それでも、紅葉はそれなりに楽しめた。

さて、スキー場アンド温泉付別荘の確保したことは、大成果である。

北川氏は体重過多でどうもスキーは苦手。奥様も寒さが苦手とのことで、冬は私のための別荘のようである。2月の野沢の足慣らしのスケジュールを調整しなくっちゃ。また楽しみが増えた。もつべきものは友達である。

北川さん、またお願いします。そして、森川さん、足慣らしに出てきませんか？

人口降雪装置で12月の中旬には滑走可能とのことですよ。

・以上KUWV11期の連絡員としては、気を遣って努めを果たしています。でも、やっぱり一番楽しんでいるのは自分。気を遣っても楽しめる友がいるのは良いことですな。

99年10月23
日

桑名の青春ボーイと金沢のせっちゃん夫婦の本格山行には勝てないが、東北の紅葉を愛でようと、我が配偶者と10月17・19日チョット豪華な旅を楽しんだ。

平泉中尊寺→奥入瀬渓流→八幡平と紅葉の名所を一巡り。バスツアーでは、これに八甲田・田沢湖・角館などが入るところだが、焦点を紅葉の名所に絞って、時刻表でJRと路線バスの旅を組み立てた。日頃の行い良きをもって、天候にも恵まれたが、紅葉は、緯度と標高でその盛期を移動する—という自然の節理を存分に実感させられたのだった。

平泉は寒かった。北風の中を、奥州藤原家の栄華の跡を巡ったが、金色堂の前のモミジはまだ青々としたままだった。でも、金色堂の御仏の前では、厳肅なる気分となって思わず深く拝礼。柿の実が色ずき、わずかに紅葉のはじまった境内を2時間ほどかけてめぐったり、これから始まる紅葉への期待を大きくしたのだった。

三沢の古牧温泉に一泊。絶景の露天風呂では、冷たい雨の中、ビニール傘をさして、ライトアップされた人口の絶景を楽しんだ。

翌日は、奥入瀬渓流→十和田湖。天気は、晴れ。冬型の気圧配置から移動性高気圧に覆われ、木漏れ日のさす中を、約3時間の渓流歩きを楽しむ。十和田湖の標高が400m、人口杉林が少ない十和田の豊かな広葉樹林は、標高の低い分、ブナ、トチノ木やカエデの木々が太く育ち、それは見事な原生林を形成している。渓流に沿って遊歩道が整備され、沢の両側に次々に表われる滝を楽しみ、流れの変化がつくる渓流美に、我が愛機のミノルタα707は大活躍。ただし、紅葉は、標高が低い分まだ、1020%程度。わずかに黄色味をおびた木々がある程度で、カエデ類はまだ緑のままだった。このうっそうとした豊かなカエデ類が赤にそまるところの紅葉は、どんなにか素晴らしいだろう。

十和田湖では、遊覧船に乗った。湖のカルデラを覆う見事なブナの森も紅葉は、まだ30%程度か。湖岸のナナカマドは赤い実を付け、葉も赤さを深めてこれから始まる錦の紅葉の先駆けを作っていたが、1週間10日早かったか。宿舎にした十和田プリンスホテルは、静かな湖面にたたずみ、フランス料理のディナーもグットで、新婚旅行以来のチョット贅沢な気分を味わったのでした。

2日目までで、手順ミスで送信してしまった。続きを書くと

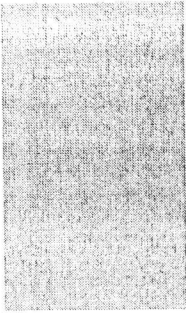
3日目の10月19日は、快晴に恵まれた。十和田湖から八幡平山頂行きのバスに乗った。事前の情報では、八幡平は紅葉のピークのはず。期待に気持ちが高まる。トロコ温泉という変な名の温泉をすぎて、バスはアスピーテラインに入る。道の両側の白樺林が黄色に紅葉し奇麗だ。そして、大沼温泉に至るあたりから真っ赤に染まったブナの原生林が始った。ワンドフル！素晴らしい紅葉！バスは、大沼から後生掛温泉へむけ、まさに錦織の大紅葉の中を快適に走る。そして、硫黄の匂いが漂う噴気後生掛温泉まで、バスは一気に登ってしまった。そこは、標高1000mあたりか、すでに亜高山帯に入り、ブナの大木林から視界が一気に開け、八幡平山頂に向け青森トドマツ(オオシラビソ)の樹海に変わった。そしてそこは、季節が一変し、白く輝く雪の世界が展開したのだった。

2日前、三沢の絶景露天風呂で雨に打たれていたころ、八幡平山頂には雪が舞っていたのだ。アスピーテラインは、さらに高度をあげて、標高1500mの山頂駐車場まで一気に登ってしまった。快晴の秋の陽光に岩手富士(岩手山)をはじめ優雅な奥州の山々が白く輝いていたのだった。

路線バスは、融通がきかない。大沼あたりで、1回バスを降りなければいけなかった。十和田湖からのバスは、1日2回のみ。田沢湖からのバスの時間を調べてなかったのが失敗。標高700m1000mまでの紅葉の盛期地帯は、10分程度バスの車窓から鑑賞となしてしまったのだった。

盛岡に降りるには、バスを乗り換える。2時間ほど時間を確保していた。気分を変えて、新雪の八幡平山頂まで、往復約一時間の雪山歩きを楽しんだ。ここのオオシラビソの樹海は、それはまた見事なもので、1613mの山頂をお覆っていた。そのオオシラビソに積もった雪は、もう解けることはなく、降雪を重ねるごとに育ち、あの樹氷原に姿を変えて行くのだ。濃緑のオオシラビソの森とそれを覆い隠そうとする雪の白さのコントラストがまた艶やかで、予定外の至福の景色を堪能したのだった。

黄金と紅赤に松の緑が混在して作り出す、東北の落葉広葉樹林の錦織りの紅葉を楽しもうと計画した旅は、その素晴らしい予感を味わい、その美を一瞬の車窓から見て、最後は一転して新雪の輝きを堪能した旅となった。都会のビルの中で生活していると、日本の四季の微妙な遷り変わり、北から南へ、また山の頂きから里へと、時とともに季節が流れるその自然の営みに鈍感になってしまう。



季節の瞬間の輝きを捕まえようとする旅は、計算してできるものではないのだろう。でも、宿題が残った方が明日への意欲がわくというもの。今度は、八幡平か八甲田の山に焦点を定めて、じっくり歩くワンゲル流にしようと思う。

そして、新雪の中を歩いて、また新たに始まるスキーシーズンへの気持ちが高ぶってきた。さあ、1000年紀のシーズンに向け、準備をはじめようか。

※セツちゃんへ

――2月26日、27日は宜しくね。そして、やっぱり25日も確保しておいてよ。

99年9月15日

9月の中旬になっても、30度を越える日々が続いています。これでは、10月の中旬に予定している、「十和田湖・奥入瀬渓流」の旅の時には、まだ紅葉になっていないのではないかと心配になってしまいます。森川氏の推奨する白山の大紅葉と同レベルの感激を、東北の山で夫婦二人で味わいたいと計画しているのだが。

さて、先週11期のOB会費未納者あてに、納付依頼文書を送付しました。反応がどうか(振込みがあったか)、確認して下さい。塚本・窪田の両氏にも、森川・加藤氏より確認した住所にて送付しております。入金が確認できたら、「やまざと」を送付して下さい。

11期連絡員としての仕事をした満足感に浸っておりますが、手紙を出した相手からは、当方に反応が無いのは寂しいものです。筆不精、振込み不精の輩を友に持つのも疲れますね。そのうち、必要な者には、電話にて督促するつもりです。

15期のように、毎年同期会をしている団結力に敬意を表するものです。ずうずうしくも、それに便乗する輩もありますが、勘弁して歓待してやってください。

99年8月11日

やっと夏休みとなった。たった1週間だけでも、灼熱地獄の都心を離れられると思うと、幸せなり。東京のサラリーマンは、勤務先でメールしている先生とは違って大変なんです。

今回の休みは、同時期の休みの森川氏の行いも良かった故か、天候には恵まれそうなのがまず嬉しい。自分と森川氏を誉めてあげたい。

休みの日程は、
今日から、信州聖高原に里帰り。――庭の草刈りやら安曇野にUターンした先輩との交流
水・木・金と家族サービスの小旅行
―― 高山・新穂高・乗鞍・上高地とドライブ・ロープウェイを使っの欲張りPWなり

すべては、1週間しか休みの取れない、日本のサラリーマンの寂しさよ
本当は、誰かさんみたいに、白山にも行きたい。槍ヶ岳にも登りたい。
でも、冬も楽しむためには、家族サービスも大切なり

では、白山行く人は、足元に気をつけて。体力の範囲で行動するよう注意しておきます。
私は、せいぜい安全ドライブで、行ってきまーす。

ああ、夏休みは終わってしまった
世間ではお盆休みが始まったのか、山手線も空いてきている
でも、もう夏休みが終わった私は、汗をふきふき会社に行くのです

さて、終わった夏休みを振り替えると
圧倒的な快晴が、8月3日まで続いていたが、地球気候は甘くなかった
熱低が、台風8号に成長し、我が小旅行に合わせて、日本南海上に停滞した
でも、森川氏の報告のとおり、山歩きには丁度よかったのだ
8月5日、新穂高ロープウェイに乗った。降りると、笠ガ岳が圧倒的な迫力で
迎えてくれた。そして、雲海の先に、あの白山が浮かんでいるのがはっきり見えた
同じ時間、その白山では森川氏が、一人今世紀最後の山歩きを楽しんでいたのだ
心のなかで、モリカワーと叫んだが、聞こえたのかな

だが、台風の風を直接受ける穂高方面は、雲に隠れていた
セツちゃんが、快晴の中を登った槍ヶ岳の穂先も、時々顔を出すだけだった
軽いハイキング気分、西穂高山荘まで往復したのだが、これが意外とキツカッタ
西穂高山荘でも、視界はきかず乗鞍岳や下に見えるはずの上高地は、雲の中だった
でも、山荘近くのお花畑では、ハクサンフウロの淡いピンクが気持ちを和めてくれた

今回の小旅行最大のイベントは、乗鞍岳スカイラインーエコラインの山岳ドライブだ
勇んでスカイラインを登っていったが、ヘッドライトをつけて車が降りて来るのだった
そう、山頂付近は、厚い雲の中だった。駐車場で写真を撮っただけで、早々に信州側
に降りざるをえなかった。山で、霧にまかれた経験のない、女房殿と子供たちは、
「恐いから、寒いから、早く降りて！」とわめき、急つかれるように降りたのだから、
高山植物を愛でる時間もわが愛機α707siの活躍する場もなかったのだった
本格的な山岳道路で、家族を乗せて、霧の中を走るの、正直気持ちの良いものでは
なかった。今年3月、森川氏・小山氏との志賀高原雪中ドライブの経験がなければ、
私のかいた冷や汗は、何倍か違っていただろう

乗鞍国民休暇村に泊まって、翌日6日は、上高地散策を楽しんだが、穂高はついに
全容を見せてくれなかった。明神池では、予想外の雨にもふられた。
でも、傘を指しての上高地散策もまた、それなりに味わい深いものがあったんだ
ほんの1メートル先の目の前の梢で、ウグイスがさえずる幸運にも出会えたのだった

安房トンネルができて、気軽に楽しめるようになった、高山と乗鞍・上高地の旅
上高地は、本当に人で溢れていた。河童橋では、写真を撮る場所もないほどだった
平湯温泉の集客は、3割アップと聞いた。まさにトンネル効果である
ただ、東京からは、我が故郷松本は、観光上は通過都市となっているようだ
松本城を見て、高山に入り、金沢に泊まる。そんなツアーがはやっているようだ
関西・北陸・名古屋方面から、トンネルを超え、松本に泊まるツアーもはやってほしい

かくして、夏休みは終わってしまった。でも家族サービスは、まあ予定どおりできたはず
ただ、それにより父親としての威厳が増したのかは定かではない

甲子園もはじまって、まだまだ暑い夏は続く。今年の夏は、(関東は)格別暑い！
景気の回復も今一歩。予算オーバーになった旅の後は、ビールにかけける分も控えにやならん
次の秋の旅と、冬のスキーをめざし、また体力作りに励もうか

99年07月22日

長岡さん、無事のご帰国まずはおめでとう
パキスタンの1ヶ月間の旅は、どうでしたか
さぞ、「我が人生、最高の旅！」を十二分に楽しんできたのでしょう

思えば、1年前の私も、8月初めからの1週間の初の海外旅行に胸を
躍らせていたものだった。そして日本に帰って、ほっとしたと同時に、
海外での浮世ばなれした、のんびりした生と日本のあまりにアクセクした
生活との落差に、ガックリしたものだった
炭酸ガスが多く、蒸し暑い日本の夏にも閉口したものだった

我がハワイの1週間と、貴君のパキスタン1ヵ月では、おお違い
でも、日本の我々にはない、本当に自由な人生を生きている人間を見てきたと
思います。大いなる山とヒンズー教や仏教の発祥の地での旅での感慨を、
聞かせて欲しいものです。

さて同じ退職でも、我がリストラされての関連会社転籍と、貴君の建設省の掟とはおお違い
給与を半額にされて、旅行後翌日には、同じ場所に出社して入社式をした我と、
ちょっとのんびり好きな研究をしてみようと思っていますという人とは、おお違い
高級官僚の部長殿の進退には、今日日本で一番弱気になっている民間金融業者の
系列にやっこ繋がり生きてる輩は、一寸焼きもちを焼いてしまいます

でも、「人間汗をかいただけ、幸せも大きい」——も真実
そして、「幸せの総量は、人間死ぬときには皆同じ」——もまた真なり

厚生省の掟を書いて有名となった元官僚、強いアメリカの象徴だった元大統領のJr
そして、最愛の妻を送って人生を自ら完結させた文芸評論家と、気になる死のニュース
が続いて、ちょっとセンチメンタルになっているのかな。高尚な文章になってきたぞ
そうだ、あの白山の谷で逝ってしまった山と釣り好きの彼の一周己も近いのだった

さて、余暇利用で旅をした後、もはや出社する必要なく、やはり余暇ばかりとなった
貴君の今後の予定はどうか？
計画的な貴君のことだから、しっかり、どこかの女子大教授の口が待っている——
そんなことではと思うのですが

でも、KUWV11の連絡係りとしては、まずは、「季刊誌 やまざと」への大論文投稿を
進言します。すでに、何冊かの著作をものした貴君には、舞台が軽いと思ひますが、
読者の幅を広げるためには、良い訓練になりましょう。なにせ、名編集長殿のしごきに
耐える必要がありますから。

そして、余暇の中の夏の休暇後にも、KUWV11東京の連中で、貴君の退職祝いの
宴を開きたいと思っていますので、都合をつけて下さい。楽しみにしています。

加藤の忠さん・森川の功さんへ
窪田・塚本両氏の所在は、受け取りました。でも、夏の家族サービス前の仕事もあり

不良債権取りたてまでのエネルギーが出てきません。
井上夫妻を含む、大量なる債権取りたてには、まだ時間を要するとおもわれますので、
別途督促方よろしくお願いします。

では、また。梅雨明けを翌日に控えた、南埼玉から

数日後に、半世紀+2の誕生日を前にして 青柳 健二

11期 加藤

99年11月20
日

どこか遠いところでスキーの話がはずんでいるようですが
鬼の保田さんも参加されるということですが
(ちょっと懐かし、また、反射的に恐怖を感じてしまう方である)
私の予定は未定です。

今年は、学校でも比較的閑職にありつけましたので
絶対参加できないというわけでもありません。
が.....

野沢は遠いですね。
明石からだ、行きで半日、あとは晩飯
翌朝、朝食の後、帰りで半日というのは
私のスキー技術から考えると、
なかなか、さみしい(きびしい)ものがあります。

あとは、いかにして、学校をサボれるかにかかっているわけですが、
入試や学年末の業務とにらみあわせて考えたいと思います。
国民から愛される公務員としては、業務第1と考えておりますから
もう少し時間を下さい。

ところで、野沢については、昔
「やましん」という小さな民宿で
OBスキーを2回ほどやったような記憶があります。

みなさんの覚えていますかね。

99年11月15
日

皆さん、よくお出かけのようですので、
私もつられて、11/13、14の両日で
四国の山に行ってきました。
天気は上々、快晴、暑いくらいの日でした。

目的地は、標高 900m以上の信仰の山。

勿論、写真の通りのロープウェイを使いました。

(写真はHPから盗んだもの)

四国霊場中最高峰に位置するため、別名「四国高野」とも呼ばれる雲辺寺は香川県と徳島県
の県境に位置し、札所としては讃岐の一番になっている。1200年の歴史があり、観音信仰を
求め

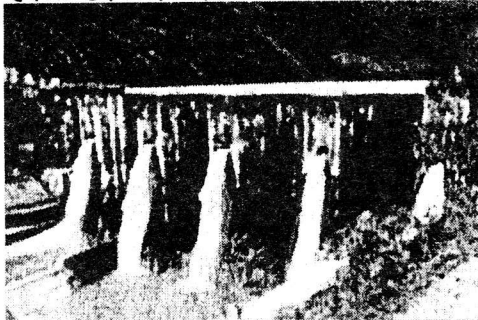
て善男善女が全国各地よりご来山、法煙絶えることなく、山林百町歩には巨木が繁茂し、仏法
花開く霊山である。

<http://www.pasutel.co.jp/wnn-c/wnnta12/3unpen.htm>

日頃行いのよいみなさんのために、安全登山を祈願してきました。

紅葉がちょうど見頃で快適でありました。

それから、日本で初めてのアーチ式ダムという「豊稔池」まで歩きました。



<http://www.pasutel.co.jp/wnn-c/ike/osusume/hounenike/hounen.htm>

車社会の中で歩いているのは、我が老夫婦ぐらい。
排気ガスに肺を洗い、車におびえながらのハイキングは辛いものがありました。
日本の社会資本整備はまだまだのようです。

99年10月25
日

急にお寒くなりました。
先日の朝日新聞に白山の初冠雪の写真が載っていました。
白山が冬支度をしていましたので、
我が家もその日から「こたつ」を入れました。

神戸の方は、寒さに鈍感なところで
真冬でも教室にストーブがないのです。

99年09月01
日

今日から、新学期です。

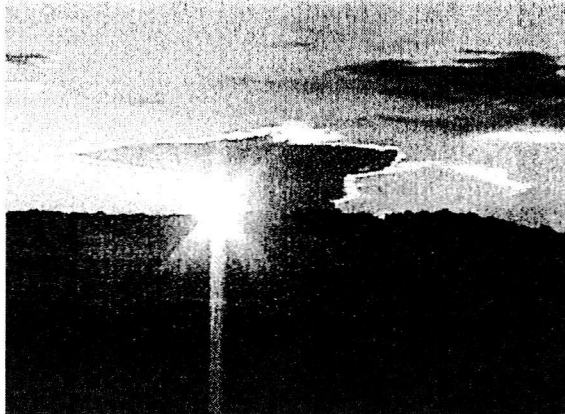
ところで、
<http://www.yomiuri.co.jp/osaka/home.htm>
「花の名所」をご覧ください。

8/17～18の白山の写真が載っていますよ。

この写真は、永井旅館で知り合いになった
読売新聞の記者さんの家族登山より作成したものです。
画面は、VTRからのものですので
奥名会長の写真より少し落ちますが
仕方ないでしょう。

でも、私にとって、写真に撮れなかった
当日の観光新道の花が写っているので大感激です。

また、北鎌あたりの金床雲から出てきた
ご来光が、実にすばらしかった事がわかるでしょう。



撮影：小泉 清氏 (e-mail: koizumi@po.iinet.or.jp)

加藤忠好氏(11期)白山へ行くの巻 (1/4)

去年のKUWV記念行事で
白兀山(医王山)に登ったことに気を良くし、
今度は、是非、白山に登りたいと思っておりました。

どう見ても、体型的にも、気力的にも無理な感じでしたが、
舟田事務局長をはじめ、11回森川などがやたらと奨めるので
ついその気になってしまいました。

しかし、現在、室堂に泊まるには予約が要とのこと。
登山では、種々の条件で引き返したり中止するなど
予定変更は付き物である。
なんで予約なんかしなくちゃならないのかと思いつつ、
それでは、登山客の少なくなる盆過ぎにと計画を立てた。

何しろ、ボッカ要員はいるし、問題は道具と自分自身の体力である。
それと、是非、娘(手依理)を連れていこう。
なぜなら、菜就は体力に任せて、スカスカ登りそうだから。
そうなると、どうも父親の権威が危うくなる。
そんな事は分かっているけど、かつての山男のプライドが許さない。
そうなのだ。
手依理に高山植物を教える事で、休憩時間稼ぎができそうであるからだ。

ところが、手依理はどうも行きたくないようだ。
そこで、山の素晴らしさを説明していると、
家内が「行きたい」といい始めた。

これには困った。
なぜなら、家内は日頃から歩いたことがない。
もし、家内が先にバテたらどうしようか。
しかし、ままよ。というわけで、
家族4人での白山登山と相成った。

お盆の金沢は雨だった。
南龍の小屋に電話すると
天候の悪さと、盆過ぎであることからOKである。
運のよいことには、ケビンが空いている。
ケビンは1室12000円だから、一人当たり3000円である。
出発日は8月16日(月)。
荷物は5Kg。(着替えと、当日の昼飯。非常食だけ)
菜就は25Kg。(4人分のシュラフ、食料その他。軽い軽い)
手依理は7Kg。家内は?Kg。
南龍、室堂の2泊3日の行程であればなんとかなるだろう。

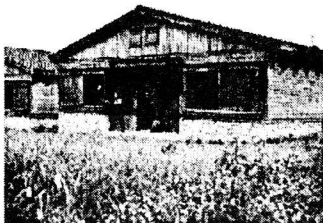
8月16日(月)くもり。別当出合9:10発
下山者は皆、上下の合羽を着ている。
甚之助ヒュッテ下部まで雨風が強いとのこと。
いやな予感がする。
しかし、天候不順による勇氣ある下山という判断も可能である。
私の体型にとって決して悪い状況ではない。
また、さいわいなるかな。家内の歩調が遅い。
おかげで、ゆっくり登れ、しかも、この遅さのため、
ゆっくり上昇した雨雲に追いつくことなく濡れずに15:40南龍着。



8/17奥名会長の下山後に天気
は回復に向かっていた。

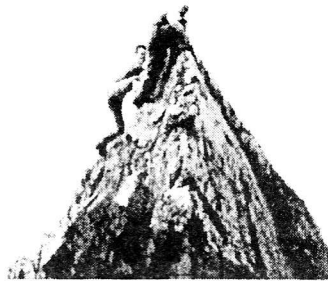


20年ぶりのなつかしい風景だ。
イブキトラノオ、ハクサンフウロなどお花畑が実に美しい。
ケビンもとてもきれいだ。広さは7.5畳位に土間がついいている。
1棟に2部屋だけだから、遠慮は要らない。



(結局となりには誰もこなかった。)
コッヘルで飯を炊き、切干大根と豆の煮物、糠いわし、食当は私である。
夜、手が届くような星空に娘が感動していた。夏なのに寒い。

8月17日(火)くもり。南龍11:50発。
疲れのためか。ちょっと寝坊。
室堂に予約を入れる。
エコーライン上部より上は霧がかかっている。
今日は、室堂だ。何とかなるだろう。
エコーライン、弥陀が原はみごとなお花畑だ。
登るよりも休憩、休憩しているうちに晴れ出してきた。14:35室堂着。
雑煮がうまい。室堂は改築中だが、宿泊棟は昔のままだ。
空いているはずなのにギューギュー詰め(定員通り)の部屋。
南龍の快適さとはえらい違いだ。
部屋にいても気分が悪いのでお池巡りへ。
青空と霧がめまぐるしく交替する。
手依理に高山植物を解説しながら、また図鑑で忘れた植物を思い出しながら散策する。
千蛇ガ池近くでは、マイヤマキンバイ、チングルマ、アオノツガザクラが満開。
南龍では、もう実がなっていたのに。秋から夏への逆戻りを楽しむ。



白山さんのおみくじ

ること。【旅行】吉。殊に登山はよい。但し天氣が悪くて出足が鈍ったり、初め少し故障がある。【方角】西

熱雲の岩と遊びながら、紺屋ガ池から17:00御前峰頂上。

アッ、ブロッケン現象だ。

白山頂上でなんて。家族一同感激する。なんと幸運なことか。

元気な菜就と手依理は先に室堂へ。

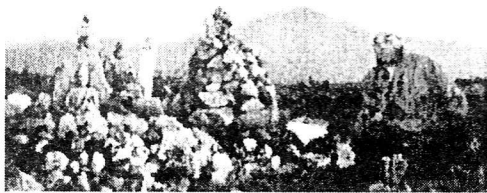
御岳、乗鞍が見え始めてきた。

19:30に炊事小屋が終了なので社務所の前でゆっくりと食事。

20:30就寝。室堂は案の定暑い。シャツ一枚とパンツ一貫でも暑い。

部屋がガラガラなのに、よくも詰め込んだなあ。

暑くてほとんど眠られない。家内もそうらしく盛んに寝返りをうっている。



登山に触れたおみくじは珍しい。

奥宮のおみくじの中身はありがたいものであった。

8月18日(水)太鼓の音で起床4:30

ご来光を見に平瀬道の方へ行く。北ア、乗鞍、御岳、南ア、中央アなどくつきり見える。

槍と大切戸の向こうに金床雲がかかり雷が時折見える。フィルムが切れたのが残念。

金色の雲が実に美しい。御前峰を見ながらの菜就が作るスパゲッティを食う。

室堂8:00発。天気は上々。暑い。

観光新道は、初秋のお花盛り。

マツムシソウ、ハクサンシャジン、ミヤマハハコグサ、何とかアザミ、ニガナ。

本日は、雨上がりのためか秋のように視界良好。

釈迦岳をはじめ別山、から加越国境、経が岳、赤兎。下界の町が見える。

実に快適。

しかし、慶松平の上部あたりから膝が痛くなってきた。

オッ、リンネソウらしきが...

(旧道と観光新道の分岐の少し上部にそれらしいものを見つけたがほんとは何だったのだろうか)

観光新道は整備されすぎて、石の階段続き。下りには辛い。

11:30別当出合着。12:30バス。手依理と家内は明石へ。

菜就と私は、市ノ瀬の永井旅館泊。

実に、高校1年の時の白山登山以来30数年ぶりの宿泊である。

適温の風呂に浸かり、山菜のご馳走を食べた。

標高800mの宿は涼しく心地よい。

というわけで、再デビューは白山ということになりました。

皆さん、ありがとうございます。

いまだに感激しています。

11期 芝田

99年11月14日

さて、昨日の土曜日、とっても好天だったので
自転車で八ヶ岳山麓へ行ってきました。

普通の自転車に、普通の格好で行くのです。

茅野まで45分、それから1時間弱ゆっくりとくともう、裾野に入ります。都会ナンバーの車が来て
写真を撮っていますが、交通費0でこんないい所へ来れるなんて、いいですね。

裾野はすでに落葉がすんでいます、途中の集落や雑木林の広葉樹がきれいです。

もちろん、連峰はばっちり見えますが、新雪はすっかり解けて、見えません。

ちなみに、我が家は諏訪湖にごくちかい、山裾ですが、その裏の雑木林が色づきはじめました。

まったく使いようのない雑木林ですが、それゆえに雑多な色になって美しいのです。

そうそう、諏訪湖の向こうに落ちる夕日もきれいでしたよ。

節子、遊びにければ、我が家のリビングルームから
お茶を飲みながら、この夕日を見れるぞ。

99年10月26日

八ヶ岳の初冠雪は……
それは、先週、20日でした。

その後、毎日、これ以上ないような、いい天気が続いています。
きょうは、5時に会社を出て、我が家のベランダで諏訪湖のむ
こうの、まだ明るい空をじっと眺めておりました。

蓮華温泉の露天風呂が懐かしいなあ。

11期 長岡

99年11月08
日

晩秋の山の情報

もう、山の秋も深まりました。名残の紅葉の時期ですが、まだ山にお出かけの
予定のOB各位もあろうかと思い、ご参考まで、白山周縁などでの道路事情です。
順不同にて。

以下は、先週後半に実家に出かけた際に、慌ただしく車で各地を廻ったときの
もので、実見したもの以外は、(…談)などとしてあります。

1. 手取川(牛首川)上流域

別当出合までの道は問題なし。もう登山者も少なく、出合の休憩舎の前に駐車
し放しでも問題はなさそう。同所便所は冬季閉鎖済み。

中飯場と、湯谷川への工事用道路は、以前同様に見張所があつて、侵入不可。
白山スーパー林道は、11日より冬の通行止め。

大日川・手取川合流点南の、鳥越城址にて、木造の砦のようなものを築造中。
いずれ観光地化されるのでしょうか。

白抜山・鷲走ヶ岳への林道は、その入口の東二口にある最後の家のところに、
新しくゲート(鎖張り)が出来て、車が入れなくなった。大変便利な道だったの
に、残念なことです。なお、下田原谷の脇から登る林道の方には鎖がないので、
大回りかつ悪路ながら、こちらを廻れば入れそうだが、上部の通行可否は未確認。

目附谷林道：一里野から目附谷を大きく廻り込んでいる林道に対して、目附谷
・荒谷の間の尾根に直接上がる林道(ウサギ谷より上がる)が連結したので、楽
しい周遊コースができました。

下田原谷の林道：最後の出作り小屋(標高約700m地点)の少し手前に新しく
ゲートが出来て、車が入れなくなりました。

赤谷林道：小赤谷の方は終点まで車が入るが、その少し先にあった出作りの家
は消滅。仮小屋あり。小赤谷分岐の先で、赤谷は、さらに上流部の工事のために
泥濘となって通行不能。(車高の高いダンプカーなどは通行可)

明谷林道：松倉谷の手前に、大きな砂防ダムが新設され、林道はそこでとぎれたまま。

丁度、土・日曜日に、白峰村で百万貫ノ大岩に登るといふ催しをやっていまし
た。金沢在住の方で行かれた方もあるかと思いますが、またとない機会で、
ひょっとしたらまだ足場が組まれているかも知れませんが不確かです。

白峰の西山南山麓：余り知られていないが、そのクロスカントリースキー場
で、とてつもない土地改変が進行中。

五十谷・大杉谷・河内谷：いずれも昔の出作りの地で、静かなまま。
尾根を挟んだ、赤兎山への登路は、終点まで車通行可(勝山市役所談)。

2. 庄川本流の上流域

大白川の林道は、結局今年はゲートが開かず、そのまま冬の閉鎖となる。入口
の見張所の監視人の話では、20数箇所の崩壊があるが、来年6月1日には一般車
にも解放される由。なお、白山室堂には下山禁止の表示があるが、それでも降り
てくる人があるので、やむを得ず、下山者は車で送っている由(歩いて貰っては
危険につき困るので)。

ブナオ峠林道は、「当分工事中」のまま、今年はゲートが開かずに終わる見込み。

境川ダムへの道(大笠山への登路)は、問題なし。

天生峠への国道号は閉鎖中。9月に聞いたときには、どぶろく祭り前には何と
かなるだろうとの希望的話だったが、結局ダメ。

3. 白山北東方

白木峰への林道は、入ってすぐのところで道路決壊。一応、鉄板敷きの応急措
置中ながら、これから本格的な工事となれば、当分通行できない見込み。

金剛堂山の北の、竜口谷下流域は、「スノーバレー利賀」スキー場新設のため、
大きく変わっている。金剛堂山への登路は、地理院の地図のようではなく、
2.5万図の標高778m地点から登るようになっている。

白川村から利賀村への牛首峠林道は、通行可。ただし、水無ダムへ降りると非
常な悪路につき、通過するなら北へ抜けるのがよい。ダムから水無を経て檜峠へ
抜ける部分(舗装道路だが)は、数カ所で道路が決壊し、その都度河床へ降りる
ことになる。水無の上流から、北に峠を越えて百瀬川へ抜ける道は、問題なく通
行可。この途中の峠から金剛堂山へも問題なし。ただし、3年ほど前は尾根上の
細い道を金剛堂山に向かって2kmくらい車で入れたが、今は道路が荒れていて不可。

以上、この秋は、どこに行っても道は通行止めが多く、辟易でした。
ほとんど山にも登らずに、唯一、三方岩岳に混雑覚悟で知人を誘って昼食ついでに行ってみたところ、大混雑かと思いきや意外にも、紅葉期の休日にしては珍しく10人程度の静かな山頂でした。その日、6日は変な天気、昼過ぎから北西方は低い雲。東から南にかけてはやや霞んではいるものの北アルプスも見え、空には見事な巻雲。むろん、雪の白山も逆光の中ながら見事。
蛇谷では、いつもの年の11月には名残の紅葉となっているものが、今年は下部では今が最盛期で、10日で道路閉鎖がもたないような。
(追加情報:姥ヶ滝の前の露天風呂はお湯が無く、河原に大量の噴湯あり)

追加:どこに行っても通行止めの今年ながら、唯一、楽しい山の紹介を
北アルプス北端の僧ヶ岳:宇奈月からの林道は珍しく全線通行可。1043m地点まで登れば、黒部の谷を隔てて、雪の来た朝日岳・白馬岳・五龍岳などの大展望が得られ、そこでの夕暮れの眺めは忘れがたい贅沢な眺め。その先非舗装となるが1280mまで上がれば、登頂時間も大幅に短縮。なお、写真を撮りに来ていた地元の話では、この道は、雪が来れば自然に通れなくなるだけで、道路閉鎖はしないとの由。どこでも林道にはゲートの昨今、大変ありがたい話でした。(注:この道は舗装区間でもガードレールなど一切無く、高所恐怖症の方には向きません)

最後に戻る際の経路の話を一点
大系線沿線の平岩から小谷温泉に抜けようと思ったものの、相当に登ってから初めて道路決壊・通行止めを知り、大変な時間のロスでした。戻って聞いたところ、通常コースで小谷温泉には行けるが、乙見山峠經由妙高高原への道は、先頃ようやく開通したものの直後の雨で再び通行止めとなった由(小谷温泉の旅館談)。
なお、この対岸の蓮華温泉への道は、国道分岐・入口での2種の表示によれば、「道路閉鎖、開くのは6月下旬」と「11月20日まで工事中立入禁止」です。多分どちらも正しく、工事が終わってもヒワ平のゲートは来春まで閉鎖でしょう。

以上、つつい長くなりましたが、皆様のご参考になればと思いますので。
では、今年最後の紅葉期に、楽しい山歩きがありますように。

99年10月05
日

平成11年10月7日、11期OB 長岡正利より

北アルプス北部の紅葉便り

先週末に、白馬岳北方の蓮華温泉に行ってきました。
この週末は連休につき、山にお出かけの方もあろうかと思い、また、出かけずとも、昔日の秋のPWの記憶の時期でもありますので、ご参考になればと思って、最近の紅葉状況です。

また、11期OB 森川様の、先の公開質問のOB通信(次記)の答えを兼ねます。
>長岡氏へ
>蓮華温泉の湯加減は?紅葉にはまだ早いのかな?

1. まず、「湯加減」につき

一番高所にある「薬師ノ湯」は適温で、昔に変わらず、山々の眺めも抜群。
一番大きな「仙気ノ湯」は、大変高温だったが、導水パイプを何とかしておいたので、丁度適温とすることが出来るようになった。辺りは開けているので、展望も良好。

「黄金湯」はダケカンバの樹林の中だが、朝日岳も眺められ、適温でまあまあ。

もう一つ、ぬるくて小さい(名称失念)があったがこれはカット。

以上、20~30年前のままと言っても、そう間違いではない、昔ながらの露天風呂。

小屋の方は、昔とは完全に様変わり、昔は、車道終点から吊り橋を渡って30分ほどかかったものが、道は全線舗装となって、山小屋風大旅館(?)のすぐ手前に広い駐車場。小屋も大きな2棟に建て替えられて、立派な内風呂もある。小屋から露天風呂までは、山道を徒歩10分くらい。

2. 次に紅葉

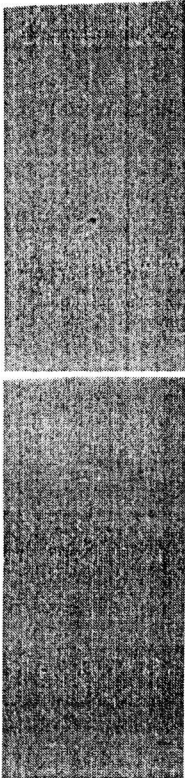
今年の紅葉の始まりはかなり遅く、10日以上も遅れている感じです。

標高1000m位(蓮華温泉への途上の白池あたり)では、ブナ原生林(ブナのほか、ミズナラ、トチノキなど)にはようやく紅葉の気配が感じられる程度でした。緑の中に、黄色の葉がかなり見えるくらいで、全体としては緑色。

同温泉の露天風呂のある1550m辺りでは、ナナカマドの赤い実とその紅葉が見事。ただし、ブナなどは同前。

下って、朝日岳への途上の、標高1350m位の兵馬ノ平の湿原では、一面の枯れ原。

望見する朝日岳や小蓮華岳の、北アルプスの稜線では、ハイマツの緑の中に草原は紅葉の盛り、その下のダケカンバの疎林も黄葉の盛りのようでした。



貴重な休暇を使って到着した金曜日は山々はガスの中。翌日は、予報が見事にはずれて、夜明け前から月光が煌々と、風は暖かく、快晴・絶好の登山日和。
到着の夕刻は、もう誰も登ってこない夕暮れの、霧に包まれ始めた露天風呂に暖まってるビール。
翌払暁は、月光のもとで登り始めて、次第に白んでいく空のもとで、朝焼けの雲と紅葉の始まった山々を遠望しつつの朝酒もなかなか良いものでした。
(ちなみに、金曜日の宿泊者は10人くらい、それが翌朝になると、10時くらいには続々と車が上がってきて・・・休日は避けた方が良さそうです。)

では皆様、今年も、爽秋の山々での遊びがありますよう。

(追補)

ところで、この季節、温泉や紅葉もさることながら、秋の山の味覚も是非にと思います。

今年は、秋の暑さが続いたせいで、例年になく、キノコが大豊作です。
先の蓮華温泉でも、至る所でナラタケ(地方名はモタセ)が、本当に容易にとれました。林床にネマガリタケが多いようなやや湿った感じの山腹で、かなり朽ちた大きな倒木を探すと、確実に多数群生している。菌切れ・口あたりがよく、ナメコほどではないがややぬめりもあって、豆腐とのみそ汁などに最適。ゆでて食べても可。何しろ、ものの10分間も林に入れば、ビニール袋が一杯になるくらいで。

ほか、少数ながら、ムラサキシメジも見ました。一件、毒キノコに見まごう美しい紫色(素人はちょっと手を出さないような色)ながら、口あたりがよくて吸い物に最適。

なお、見なかったが、伐採後数年くらいのブナの林を見つければ、その切り株のところで、今年のような年には天然ナメコがかなり採れるはずです。

99年09月15
日

11期OB、長岡よりご連絡

ご無沙汰いたしております。

この20日(月)・21日(火)に七尾市で、25日(土)・26日(日)に金沢で、下記のように、それぞれ地図関係(特に伊能図)の催しがあります。北陸在住の方で興味がありますれば、どうぞご覧戴ければと思います。日々慌ただしく、直前のお知らせで申し訳ありません。

なお、小生は、関係者として、展示または講演の会場にすることが多いと思います。

1)七尾市にて

「伊能忠敬フェスティバルin七尾」

地図展:

七尾短期大学体育館にて、20日(月)14:00～21日(火)16:00

伊能図大図(複製)を床面に大展示

ほか、同 中図・小図、関係資料、別にその他の地図の展示

注目すべきは、16～17世紀にかけて活躍したオルテリウスやメルカトルの著名な地図(市内の篤志家所蔵の本物)があり、これらを一堂に、かつ、すぐ間近に拝見できるのは、東京においてもまたと得られない機会です。

別に、講演会:

同短大の大講義室にて、20日(月)18:00～20:00

講師・渡辺一郎(伊能忠敬研究会代表)

「伊能図探究と伊能測量の実像」

野々村邦夫(前・国土地理院長)

「伊能以降、明治、現代、そして未来の測量」

なお、朝日新聞ほか主催の「伊能ウオーク」(全国を一筆書き的に歩いている催し)が、21日(火)夕方に七尾市に到着し、翌日朝、羽咋市へ向けて出発します。この「ウオーク」への参加も可。

2)金沢市にて

「金沢で伊能大図を見る会」

地図展:

金沢市中央小学校体育館、25日(土)13:00～26日(日)15:00

伊能図大図(複製)全69点を床面に大展示

ほか、同 中図・小図、関係資料、別にその他の地図の展示

別に、講演会:

「アートシアターいしかわ」(ラブリ片町7階)にて、25日(土)13:00～16:00

(ラブリ片町とは、昔の大和デパートの建物)

講師・渡辺一郎(伊能忠敬研究会代表)

「伊能忠敬と全国測量」

伊能陽子(忠敬のご係累:伊能忠敬研究会)

「ご縁がありまして」

(近況)

郷里からの小原風の盆(9月初の越中八尾:哀愁を帯びた胡弓の調べと唄)のたよりが過ぎると秋は駆け足、の筈が、この暑さ(台風)で、今日は、朝からツクツクボウシが鳴く1日でした。

再就職から月余を経て、カラコルム山中での静寂の夜(確かに、本当の夜がありました)のこと、あるいはパキスタンの街々での喧噪の日々は遠い夢の世界の如くです。

99年08月22
日

先に辞職(6月1日付け)のご挨拶を書き込んで以来、すっかりご無沙汰となっておりましたが、近況です。

この8月より、財団法人 日本地図センター に勤務いたしております。引き続き地図関係の職務についておりますので、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

なお残暑の厳しい折から、皆様の一層の御健勝をお祈り申し上げます。

8月22日、長岡正利

自宅 茨城県 筑波郡 谷和原村 西ノ台 11-1

Tel.& Fax.: 0297-52-4977

E-mail : nagaoka@beige.ocn.ne.jp

Nifty Serve: QZM10636 (FYAMAP会員)

勤務先 東京都 目黒区 青葉台 4-9-6

Tel. : 03-3485-5418

Fax. : 03-3485-5593

E-mail: nagaoka@jmc.or.jp

[近 況]

ご挨拶のとおり、2ヶ月間の空白の時間がありました。

この間、パキスタン北部のカラコルム山脈/バルト氷河源頭の地などを歩いて参りました。かの地にて、8000mの山々に囲まれていると、これまでの山の記憶も総てどこかに消えてしまうような、壮大な眺めでした。

退職直後には、これであろうくに心のゆとりを得ることが出来ると浮き立つ心持ちで、これからは、古今の書に親しみ、和洋の音楽を愉しみ、西域関係の探検史を学び、などと思ったのもつかの間、再就職して以来、毎朝6時10分出發の慌ただしい生活です。しかし、読書時間(列車中での)だけは確実に増えそうです。

カラコルムの静寂につつまれた眠りの中で、テントの下で凍りついた岩片を載せた氷の底から伝わってくる氷河の微かな震えに気づいて起き出せば、満天に総ての星は煌々と輝き、本当に物音一つない夜がありました。

このところ、陽射しの中でのヒグラシ、夜更けてのコオロギの音が賑やかです。再就職から半月、カラコルム山中での日々は夢まぼろしのようです。

[近況: 少し前の話]

旧盆過ぎの日、11期OBの加藤氏を誘って、車で慌ただしく白山麓に、主に出作り地を廻ってきました。一緒に歩いているといろいろなことを思い出します。なぜか旧知の人に会ったり、出作り地では、人は老いとやはり育ったところが懐かしいのか、簡単な小屋掛けで戻っている人が少し増えました。

大道谷の五十谷の奥、かつて、のどかな出作り地の風光を四季折々に撮影した地には、白山麓の人のものではないような家が建っていました。出作りの家が雪に漬れたあとも、白山の展望を楽しみつつ昼食をとるのに絶好の地でしたが、また、白峰の西山山麓では、立派な道や建物・スキー場新設などの大改変中で、ここも良い展望の地だったのですが・・・。

久々に何もしない日曜日。ヒマは本当にいいものです。パソコンに向かう目を上げれば、ノウゼンカズラの橙色の花(例年は咲き終わっている頃)が揺れ、まだ芙蓉の花も見える。本当に、緑に囲まれた夏の休みはいいですねえ。加藤氏の言うに「閑こそ我が人生」。再就職した今、早くも再び、そうありたいとの思いです。

99年06月18
日

WVのホームページ冒頭から、下記の「OB通信」をお送りしました(届いているでしょうね)。以前にメール交信のあった方にはご挨拶したものの、ほかの方へのがずいぶん遅くなってしまいました。

これで、安心してパキスタンに出發です。

11期OB、長岡正利

辞職のご挨拶

何かと慌ただしく、皆様へのご挨拶がすっかり遅くなりましたが、11期OBの長岡正利は、去る6月1日付けをもちまして建設省国土地理院を辞職致しました。(建設省版「お役所の定め」。)もう程々の歳ともなりましたので。時にOB会誌に顔を出したりなど、その他、皆様方には公私にわたるご厚情を賜りましたこと、心より厚く御礼申し上げます。今後とも一層のご厚誼をお願い申し上げますとともに、皆様方の御健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

ところで、しばらく自由となれそうで、ようやく心のゆとりを得ることが出来そうだったのも最初の3日くらいでした。これまでに累積した諸々のものの整理の大変さを思い知り、当初思い描いた、古今の書に親しみ、和洋の音楽を愉しみ、西域関係の心ときめく探検史を学ぶなど致したいなどと思ったのも、どうもまだ夢です。

しかし、せっかくの自由の身、今日より7月19日までのほぼ1ヶ月間をかけて、長年の憧れであったパキスタン北部を歩いて参ります。

(追伸)

メールアドレス変更のお知らせ

以前から、小生のメールアドレス(旧)は、@の前文字「1」が、「エル」か「いち」か紛らわしいと一部の方から不評がありましたので、この際、あわせてアドレスを変更し、@の前の1を削りました。

新は、nagaoka@beige.ocn.ne.jp です。

なお、これまでの勤務先 国土地理院でのメールアドレス nagaoka@gsi-mc.go.jp では受けられなくなっておりますので、申し添えます。

11期 森川

99年10月15
日

残念！

奥名君が9日に登っていたのなら、ボッカを頼むのだった。

別当→室堂、私には長すぎた。

南龍への分岐までは快調だったが、それ以上は身体が言う事を聞かない。

それでも、室堂へ到着後雲もきれ、雲海もきれいなので、つい、御前峰へ

その登りで食べた、いや撮った「クロマメノ木」です。

今年は実も小さく、味もイマイチというより全然悪い。

頂上でバスで一緒だった人と会い、御池巡りを案内して室堂手前で

雲海に沈む夕日をみた。(9日は快晴の予定だったが？15:30頃から晴れたのはなぜかな？

奥名君理由分かりますか？)

10日御前峰で御来迎を拝む。考えて見るに御前からは生まれて始めて。(いつも、楽しんで室堂平からみていた。)

おかげで、お神酒をいただき、

飲んだ勢いと天気もよく、御池巡りも昨日したことだし、

気を大きくして、別山に登る事に予定を変更した。(当初予定は室堂2泊)

花は咲いていないが夏山のような天気、別山へのプロムナードコースを楽しむ予定が暑い。

別山頂上で昼寝を楽しんで、チブリ避難小屋へ。

小屋はマツムシソウが一輪だけ、咲いており、

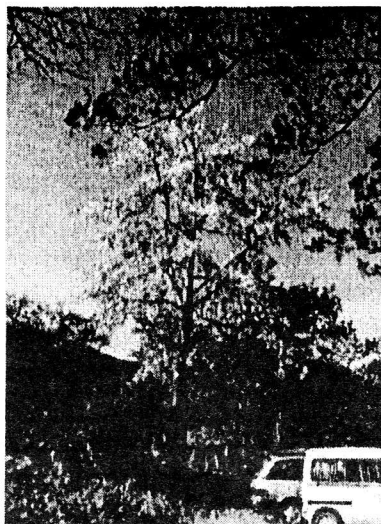
トイレはステンレス製新品になっているし、宿泊者は中年の夫婦と3人のみ。

快適この上なし。(この御夫婦に白峰の総湯経由鶴来まで乗せてもらった。)

クロマメの木は楽しめなかったが川原であけびとグミは楽しめた。

山ぐりがたくさん落ちていたが、拾えなかったのが、心のこりだが。

ところで、自然解説員殿にお聞きするのだが、市ノ瀬の駐車場にある白い木は何ていうのですか？



99年09月16
日

@15期に入れてもらった森川です。
先日は本当にありがとうございます。

桑名に通産43年住んでいるが、
木曾川の向こうに三重県があったこと。
温泉通の私が木曾岬温泉を知らなかった事。
桑名市の長者番付け10位以内にいる祖父江整形を見たことがなかった事。
友人がおり、昨年も2~3回その近くまで行っているのに、
食べたことがなかった長島のケーキ。
さすがの加賀美人達も霞んでみえたベコニアガーデンと
会長より小さいジョッキしか飲めなかったビール園。
毎日通勤列車から眺めているが、おいしいシジミの味噌汁を
飲めなくしてくれている長良川河口堰。

そして、白山自然解説員にハマナスの花を教えてやり、
思いがけない事に実物を見せてやれた事。
ハマナスはやはり、「浜の梨」が訛ったものだと思う。
是非実を食べてみて下さい。
私はピンクの花しか知らないが、白い花もあるそうです。

それにしても、15期は人材が豊富ですね。
変わった人が揃っていることでは、11期といい勝負ですね。
今回は雪の温泉で勝負できるのを楽しみにしています。

99年09月05
日

森川です。
なかなか変わった雲ですね。
お父さんも実際にこの雲見れたのかな？
白山では加藤氏と同じで、御来光を見に御前まで登る元気がなく、
室堂平まで行ったが、雲の色が変わるのがみれただけだった。
奥長倉避難小屋からも同じだった。

白山の御来光が見える所を連絡します。
「白山」<http://www.vcnet.fukuifukui.jp/~harariki/hakusan/index.htm>

もう一つ、兼六園などどうですか。
「盆栽」<http://www.freepage.total.co.jp/takasi/index.htm>

来週は楽しみな同期会です。
祖父江幹事長にべんつに乗せて連れていってもらえる約束も出来たし、
後は体調を整えるだけ。

99年08月29
日

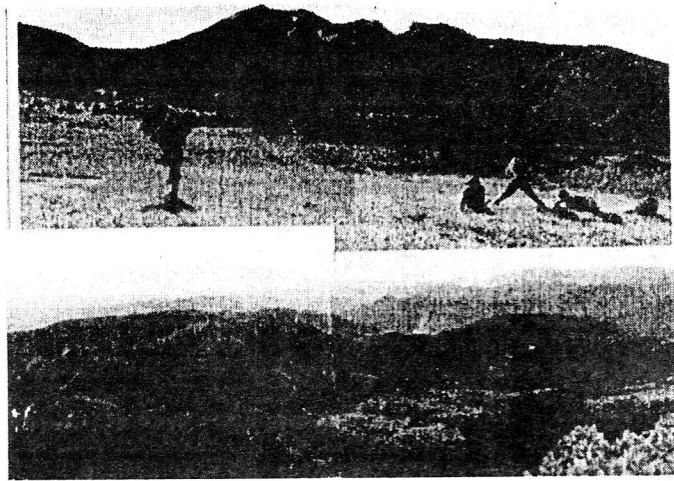
KUWVホームページ見せてもらいました。
急速に進歩していますね。
特に、「白山 photo gallery」気に入りました。

さすが、ハクサン自然解説員。
今年の成果が良く現れています。
9/11夜には、スライド上映会が開催されるのかな？
今から楽しみにしています。

ところで、奥名君は今年何回、何日白山へいったのですか？
その気力、体力には驚嘆します。
(アメニモマケズ、カゼニモマケズ、……)
私など、御前峰に行くのに3日もかかっているのに。

「シラタマノキ」懐かしいですね。
葉は覚えていないが、秋になると、白い実？がなり、
食べるとサロメチール(サルチルサンメチル)の味がします。
是非秋に行き確認してください。
昔、歩きながら、「クロマメノキ」の実を食べながら、
口直しに「シラタマノキ」の実を食べたものです。
(タダシ、自然解説員には内緒にしておいて、下さい。
罰金をとられるといけないから。)

百四丈の滝、一度ごらんあれ。
それよりも、是非清浄ヶ原を尋ねて下さい。
何も無いが、静かな広い草原です。
写真でその、良さが表わせない所です。
1971年百四丈の滝に行った時、私が一番気に入ったのは、
滝の上の覗き岩と清浄ヶ原です。
今回四塚から、しみじみと眺めることができました。



99年08月21
日

むかし、むかしアオヤギさんが社会人1年生だった頃、
加藤の父さんに秋の清浄ヶ原へ連れて行ってもらいました。
そのメンバーは訓子(3年)、矢津嬢(2年)、上馬君(1年)、南保君(1年)
そして私。確か
楽々新道を登り、小桜平で一泊。
その夜中、大雨、誰か1年生が冷たいと言いたしたが、
リーダーが雨が降っているのだから我慢せいと文句を言っていた。
少しすると女性陣も冷たいといいだし、
女性に弱いリーダーがテントの外に出て見ると周りは川
あわてて、シュラフをたたみ、起きるが腰を下ろすところもない。
保安林の看板を盗って来てその上にしゃがんで夜をすごす。
あくる日、濡れたものを乾かし、夕方滝谷上部まで歩いて1泊。
翌日は晴れ。
日本にもこんな草原があったかという清浄ヶ原を歩いて百四丈滝上部へ。
この頃滝は上部で岩のため二筋に分かれており、
その岩に乗って滝を覗けた。覗いた。
その岩が上馬君の写真集ではなくなっていた。
そのあと、滝を見る為に尾添尾根の加賀室跡まで登り、
テントに戻り、清浄ヶ原ヒュッテ(その当時でも壊れていた)まで行き、
(K君が長岡とデートの約束をしていたので)1泊。
あくる日、四ツ塚でY嬢がコンタクトを落とした。
30分程さがして、あきらめることとしたが、
コンタクトの値段を聞いて再度探し、2時間かかって見付けた。
その後釈迦経由で一ノ瀬へ。
実に思い出多き変なパーワンであった。

アルバムを見たら、リーダーのカッコイイ言葉が載っていたので紹介しておく。

(お父さんゴメンね)

「このPWは白山の草原地帯を歩く。

小桜平、清浄ヶ原、北弥陀が原、

そして最大の目的は百四丈の滝である。

白山でも有数の滝ではあるが、秘かな者だけを待つかのように。

その姿を今は廃道になった尾添尾根の方からしか望めない。

滝はきっと三重の虹の乱舞を我々に見せてくれるに違いない。

岩間道から見る白山は険しい。

紅葉の奥に何色の白山を見ることであろうか。」

お父さん、昔はカッコよかったね。

15期 上馬

99年09月08
日

いつも便りをありがとう。山に行けない身には少しつらいけれど、早く行けるようにと元気づけられます。

今度の15期会には、2人で高速バスで行くことにしました。初めは車でと思っていたのですが、舟田さんからの電話があったり、それに体調も十分ではありませんので。片町9:40発に乗車します。君もバスらしいですが、同じ便ですか。

メールのアドレス下記のように変えておいてください。

99年08月27
日

山からの便りありがと。
ずいぶん花の名前を覚えたようですね。それにしても山の天気は思うようにはならないもの。
当方の体、ある程度のところまでは順調に回復してきたと思うのですが、なかなか思うようにはならない今日この頃です。午後遅くなると首に不安定感が出てきて肩や背の筋肉がこります。
山へ行きたいのですが、とにかく少なくとも次の診察(10月下旬)までは、おあずけです。ストレスがたまります。

山ではあまり無理をしないようにして、自然を楽しんでください。もう花は終わりですが、これからは草木の細やかな色づきが楽しめるはずですよ。

15期 宇野

99年06月07日

いつもご苦労さまです。
OB通信受信しました。
昨日、六甲高山植物園に行ったら、ほとんど時期が遅く
コマクサとクリンソウくらいでした。
教訓は、5月の連休明け頃に行くべし。次は、六甲森林
植物園に、紫陽花(神戸市の花)見物の予定です。

15期 舟田

99年12月23
日

本日ようやく通知簿の記載が終わり、メール解禁になりました。
そうでもないとしても仕上がりがありません。
実態をオブラートに包んでやんわりアドバイスと励ましなんて
ノーベル文学賞ならびに家庭平和賞ものです。
仕方ないですね。どんなお仕事にもジレンマとストレスはつきものです。
そんなOB達のあすへの活力のために、野沢OBスキー合宿は
ますます隆盛となるべきでありましょう。

ところが、ところで、私、不参加となってしまうました。
言い訳・・・最初聞いた時は日がずれてたんですよ。それが本決まりになったら
2月22日出発となって、かねてからの浮気がばれてしまうことになりました。
3月5日まで、ヒマラヤトレッキングに行ってきます。

金沢クンプ協会というのがありまして、ヒマラヤ・シェルパ・ミュージアム
設立の支援団体です。友人が博物館の設計を担当しています。
そこが、ミュージアム建設予定地の披露と、シェルパとの交流を意図した
ツアーをだすことになりました。金沢発着であること、そして、
かねてから関心がありながら、物見遊山のみでは家族にも生徒達にも
申し開きが出来ないがブレーキになっていた私には、ふって湧いたような
チャンス。見回せば身内に病人もおらず、何をどうやりくりしても
行くぞ！と決心してしまいました。
そのうえに旦那が「苦節25年」のご褒美に留守親を快諾してくれましたから
もう、どう侮蔑の視線を浴びようと思ってしまいます。
スキー合宿の皆様には、陳謝につぐ陳謝です。12月23日

保田様 早々と日程を押さえこんでしまいながらの不貞をお詫び申し上げます。
ご叱責は11期のおにいさま方が、私を庇い、受けて下さることです。
よう。次年度には本人が残りを受けますので、お手(足)やわらかに
お願いいたします。

青柳様 スキー合宿の幹事をお譲りします。記念誌編集長のよしみでお引受下さいませ。
半年毎にあのストレスを繰り返すと、ヒマラヤへでもぶつとばないと
発散できないのは、先輩のみご理解できますよね。

SUB:山便り 謎のじい様編(歟崎山)

一週間前の誓い通り、旦那は一応早起きしました。

そして立山山麓ゴンドラリフトの始発便に乗るのには成功。

先日の低気圧通過で雄山は真っ白。毛勝三山との間に覗く真っ白ピークは
白馬です。山頂駅付近は紅葉真っ盛り。本日は三段紅葉が楽しめそうです。

人の混まないうちに登っちゃおうと(結果的にはその日の登頂者は私達込みで
8人)しっとり落葉の道を進みます。

さて第一のピーク瀬戸蔵山で、私達は一人のじい様に抜かれました。

その出で立ち・・何ということない町着に子供の合宿ザック、靴だけ山靴の飄々の登り方に克明な記憶が私達にはありました。

それで次の大品山のベンチで追いついた時に尋ねてみたのです。

「三年前の夏、お盆前の頃、早月尾根を登ってはおいでませんでしたか？」

「毎年行っとるから・・・。そうやろね。」

「覚えてますよ、その歩き方。さぞや年季が入ってらっしゃるんでしょうね。」

じい様はにこやかにペースを崩さず先行されて行きます。

そうなのです。あの時、岩稜地帯にさしかかりヒーヒーだった私達を

軽やかに抜いていったじい様がいました。

「今日のうちに山頂へ行ってこられるんですか？（早月小屋に泊まるとしての質問だった）」「日帰りすることもあるけれど、今日はあっちへ抜けます。」

目をむく私達を尻目に、じい様の姿は視界から消えた・・。

あのじい様が今日はここを歩いている。

山頂は見事なパノラマ。室堂から上は真っ白。紅葉の弥陀ヶ原に行く高原バスを見下ろし、一番近い薬師岳の豪快な山塊はコテの跡も艶やかな大アイスクリーム。右まわりに視線を移せば、乗鞍も御岳も、そしてかなたのわが白山も、白く輝いている。そして日本海がつかえる。そこからまたせりあがってくる山並み。マッターホルン調に望める剣まで真っ白というのが、冠雪の時期ならでは。弁当を広げるじい様は、富山以外はあまり知らないよう。ところが薬師をはじめ皆日帰り圏なのである。

いつから？と聞いてみたら、登りだしたのは平成6年頃から。その頃咳が止まらなくて、これは肺癌かとも思っていたのが、たまたま友人に誘われて山へ行ったら直り、山の景色もよかったので、それからは健康の為に登っているという。お互いに記念写真を撮り合って、下りはもっと驚いた。登りより、下りに老化は出てくるもの（前回、下りは見ていない。）。かるやかなフットワーク、抜群のバランス。下りならナカオでも落ちこぼれていない私達が追い付けない。たった1回だけ滑った。最小限のスリップで止めた。

「しつこいようですが、山はともかく、スキーでも」で、どうやらスキーの年季はたっぷりそうなのかった。

瀬戸蔵からは竜神の滝へまわる。一本丸太の橋を彼は平然とスピード落とさず渡った。私と旦那は橋は使わず、下へおりてその沢を越えた。

山麓駅に戻った時には、もう営業も終わり、ワイヤーだけが空回りをしていた。

「まだサラリーマンやってますよ。だから日曜日しか行けないね。」の彼とはそれ以上の自己紹介もせず別れた。65はこえている。サングラスを外した顔は70ともいえそうだった・・・謎のじい様。

SUB:山便り

秋日和の9日・10日は、上高地－パノラマコース－湊沢－奥穂－前穂－岳沢－上高地を歩いてきました。

上高地は12年ぶり。北アへの泊まり掛けは夏2回、秋1回がせいぜいですから、安房トンネルが初めては当然として、平湯にあかんだな駐車場ができ、バスターミナルまでシャトルバスが運行とはじめて知りました。便利は便利ながら、即タクシーに乗り換えでき

た昔よりはタイムロスがでてしまいます。「旦那が不調」もあって、北穂小屋泊りをあきらめ、涸沢小屋泊りに。1年で一番混む日とあって夕食は11時になっても最終組が終わらず、「横をむいて、隣と密着して」の指示に地獄のような一晩でした。

翌10日。どのみち寝てはいられないと、テラスへ出てしまう。照明に照らされたザック置場はもうカチャクチャ。ザックをようやく見付けると、トレッキングポールが外れてしまってます。不愉快が頂点に達している旦那「なくてもいい。もう出よう。」。意地でも諦めないその妻、もう他人様なんてどうでもよいで、ひっくり返すだけひっくり返して（ザックは文句言わない）ついに発見。旦那が感心（ほとんど感動）していました。この妻に頼るしかないと感じたことでしょう。

奥穂にかかるオリオン。それが薄らいで、涸沢槍が朱色に染まる。カールの底のネオンのようなテント村からいくつものフラッシュが光る。そんなところで光らせても写らないんだよと、優越感に浸りつつ、ヒーヒー登る。3cmを越える霜柱・・・「密着」で暑かったけれど、やはり秋の北アなのです。やっと着いた奥穂山荘のテラス前、イワヒバリの群がスイスイ乗り越していく。これだったんだ。昨日、稜線にキラキラ光る銀の塵のようなものが見えて、その度周囲からも歓声があがったけれど、白出側の落日を浴びたこの鳥達の群舞だったんです。従業員さん達は客が来ようと我関せずの一斉お食事中。ふん、ジュースなんて買ってやんねえ、で出立。ルートは12年前とやや違い、トラバースに変更されていて、ヤバイなりに、落石しても後続にあたらないようになっています。そしてたしかに12年前には見かけなかった層がよじ登っているのです。

ついに頂上。100の頂上に100の喜び・・・とはいうものの、やっぱり圧巻。切れ落ちるカールを両側に従えて、岩稜の連なり、四方に広がるただただ山と雲海。夏の雪と花も魅力だけれど、クリアなパノラマは断然秋。早々にガスが湧いてきてなんてことがなくて、克明に見えてしまう。もちろん天候に恵まれればの話。だから喜色満面が頂上に溢れていました。

今回は引き返すのではない。吊り尾根を歩くのである。内心、そろそろ行ってこなくちゃ・・・バランス悪くなったらヤバイし・・・であったのに、ほとんどの方が当然のようにそっちへ向いて行くのにびっくり。それこそ、上高地ハイクそのままの格好の人まで入り込んで行くのである。地図見たら赤線ちゃんとつながっているし・・・ということなのか。つまりいたら奈落の底の連続なのに・・・怖いもの知らずというか何というか。ほんなら尚のことこける訳にはいかんと気を張って渡ったのでありました。紀美子平からの登りもほんとに凄まじいものでしたが、前穂は意外に広い頂上でした。屏風のコルからの続きにテントが見え、そちらからはクライマー達がよじ登ってきていました。何度も見上げた吊り尾根をついに渡った。そしてあれが奥穂かな？こっちが前穂かな？で塊としてはわかるもののどのピークと今一得心いかなかったのが、もう断然わかってしまったのである。紀美子平でお弁当を広げつつ、実に幸せでした。時刻はまだ昼前。「今日のうちに帰ろう」「うん。伸び伸び寝たい。」で、岳沢を駆けおりたのでありました。

喧騒の河童橋からふりかえる吊り尾根はまた格別でした。そしていったい何の列？と思えば、延々バスターミナルから延びる沢渡方面への乗客の列でした。平湯方面はまだ短かったものの、その後も渋滞に耐え、のんびりテレビの思惑がはずれた息子達にご対面したのでありました。

99年8月24日

小屋作業の件、道路が開通していることは土木事務所への電話で確かめました。

道標の件は正式に来年へ持越となりました。今年は前高尾山に6本の道標を立てておしまいです。(5月に、金沢市長直命で「吉次山、高三郎山に道標を設置せよ」があった話の顛末。)

犀滝の件。今週末、27、28日に、MROの取材に同行して犀滝へ行くことが決まりました。ダム湖をボートで渡り、高三郎新道から砥倉分岐、二俣川へ降りて、一泊二日で取材します。(立派な社会人である私は、そんな金曜日なんて使えません。) 今日現在の天気予報では、順延の可能性もありますが・・・

ともあれあのルートを開拓したのは、金大ワンゲル。しかるに、そこを尋ねるPW名を数年見たことはありません。(個人山行で行った人があるかも) 日本百名山は70すぎても踏破できるけれど、犀滝はご縁がなければ行けません。

誰か同行してみたい人いませんか? この機会に同行してくれたら、ワンゲルの伝統もちょっとつながりそうに思うんですが。

現役のみなさんなら、邪魔にもならず、戦力にもなり、いい被写体にもなります。(秘境をたずねる若人がいるってのは日本の希望です。)

急な話ですが、水曜日までに参加連絡がもらえたら、林さんに頼んでみます。それ以降だと、たまたま同行くらいかも。

オロ口対策は必要。腰近くまで濡れる可能性あり。

濡れるので革靴ダメ。布製夏靴たすワラジor地下足袋or沢靴あたり。希望者がいたら電話でお知らせ下さい。

8月24日

22日は医王山の登山道整備と流しそうめんの会。作業班は整備とペンキ塗り。炊事班はそうめんゆでて、バーベキューの用意。

この行事の参加率はよくて、22名参加。

倉谷はたかだか1時間なのに、どうして?

倉谷だからというより、山は大昔の話ということなんですけどね。

話が前後しますが、21日は岐阜県の大蓋山。2時間登りコース42名を3人で引率。5-6名が遅れて、本隊の前後に一人ずつ、遅れたグループに一人の配置になりました。だからコースのわかっている人が三人はほしいというあたりでしょうか。

それもその登山教室への初参加者は1名の構成です。

スタッフは多いにこしたことはありませんね。

15期 松林

99年10月05日

OB通信ありがとうございました。

15期会にも山小屋酒場にも参加できず、無念の日々を送っています。

残り少ない人生、このままむなしく過ごしていいのでしょうか。

いえ、いいはずがありません。

来年は私も50歳です。

第二の人生をいかに歩むべきか、そろそろ本気で、真剣に考えなければと思っています。

来年の「お花見コンパ」までには、何らかの結論を出さねば、と決意しています。

このままでは、当番の義務さえ、果たせそうにありませんから。

お願い/瀬女高原の一日リフト券、お安くしますので、買ってください。

去年はどうとうスキーを履けずじまいでした。今年も、どうなるか、リフト券が無駄になってしまう公算が大ですから(三枚もかつつけられるんですよ)

99年09月10日

白山だよりをうらやましく拝見。

うらやましい、といえば11、12日、15期会に出席できず無念です。

皮肉なことに、12日は休刊日、13日は公休なのです。1日ずらして、三重県にドライブしようかと思っています。

皆様に、どうぞよろしくお伝えください。

99年08月08日

小生は夏休み返上?(最初からそんなものはないのですが)で仕事をしています。本日の朝刊に掲載した柵さんのテキストをお送りします。記事入力用のファンクショ

ン付きの棒原稿をそのままコピーしたので、かなり文字ばけしていますが、お許しください。
どうぞよろしくお願いします。

99年06月17日 15日の北國新聞朝刊「女の目」のページを見ていただいたでしょうか。
舟田事務局長に無理を言って、座談会に出てもらいました。
局長は、おおいにワングルのことをPRしてくれましたので、ぜひホームページでみなさんにも紹介してください。
記事全文が必要でしたら、データベースからダウンロードして、メールでお届けします。
どうぞよろしく。

99年06月07日 いつのまにか春も過ぎて、もう梅雨。上着を着ているのがつらくなりましたが、季節のうつろいを楽しむ余裕もなく、一週間のたつのが早いこと。
ただ、やみくもに忙しいだけで報告することもないのですが、早くこんな生活とは縁を切って四国八十八カ寺のお遍路に出ることを夢んでいます。
ワングルのホームページだけは定期的にチェックしていますので、皆様のホットニュースを楽しみにしています。

15期 間所

99年06月06日

お久しぶりです。
毎回OB便りを送ってくれてありがとう。

50肩、私も仲間に入りました。2月のOBスキー合宿で50肩の話を聞いた時、他人事としか思えなかったのにスキー合宿直後からなんとなく肩が痛くなり、最近では立派に50肩の症状を呈してきています。

先日、会社からの帰りに横浜線の長津田駅で偶然松縄に会い、町田でコーヒーを飲みながらいろいろ話をするうち、佐野君の歓迎会をやろうということになりました。まだ時期は未定です。奥名もこちらへ来ることはないですか？

15期 高村

99年10月26日

毎週のHPの更新ご苦労様です。
居ながらにして白山の風景を見れて感激しています。
そして皆さん山登りの人は、詩人だなあ…感心しています。
Mailが届いたら返事を書きたいけどHPに載るとなるとちっとは、山に関連の事と思ってもなかなか行っていないので、ネタがなくてすみません。HP隠れファン、たかむら

99年10月04日

おはようございます！朝、このメールを開けたら4通も届いていますってメッセージがありびっくりするやら嬉しい週の始まり！
同期会では、色々お世話になりました！
関西組が参加しないので、戸惑ったのですが、思い切って参加して本当によかったです。
また、ワングルのホームページを楽しみに読ませて頂いています
では、また間違ってメール下さい！ たかむら

16期 清水(重)

99年12月02日

16期の清水ですが、皆さんお元気ですか。アメリカ(シアトル市)への転勤となり、12月3日に出発します。来年3月に家族も合流する予定です。
先立ってはビザの申請のため、金沢大学工学部学生係の方で英文の成績証明書を作成していただきました。専門科目については、必須と選択で51科目を取得していますが、そのうち優はたったの9つ(約17パーセント)でした。
すべてをワングルの所為にはしたくはありませんが、今更ながら少々悔やまれますね？

ともあれ何年かは外国暮らし。しばらくはワングルのいろいろの行事ともお別れです。これを機会に本当に久しぶりではありますが、日記(英文では無理か)を再開しようかと思っていますが、我が中年の記になりますかどうか。ご期待あれ。ではまた。

16期 山上

99年09月08
日

OB会報「やまざと」を読んでいたら、わたしのアドレスが古いままになっているのに気づきました。単に or が ne に変わっただけなのですが、それと山上病院ではなくて、山上小児科クリニックです。8月8日を最後に奥名さんからのOB通信が途絶えているのはアドレスのせいかもしれませんのでよろしくお願いします。

99年07月04
日

16期山上正彦です。ショウキランと書いてあるのを見て、思わず大田正喜さんを思い出してしまいました。辰野さんとたしか近所だったのか、大田先輩と辰野先輩はペアで思い出すのですが、それから大島さんや岩田さんらがずるずると……。

17期 長田

99年10月19
日

OB会ではお世話になります。
やまざと99夏号に事務局の財政について西村さんが書いておいででした。「カンパをしなけりや」と思いついたのですが、グズグズしてなかなかできませんでした。
ようやく本日些少ですが送金させていただきました。どうかお役立てください。

17期 長田正文

17期 藤野

99年12月19
日

ここUSでは、12/19の日曜が最後のクリスマスShoppingでどのモールも人でごったがえしておりました。日本の大晦日の賑わいに似ているところもありますが、私たち日本人にとっては、さほど魅力的な商品が多くあるわけではなく、衣類以外はこれといった、買いたくなる商品は無いのが現実です。年を経るごとに、こたつでみかん、おしるこに暑いお茶等、望郷の念が強くなり、日本のこちよさ、暖かさうを懐かしく思う今日この頃です。ここ10年近く好景気が続いていることから、消費者の購買意欲も高く、まだまだ、この経済的に良い状況は続くような気がします。日本の過去のバブル的なところもあり、なんとも表現できない状況です。なにはともあれ、良いお年をお迎え下さい。

99年11月20
日

ご無沙汰しております。ワングル17期の藤野です。藤野といっても、ワングル劣等生の私を覚えておられるかわかりませんが、渡辺、小間、小島、藤井等々と同期です。今回たまたま小島が奥名さんのMailを回送してくれて、兼六園の琴柱灯籠??を見て懐かしく思っている、今日この頃です。私も卒業以来20と数年、金沢を訪れる機会も少なく、どんなに変化しているのかも想像できません。今は仕事の都合で、アメリカのテネシーのNashville近郊に住んでおり、今年で早4年がたちました。

ご存知かも知れませんが、同期の小島は香港に、川村はやはりアメリカのピッツバーグにおり、その他日本にいる人たちと、海を越えてのE-mailがひとときの安らぎでもあります。もし楽しい話題等ありましたら、話だけでも、流してください。今後ともよろしく。

藤野 11・20・1999 Tennessee Hendersonville (Nashville)

17期 渡辺

99年10月08
日

10月6日7日と出張で金沢を訪れました。
駅西側の変貌振りを初めて確かめました。
線路があつた風景しか覚えていないので大きな驚きでした。
夜、東別院近くのおでん屋に入りましたが
駅と武蔵ヶ辻を結ぶ広い通りも見知らぬものでしたので主に尋ねれば「新たにできた。」とのこと。卒業後23年もすればそう不思議なことではないのでしょうか、隔世の感があります。
久しぶりの金沢弁がうれしい夜でした。

99年07月05
日

17期はどうやらこの夏、久しぶりに集まれそうです。
これもOB会のおかげです。

18期 津島

99年10月28
日

11月よりメールアドレスがtsussy@mail.kbn.ne.jpに変更になりましたのでよろしくお願いたします。
ケーブルテレビでものすごく早くなりました。
八月に娘と八ヶ岳に行つてまいりました。
山の道具屋のツアーに参加しましたが
なんと七十二名もいました。
ほとんどが五十歳以上でしたが足の達者なのには驚きました。
来年まで山は冬眠いたします。

23期 興井

99年10月25
日

度々OB通信有り難うございます。23期の興井です。初めてメールします。
10月の9～11日と扇沢から鹿島槍へ、23～24日にかけては地元の大台ヶ
原へ紅葉を求めて足を伸ばしました。
いずれの山行も天気にも恵まれて山自体の魅力は十分に堪能したのですが、やはり
紅葉はいまいち、というか全然駄目
というか……。今年の紅葉は結構期待できるぞ、という話も当初あったよう
ですが、9月、10月の馬鹿陽気に
意気消沈といったところでしょうか。北陸、白山近辺は全体的にどうなのでしょう？
ここ数年はどうも紅葉は駄目ですね。

23期 竹内

99年10月04
日

OB通信の配信ありがとうございます。
文面から見て、KUWVのHPを開設されているようなのですが
URLが書いてないので、どこにアクセスしたら良いか分かりません。

暇な時に見たいと思いますので、是非、URLをお教え下さい。

25期 高橋

明けましておめでとうございます。

25期の高橋です。懸念された2000年問題は大きなトラブルはなかったものの
細かな障害は多々あり、しばらくは目が離せない日々となりそうです。

会報とホームページを楽しく見させて戴いております。役員の方々の苦勞を思うと
感謝の念で一杯です。下記に住所変更しましたのでお知らせ致します。

99年06月10
日

会社でインターネットを使用する様になり、さっそくアクセスしてみました。卒業してはや15年
余り経ちますが、遠くにいても最新の情報が得られるホームページは本当に素晴らしいもので
すね。これからも定期的にアクセスしたいと思います。名簿のページのパスワードを教えてい
ただけませんか？

36期 石川

99年10月12
日

10月9日は、
私28歳の誕生日です。
世間では、
この日を、
「トラックの日」
というそうです。
電車のつり革広告で見ました。

33期奥出氏の誘い、
「連休に朝日岳いかん？」
の誘いを断り、
会社に行ってきました。

会社に行っても、
別に遊んでるわけではなく、
お客さんの対応をしてました。

今年の冬は、
なんとか、
登りたいもんです。
休日出勤は昼からですが、
近くの川沿いを走ってます。
ほんとです。

でも、
体力は、めっきり落ちました。

ところで、
ワングルホームページのURLは、
なんでしょう？
わかりません。
教えてください。

34期 新倉

99年07月05日 ワングル36期の新倉です。毎回OB通信を読ませていただいております。

大変恐縮ですが、一つ教えていただきたいことがございます。
それは、ワングルホームページのOB名簿のパスワードのことです。

KUWVとか適当に押してみましたがダメでした。教えていただけると幸いです。

お忙しいところ申し訳ありませんが、よろしくおねがいいたします。

新倉崇之
niikura-takayuki@miti.go.jp

P.S.
今年も剣岳で亡くなった蒲原良太郎君の追悼山行を催す予定です。
今年は、8月20～22日の予定です。

38期 橋本

99年09月03
日

mailaddr : hasimo@qf6.so-net.ne.jp
mess : 初めまして、38期の橋本です。
特に用事はないのですが、暇なので投稿してみました。
どうやら同期では私が一番乗りのようですね。

先月1年半ぶりに山に行ってきました。
場所はハケ岳です。
天気といえば快晴で、特に天狗岳からの展望はとても良く、遠く白山まで見えて
感動しました。(私が見間違えていなければの話ですが...)
宿泊をする登山は大学4年の時の百4条PW以来でしたが、特に疲れはありません
でした。(すみません強がりです)

現在時刻は9月2日(金)AM1:30です。
そろそろ寝ないと明日(今日か...)の会社に遅刻するのでもう終わります。

同期の皆さん、最近どう？

次のページ

「事務局長が、OB会に悲観して、厳冬期ヒマラヤへ
行く」などという噂が流れているとか、いないとか・・・。
ご覧のような支援団体の、広報活動を趣旨とするツアーに
参加するだけなのです。なかなか夢のある団体と思いますが。
皆さんの身の回りに、こんな会がある、こんな活動がある
と紹介したいものがありましたら、事務局にご一報下さい。

NEHKI TENGLA?

No.1

HOT NEWS from KANAZAWA KHUMBU ASSOCIATION - No.1/1999/AUTUMN

金沢クンブ協会の概要 《設立趣意書》

●「ヒマラヤ・シェルパ・ミュージアム」支援のために

1. 設立背景及び理念

世界最高峰エヴェレストはじめ、数多くの高峰・名峰をいただくネパール・クンブ地方は、山岳ガイドで知られる高地民族〈シェルパ〉の故郷であり、その雄大な自然景観から、「サガルマータ国立公園」として、世界遺産に登録されている地域でもあります。

つい20年ほど前までは、一部の遠征隊等を除いて、外国人がめったに足を踏み入れることのなかったこの地域も、現在では、登山やトレッキングを楽しむために、毎年、2万人近い人が世界中から訪れるようになっています。山を愛する人にとって、クンブは、いわば聖地にも似た“憧れの地”と言えるかもしれません。

今般、そのクンブの中核、クムジュンとクンデ両村において、シェルパ族固有の文化やヒマラヤ登山へのかかわりを含めた彼ら独自の歴史を、後世に永く語り継ぐことを目的に、「ヒマラヤ・シェルパ・ミュージアム委員会」(Himalaya Sherpa Museum Committee)；政府登録No.77)が地域の幅広い賛同を得て発足し、新たに、拠点施設の建設を目指すことになりました。電力供給の開始(1994)や旅行者急増への対応により、クンブのシェルパ社会が、文



↑ミュージアム建設予定地付近より、遠くアマ・ダブラム(中央奥/6856m)を望む

化的・構造的に、大きな質的变化を迎えようとしている今、自らが拠って立つ、民族の伝統的基盤(アイデンティティ)に目を向けたこの試みは、まさに時宜に合ったものであると考えます。

基より、この計画には、多方面へのきめ細かな配慮が求められています。クンブが置かれている厳しい自然環境やその地球レベルの意義、更には、トレッキングを中心とした、観光産業抜きには語られぬ地域の現状など、これらの諸要素を踏まえて本計画が持つ意義を考えた時、その新施設は、単に〈博物館〉としての機能を果たせば事足り、と言える

ものではありません。それは、21世紀に伝えるべきクンブの姿を、共生と共有の理念の下で、真摯に追い求めたものでなければならないでしょう。

私たち「金沢クンブ協会」は、現地からの正式な支援要請に応じて1997年の夏に設立され、今日まで、各界・各層との対話や現地での基礎調査を積み重ね、相互理解の深まりと計画遂行への基盤作りに努めてまいりました。そして、この度、現地組織の設立趣旨・規約に沿った形で計画の全体像を再構成、大略、以下のような構想のもとで、博物館の創設を軸とした、本格的な支援活動に

あたりたいと考えます。

2. 基本構想

まず、計画推進に際しては、施設完成後の円滑な運営・管理を考えるうえでも、近隣のナムチェ・バザール、シャンボチェなどとの将来にわたる緊密な連携・協力体制が不可欠であるとの認識から、本計画を同エリア全体のより一層の活性化と振興に寄与しうるものにしたと考えています。それゆえ、私たちは、博物館の機能や活動を柔軟かつ複合的に捉え、日々の生活により密着した形で運用を提案します。

すなわち、私たちが目指す新施設は、〈博物館〉本来の機能である民俗文化財や歴史及び自然科学資料の収集・保存・展示、それに伴う研究及び教育・普及活動を担うだけでな

く、地域の人たちの暮らしを通して生まれてくる、さまざまな分野における、ごく自然な知的欲求や素朴な好奇心に対しても、適切に応えうる拠点としての役割を担えるようにしたいと考えています。

また、同地域一帯が、稀有の自然景観と特徴的で豊かな植生を有する広大な「世界遺産」の、限られた一部でありながら、一つの完結した周遊ゾーンとして、今後、旅行者に定着しうると考え、自然・文化面での新たな〈ビュー・ポイント〉を整備するとともに、住民の中にトレッキング・ガイドを兼ねた自然解説員の養成を目指し、環境保全と自然保護に向けた活動にも取り組んでいきたいと思っています。

そうした中で、将来的には、博物館が、地域の人たちの文化的拠点と

して浸透し、一方、旅行者にとっては、幅広くクンプの自然・文化に接することができ、加えて、気軽に地域との交流や相互理解を図れる場として、広く受け容れられるようになっていくことを願ってやみません。

皆様の、広汎かつ末永いご支援、ご理解をお願い申し上げます。

3. 「金沢クンプ協会」の活動概要

- ①建設支援のための募金及び広報活動
- ②ミュージアムの運営・管理に関わる助言と提案
- ③現地スタッフ養成への支援
- ④学術調査への支援と助成
- ⑤その他、設立の趣旨に沿った支援・交流活動全般



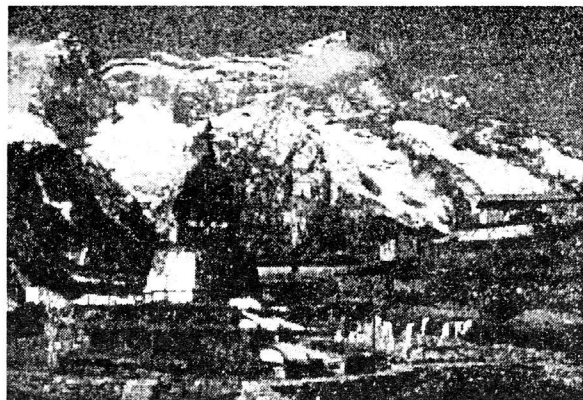
活動経過報告 一計画誕生から今日に至る経緯一

- | | |
|--|---|
| <p>1995.3 ●現地側、日本側の双方から「ミュージアム」創設の提案が出され、各々が、具体的な課題や問題点などの検討に入る。建設予定地の選定作業を開始。</p> <p>1995.12 ●日本側から現地側に「設立趣意書」の作成及び運営母体となる組織作りを要請。</p> <p>1996.2 ●現地側で第一回のミーティング。名称を「Himalaya Sherpa Museum(HSM)」とし、その性格や機能など、基本的な構想について話し合う。建設候補地を確認。</p> <p>1996.3 ●「HSMコミッティー」の行政当局への登録手続きを現地側に要請。</p> <p>1996.4 ●スタッフ養成を目的に、クンプ出身の学生3名に奨学金提供。2名は専門学校でコンピュータ技能を修得、1名は、現在、学校の臨時職員として勤務中。</p> <p>1996.8 ●現地側から、建築用資材に関する提案が出される。(現地では、板材等の調達に容易でない為、機会があれば随時、購入していきたい旨の意向が示される。)</p> <p>1996.11 ●現地組織の登録申請が、所轄のソル・クンプ県において、認可・受理される。登録番号77：正式名称「Himalaya Sherpa Museum Committee, Khumjung」</p> <p>1997.1 ●「登録証明書」及び「設立規約」の公式英訳文(ネパール法務省発行)が届く。</p> <p>●現地側より、クンデ寄りの建設候補地を、クムジュン側に近い場所へ変更したい旨の意向が示される。</p> <p>1997.2-3 ●前記「規約」の細部及び設立趣旨についての確認作業を行うと共に、建設予定地に関する基礎調査ならびに建築事情などについての調査を実施。</p> <p>●正式登録に基づく現地コミッティーの再編成、人選作業を開始。</p> <p>●民具等に関する資料リスト作成を要請。</p> <p>1997.5 ●予定地の測量調査を実施。</p> <p>●ネパールで全国的地方選挙。行政単位でもある各VDC(Village Development Committee)の村長、代議員選挙が行われる。</p> | <p>●選挙結果を受けて、現地組織の人選及び編成作業等を再開。</p> <p>1997.6 ●地域の主要祭礼「Dumji」(年一回)期間中の会合において、現地組織が正式に発足。</p> <p>1997.7 ●現地側からの正式な支援要請文(アピール・メッセージ)が届く。</p> <p>1997.8 ●「金沢クンプ協会」設立。</p> <p>1997.11 ●設立記念コンサート(11.4/教育会館)。</p> <p>1998.1 ●「ネパール観光年/VISIT NEPAL '98」&シェルバ暦「寅年」スタート。(森林資源保全の観点から、木材調達に関する規制が厳しくなると共に、寅年が忌むべき年でもあることから、建設作業などの本年中の開始は避けてほしいとの要望が現地側から伝えられる。)</p> <p>1998.2 ●現地側計画案に対する日本側の計画概要(試案)を提示。(保存・展示するだけになりがちな従来型の博物館でなく、生活に密着した、住民参加型の「生きた博物館」を提案、現地側の理解を求めつつ、計画概要の地域への浸透に努める。)</p> <p>●文化財及び民具に関する基礎調査と資料リストの作成を再度要請。(→青年層を中心に作業グループを結成)</p> <p>●シェルバ自身が自らの文化、歴史を書き残し、伝えていくことの大切さを訴える趣旨から、伝承や説話などの記録を残すよう提案。(現地の社会科教師 Pasang Sherpa を中心に執筆、翻訳などの編集作業開始。)</p> <p>1998.4 ●現地側作成の資料リスト(写真付き)が届く。</p> <p>1998.5 ●資料リストに基づき、収集方法・展示構成案などの検討を開始。</p> <p>1998.11 ●「金沢クンプ協会」総会…基本方針・活動案等を承認。</p> <p>1999.2 ●現地調査(民具・食生活他)、収集開始に向けて仮収蔵場所の設置などを検討。</p> <p>1999.4 ●かねて申請中(2回線)の電話回線(1回線)の取得が決定。現地の民家を連絡拠点・仮事務所として、FAX機能付き電話機を設置。下旬より使用開始。</p> |
|--|---|

NEPAL **クンブ**地方について…

シェルパ族の故郷として知られるクンブ (Khumbu) は、インド・中国という二つの大国に挟まれた小国ネパールの北東部、ヒマラヤ山脈南面の山岳地帯に位置し、標高2700m前後の山域から、世界最高峰エヴェレストはじめ、ローツェ、チョー・オユー、アマダブラム等々、数々の巨峰、名峰群を間近にいたく標高5000m近い地域にかけて、いくつかの村落が散在、クムジュン、ナムチェ、チャウリカルカという3つのVDC (Village Development Committee; 行政区域) で構成されている。その植生は、幾種ものシャクナゲ (ネパールの国花アルポレウムはその一種) や松、トショウ (ネズ種の常緑高木) など変化に富み、動物も、ヤクやナク、ジャコウシカ、雪ヒョウ、国鳥にもなっているダフエに代表される野生の鳥類など多種多様なものが生息している。

クンブの住民、とりわけ、そのほとんどを占めるシェルパ族は、1960年代以降、山岳ガイドとして広く世界に知られ、固有の言語「シェルパ語」を持っている。ひ



と昔前の彼らは、ネパール・チベット間の塩や肉、毛皮などの交易に従事していたが、地域の主要農産物は伝統的にジャガイモやソバなどであり、一年の半分をその栽培作業に費やし、残りの半年間は、米や日用品の購入の為に低山域へ下り、遠くはインドとの国境辺りまで出かけることすらよくあったといわれている。

冬から春にかけての間は、もちろん雪は降るものの、総じて、まだ乾期の内にあり、モンスーンの季節も雨がちではあってもその降雨量自体は低地域に比べるとさほど多いものではない。気温はおおよそ摂氏プラス20度からマイナス20度の範囲にある。また、強い風が吹く期間は2月から始まって4月の初め頃まで続くのが通例だが、時にはそれが11月から1月にかけてという年があったりもする。



👁️ クンブ・シェルパの宗教

クンブやそれ以外の土地で暮らすシェルパ族は皆仏教徒 (チベット仏教) であり、いずれの祭礼や儀式もブッダの教えに基づいて執り行われている。これとは別に、ソル・クンブ、とりわけクンブに住むシェルパは、クーンピラ (Khumbu Yula) 山を「聖なる山」、「神」として崇めているが、<Khumbu>はソル・クンブ地方の上方部を意味し、<Yula>は村の神を意味している。



→ 経文がしるされた石
「マニ石」

👁️ 言語と文字

シェルパ族には特に固有の「文字」というものはなく、それが必要な際はチベット文字を使っており、その意味でいうと、シェルパ語それ自体はく会話言語>といえるが、一般的に古い世代の人たちは日常シェルパ語を話すものの、一方で、近代教育を受けた若い世代、現在の子供たちは、他の地域に住む人たちとのコミュニケーションが容易なこともあって通常「ネパール語」を話すことが多い。



→ シェルパ族の子供



シェルパの生活民具・その①

■Dongmu

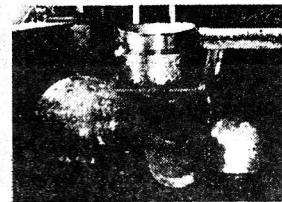
チベット系のシェルパ族には欠かせぬ飲み物、バター茶の製造器「Dongmu」(木製/写真①)。材質にもよるが、1セットは5000ルピー前後(約1万円)。ただ、手入れの煩雑さから、最近ではその使用も控えがち。電力の供給に伴い、電気ミキサーを代用する家庭が目につく。価格もDongmuの約半分と手頃なうえに、手入れも容易な点がこうした傾向に拍車をかけているようだ。



①Dongmu

■ロキシー(地酒)蒸留セット

製造器は、〈Pungshe〉〈Nangkim〉〈Jama〉〈Bata〉という4つのパートで構成されている(写真②)。ロキシーの原料は主にジャガイモを使用し、アルコール度数は高く40~50度前後のものが多く。しかし、日常的には雑穀類から作られる発酵酒の一種である「チャン」、「トンパ」が多く飲まれている。



②Bata(上)、下段左からJama、Nangkim、Pungshe

■Sortok&Lapsing

皿状のものが「Sortok」(木製/写真③)、四角の小さなものが「Lapsing」(石製/写真④)。いわゆる「おろし器」ともいうべきもので、ジャガイモを材料にしたパンケーキやモチ(Rhielthok)を作る際などに用いる。最近では、金属片に釘などで穴を開け、これを小さな板と組み合わせて作った手製の「おろしがね」も見られる。



③Sortok



④Lapsing

from EDITORS

先日、現地の Pasang Sherpa から送られてきたファックスの末尾に、次の一節が添えてありました。<... to keep fresh your hope and passion. We will send our progress. >

温厚で、常に穏やか笑みを浮かべておられるバサン先生から、PASSION(情熱)という、力強い響きの言葉を送られ、心から励まされる思いでした。この計画を支えているのが、村の人たちをも含めた、ひとりひとりの夢にかける強い想いであり、情熱であることを、改めて、実感させられました。

会報タイトル NEHKI TENGLA (ネキ・テンラ) は、シェルパ語をアルファベット表記にしたもので、さしずめ“さらなる高みへ——”といった意味になります。今後、当会報が、HSM計画の軌跡を長く記し、多くの方々と、クンプの人たちとの架け橋となっていければと願っています。なお、投稿、寄稿は大歓迎ですので、ご意見、ご感想などありましたら是非お寄せください。(玄田)

編集・発行



金沢クンプ協会
KANAZAWA KHUMBU ASSOCIATION

〒920-0863 金沢市玉川町11-6 井口ハイツ501号(玄田方)
TEL&FAX 076-223-4543/ E-mail:fwga5256mb.infoweb.ne.jp
郵便振替 00780-5-10775「金沢クンプ協会」

▼編集広報部

〒921-8802 石川県石川郡野々市町押野3-157-105(崎川方)
TEL&FAX 076-248-7619

INFORMATION

《第1回公開セミナー》

ヒマラヤの人・自然・文化

10月23日(土) pm1:30~4:00

石川県国際交流センター(リファール)/4F大研修室

プログラム

① 記録映画「カンチェンジュンガ縦走」上映(VTR版)

※日本山岳会登山隊の記録1984年/製作・日本テレビ/40分

② 講演:「ヒマラヤの民・シェルパ族」(仮題)

講師:鹿野勝彦氏

※金沢大学文学部教授・文化人類学/日本山岳会登山隊(1984)隊長

【入場無料】

主催●金沢クンプ協会

●当日は山岳写真展示、ネパールの手工芸品即売等も予定しております。

OB 会 会 計 報 告

(平成11年7月1日～平成11年12月31日)

《 収 入 の 部 》

OB 会 費 納 入	7 6 4, 3 6 0
預 金 利 息	1 9 7
計	7 6 4, 5 5 7

《 支 出 の 部 》

OB 会報 (やまざと) No.11 印刷費	2 0 1, 6 0 0
〃 郵送料	1 3 3, 9 2 0
現役小屋作業補助	5 0, 0 0 0
秋の小屋酒場食費	2 1, 5 3 1
〃 資材等	5, 3 3 4
〃 写真代	5, 3 7 3
OB・現役3年生懇親会	6 5, 3 1 0
通 信 費	1 5, 5 1 0
文 具 費 そ の 他	1 3, 8 6 7
計	5 1 2, 4 4 5

《 差 引 剰 余 金 》

前回 (11.6.30 現在) 繰越金	1, 8 3 5, 2 3 7
収 入 の 部	7 6 4, 5 5 7
支 出 の 部	5 1 2, 4 4 5
差 引 合 計	2, 0 8 7, 3 4 9

2年

杉村 明慶 (教一人環 98-192) O あり
 金沢市三ツ口新町1-15-5 錦寮 261-3458
 大阪府大阪市都島区都島北道1-10-6 06-921-1165

清水 健作 (理一物 98-45) A あり
 金沢市材木町13-29-202 262-4263
 岐阜県関市明生町2-2-22 0575-23-2975

1年

日野 鋼貴 (文一人間 99-044) B あり
 金沢市宝町3-3-37 261-5118
 埼玉県本庄市北堀450-29 0495-22-1749

角田 幸久 (経 99-033) B あり
 金沢市旭町1-11-12-110 090-4757-3235
 長野県松本市城西1-6-1 0263-33-0652

河原 一美 (教一教養 99-037) O あり
 富山県西砺波群福岡町荒屋敷100 090-2830-4082
 同上 0766-64-4322

計 3年 6名
 2年 8名
 1年 10名
 合計 24名

99 小屋作業報告

CL42期 石川 真心

本年度の小屋作業は、初期の計画においては高三郎登山道への道標の設置を目的と
 していたが、その話がひとまず延期となったことにより登山道及びベルクハイムの草
 刈りを行うこととした。今年は去年のようなひどい雨に降られると言ったようなこと
 はなく、作業自体は比較的スムーズに行うことができた。しかしながら、登山道の草
 刈りにおいては、私が入り口付近から草を刈っていくよう指示したため山頂までた
 どり着けなかったことが残念である。近年、高三郎に登る機会が減っていることを
 考えるとなおさら悔やまれる。一方、ベルクハイムの方は来たときと比べると見紛う
 程綺麗にされており、キャンプ場も以前は道を挟んで両面にあったテント場が片面に
 やたらと広がったがテント四張り張り得るようになっていた。ベルクハイムの方の指
 示に当たってくれた越前さんと坂本君に感謝したい。

本年度、草刈りのみを行ったことにより今後処理していくべき課題が残ってしまう
 こととなった。まず、道標の設置。本年度においては延期となったが、話がまとまり
 次第となると来年あたりに行われるのではないかとと思われる。しかしながら、本年度
 の小屋作業後にベルクハイムを訪れた方、及び現役部員は知っている事と思うが床の
 痛み具合がひどく、今回の小屋作業中において何カ所か床を抜いてしまい、ほかにも
 今にも抜けそうな場所が数カ所ある。この床の方は、ベルクハイムを利用するにおい

て早急に補完しなければならぬ。

今後の小屋作業において、小屋の補修を行っていくのと平行して、今後どのように現役部員がベルクハイムを利用していくかが問題となる。以前は春の新トレ、秋の小屋作業と年二回来ていた高三郎も、ダム沿いの登山道の崩壊が進んだことにより新トレで一年に荷物を背負わせたまま登るのはいささか厳しいのではないかとも思われ、訪れるのは年に一回小屋作業の時のみとなってしまう。従って、現役部員に関しては一年に一回しか訪れることのない場所であり、そこを維持していくことに裂ける労力には限界がある。OBの方々がベルクハイムの維持に尽力されている事を含めても、ベルクハイム及び登山道の崩壊に対して馳ごっことなってしまうように思われる。

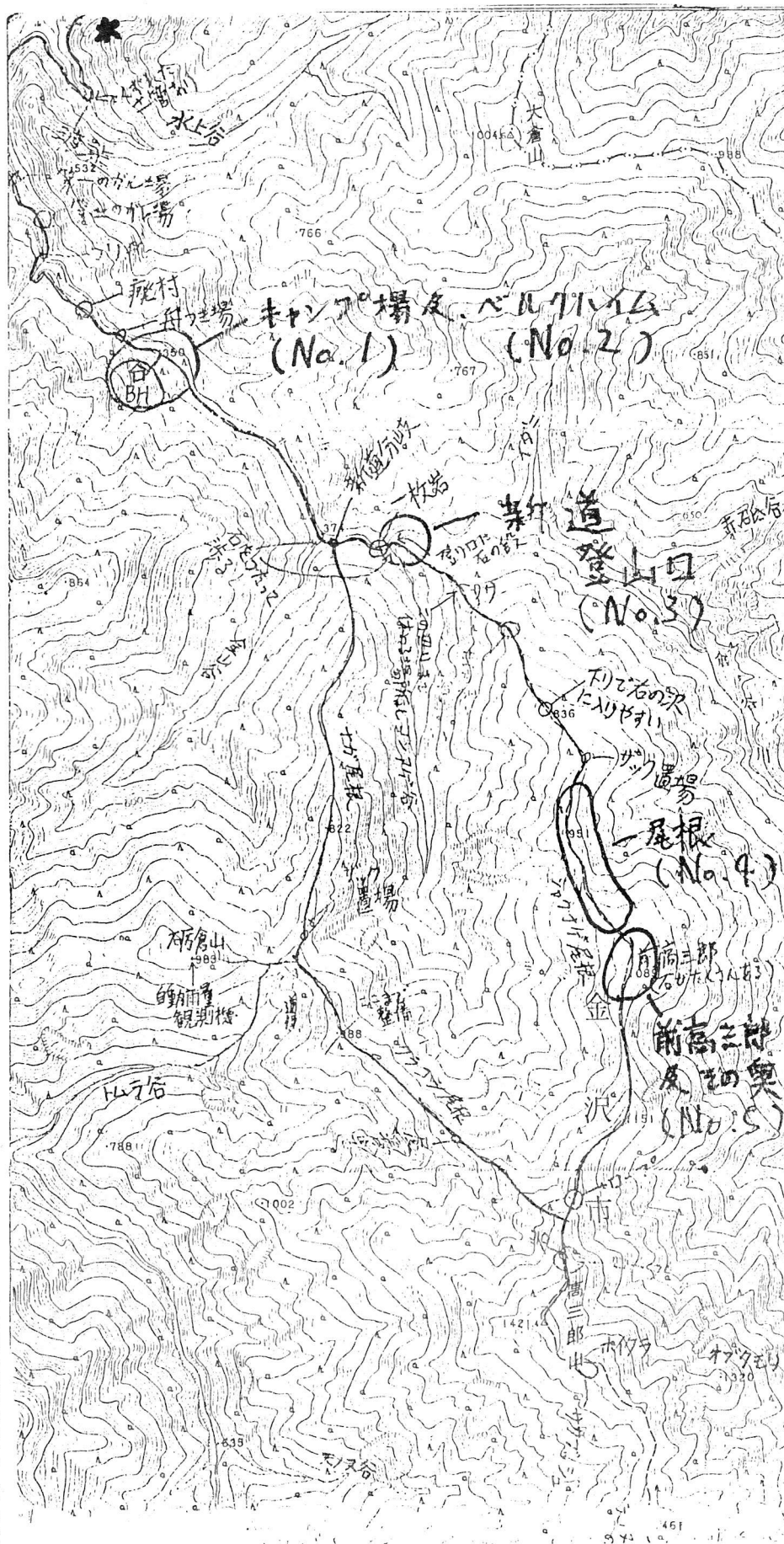
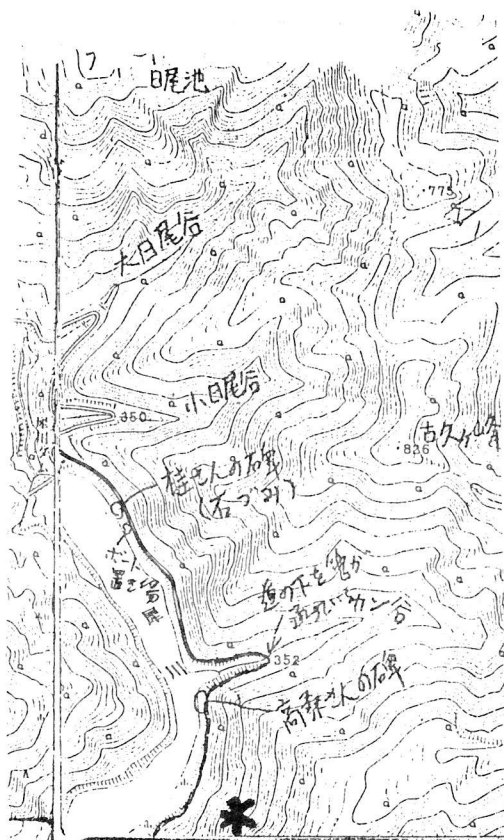
故に、現役部員のベルクハイムの利用の増加、それに伴うベルクハイム維持及び増設に関する現役部員の労力の増加が望まれ、その過程において現役部員とOBの親睦を図ることができればさらに望ましいと思う。今後、前述のようなことを視野に入れた行事計画について考えていかれることを願う。



小倉	奥野	角田	日野
加藤	杉村坂本	西	山本
		谷村	三浦西脇
		角谷	吉森
		谷上	越前
清水	久原	志賀	矢内
			阿納
			河原
			福村

報告用に、作業箇所を
電話で尋ねるも、どう
も話が噛み合わない。

「じゃあ地図に書いて
きて。」書き込みよく
してあって、うん、ち
ゃんと調べている。が、
やはり、旧道に新道と
記入してあった。そう
であって不思議ではな
のが、高三郎とKUWVの
関係……。



Winter Training

冬合宿の計画書が出てきましたので、お送りします。20日からの寒波と降雪のおかげ
ですっきりとラッセル(の練習)もできることでしょう。

[目的] 冬山の基礎技術の訓練と雪山の厳しさ、楽しさを知ること。

[日程] 1999年12月26日(日)～28日(火) (2泊3日 予備1日 非常1日)

[メンバー]

Aパーティ

L 坂本一樹(工-土建3) sL (csL) 矢内佑一(工-物化3) 西脇幹雄(工-機械2)
谷上 望(文-人間2) 小倉 亮(法2) 吉森幸世(文-人間1) 西 大輔(工-人機1)
谷村一成(工-人機1) 角田幸久(経-1) 久原宗仁(文-史1)

Bパーティ

L 角谷 誠(工-土建3) sL 志賀寛人(工-土建2) cL 笹田竜之(文-史3)
阿納真弓(文-人間2) 加藤菜就(工-物化2) 日野鋼貴(文-人間1)
福村岳代(教-障害1) 山本資治(工-人機1) 石原 諭(経1) 河原一美(教-教養1)
+ 前田達男(法-顧問)

[連絡員] 越前聡子(文-人間 3) (264-0205) 伊藤純司(工-物化 3) (263-8353)

[目的] 本番で行くための下見。道の様子や1日目のテント場として使用する予定の

小屋の状態、2日目のテント場の様子などを見る。

[日程] 12月11日、12日(非常1日)

[行程] 1日目 金沢 == (車) == 平泉寺 ---- 中ノ平小屋 --- 法恩寺
山 ---- 伏拝 ---- テント場①

2日目 伏拝 ---- 経ヶ岳(往復) ---- 中ノ平小屋 ---- 平泉寺

[メンバー]

L 笹田竜之(文-史3) sL 矢内佑一(工-物化3) 角谷 誠(工-土建3)
坂本一樹(工-土建3) 志賀寛人(工-土建3)

[連絡員] 河村浩之(266-1283) 佐藤豪一郎(235-3137)

なお、冬合宿本番は 12月26～28日です。私も同行する予定です。

冬合宿行ってきました。20日からの寒波と降雪の上に新雪が積もり、三頭山を巻くあたりから膝上のラッセルとなりました。このため雪の初日のテント場は林道に出て、視界の広がる予備テント場の1ピッチ手前。翌日は出発が遅れたこともあり、おまけに快適な中ノ平小屋で昼近くとなり、そのままザックを置くことになりました。昼食後2時間程度雪上訓練。3日目は雪道に掘った「塹壕」道をツボ足で一気に下山しました。

それにしても大所帯なのにラッセルが進まなかったのは、新雪（深雪）のせいばかりではありません。ラッセル慣れしていないため、ピッケル、ストックなど手に持つ道具が装備から抜けていました。ローテーションを早く回すようになったのも途中からでした。経験を傳承していくことの大切さを痛感しました。

なお、私もローテーションに加わりましたが、荷物が軽かったこととピッケルを持っていたこと、そして何よりも医王山輪かんのおかげで、時には2番手との間に距離を開けてラッセルを楽しんで来ました。

《当初計画》

[日程] 12月26日(日)～28日(火) (2泊3日 予備1日 非常1日)

[行程] 1日目 金沢 == (バス) == 平泉寺 ---- 三頭山 --- テント場(予①) --- 中ノ平小屋(テント場①)

2日目 中ノ平小屋 --- 法恩寺山 ---- 伏拝 ---- テント場② 北岳 --- 経ヶ岳(往復)

2日目 テント場② --- 伏拝 ---- 中ノ平小屋 ---- 平泉寺 == 勝山 +++ 福井 +++ 金沢

10月20日
現役3回生と
OB役員の
懇親会



笹田 志賀 石川 矢内 坂本
角谷 梅 鳥越 舟田 奥名



本日開催。



金沢

金沢城フェスティバル'99

歴史が生きて、文化に触れる。

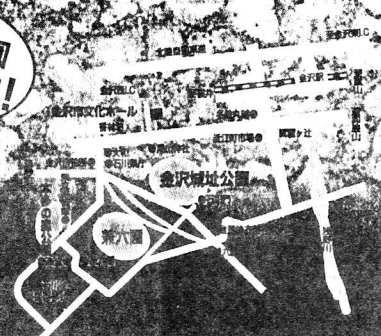
入場無料

当日兼六園
無料開放!

とき ◆ 平成11年11月3日
(文化の日)

会場 ◆ 金沢城址公園周辺
(沈床園 他)

会場には駐車場がありません。お車でのご来場はご遠慮下さい。



金沢城址で
歴史を学び
文化に触れる

特別展 **金沢城**
～いま・むかし・みらい展～

期間/平成11年11月3日(祝)～11月9日(火)
場所/金沢市文化ホール 時間/AM9:00～PM5:00
◆ 全国都市緑化いしかわフェアPR
◆ 城址整備により発掘された埋蔵文化財あれこれ
◆ 金沢城郭模型
◆ 金沢城絵図 他

沈床園内(石川門下広場)

ミニステージイベント

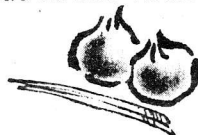
- ◆ 琴「田村 加幸」 時間/1回目・AM11:00～ 2回目・PM1:20～ 3回目・PM2:30～
- ◆ しの笛「美音」 時間/1回目・AM11:25～ 2回目・PM1:00～
- ◆ 民謡「孝義まじこ社中」 時間/1回目・AM11:40～ 2回目・PM3:00～
- ◆ 浅野太鼓「海燐」 時間/1回目・PM12:15～ 2回目・PM2:00～

金沢城大茶会(裏千家)

- ◆ 時間/AM10:00～PM3:00 ◆ 席300円(菓子付)
- 本部テントでお茶席券を販売しております。

百万石ふるさと物産市

- ◆ 時間/AM10:00～PM4:00



お国自慢食べ歩きコーナー

- ◆ 時間/AM10:00～PM4:00

ふるまい酒 ◆ 時間/正午より

加賀藩ウォークラリー

各チェックポイントのキーワードを集めるとひとつの言葉になります。正解者にはすてきな賞品をプレゼント!

- ◆ 受付/本部(沈床園)
- ◆ 時間/AM10:00～PM4:00(受付はPM3:30まで)

Aロングコース

本部～白鳥路～石川県東部文化会館～尾崎神社～尾山神社～金沢市文化ホール～三十間長屋～石川門～本部

Bショートコース

本部～石浦神社～金城豊沢～本多の森公園～県立歴史博物館～県立伝統産業工芸館～観光物産館～本部

主催/金沢城フェスティバル実行委員会(お問合せ/076-223-9204)・石川県・金沢市
協力/財団法人 石川県民ふれあい公社 石川県漁業組合連合会 石川県経済産業協同組合連合会 石川県スキー場協会

● 注意

- このイベントは当日の天候状況により、中止・変更になることがあります。
- 雨天では、決まりました場所以外での開催・飲食は出来ません。

- 立ち入り禁止区域への進入はお断りします。
- 三十間長屋、石川門は重要文化財です。大切に。

歴史散歩

金沢城槽コース

AM10:30～ ◆ 集合/石川橋
石川橋～三十間長屋～① 菱櫓 ② 橋爪門続櫓

ふるさとの歴史コース

PM2:30～ ◆ 集合/石川橋
石川橋～石川門～三十間長屋～宮守坂～尾山神社
※2コースとも10分前に集合場所へお集り下さい。

「城を詠む」金沢城句会

あなたの作品を沈床園内の掲示板に公開。粋な作品をどんどん応募下さい。作品はラジオかなざわ「金沢もしもし探検隊」でも受け付け、作品を番組内でも紹介いたします。

- ◆ 応募方法/沈床園内本部の応募用紙でご応募下さい。

ラジオ応募の場合は「金沢もしもし探検隊」に電話又はFAXでご応募下さい。
TEL (076) 257-7825 FAX (076) 257-7756

- ◆ 応募受付時間/沈床園会場・PM3:00まで ラジオ受付・PM4:00まで

- ◆ 審査発表/PM4:30よりラジオかなざわ(FM78.0)特別番組で審査発表いたします。優秀作品にはすてきな賞品をプレゼント!

- ◆ 審査員/石川県俳句協会 常任理事(北國新聞文化センター 俳句講師) 小竹由岐子

石川橋上オープニング

浅野太鼓「海燐」 ■ 時間/AM10:00～
和太鼓で華やかに幕開け!

石川門特別公開

現在公開中 11月7日まで ■ 時間/AM10:00～PM4:00
ボランティアガイド「まいどさん」がご案内いたします。

スボレク体験コーナー

■ 会場/本多の森公園 ■ 時間/AM10:00～PM3:00
来年秋に開催される第13回全国スポーツレクリエーション祭「スボレク石川2000」を紹介しニュースポーツが体験できます。

※平成13年、全国都市緑化いしかわフェアが金沢城址公園などで開催されます。
現在石川県ではこのイベントに合わせて公園内を整備中です。

白山に永久凍土?



雪や氷は水に浮く。ところが昨秋、白山(二〇二五)の千蛇ヶ池では、池の中に万年雪(氷体)が沈んでいた。このほど、鳥取・米子で開かれた一九九九年日本雪氷学会全国大会でこんな発表が行われた。この万年雪は、国内では一部にしか確認されていない「永久凍土」の可能性も指摘されている。発表された研究成果を中心に、高山の水の世界をのぞいた。

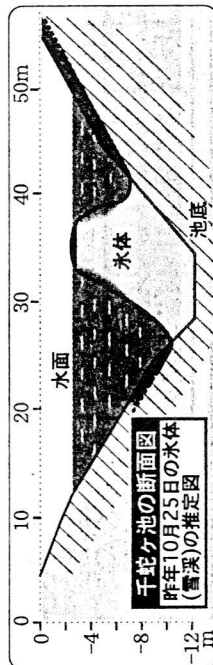
(報道部・沼井秀和)
万年雪(多年生雪)を調べたのは、福井大の伊藤文雄文部技官(雪氷物理、石川県林業試験場の矢田豊主任技師、中谷宇吉郎雪の科学館(石川県加賀市)の神田健三館長。

昨年十月上旬に、伊藤さんが白山山頂に近く千蛇ヶ池(約二五七二)を訪れたところ、池の周囲や水面上に雪がなかった。伊藤さんは以前からの雪氷を調査してきたが、白山に

福井大、宇吉郎雪の科学館、石川県の3人調査

例年見られる千蛇ヶ池(1995年9月撮影)。池全体が万年雪で覆われている。昨年11月6日の千蛇ヶ池。水位が下がって、水中にあった氷体(雪氷)が水面に突き出た。

水に浮くはずの氷体 千蛇ヶ池中で発見



一の万年雪である千蛇ヶ池の雪氷が消えたのは、およそ三十五年ぶりという。池の表面を調べると、水中から小さな気泡が上がり、二平方メートル二十から三十を数えた。池の端

水際にある泥を払ってみると、土の下から氷が現れた。表面上は雪が消えているが、池の中には、氷がかなりあるのではないかと、そんな推定が浮かんできた。

三人は、この異例と言え、る状態を解明するため、昨年十月下旬と十二月初旬に現地向かった。

十月下旬には、池の表面にはほぼ全面に氷が張っていたが、ところどころに氷の張っていない穴があった。池の周りの少し高い位置から穴の内部をのぞいてみると、浅いところに薄茶色の平たんな面があり、周りは淡い水色と切り立つように縁取りしてみえた。それ以外の場所は深い青緑だった。薄茶色の平たんな面は、氷の上に土砂がわずかに載った部分で、淡い水色は氷体のがけの部分、深い青緑は水深の深い部分と判断された。これらから池の中には、平たんな面がけの部分からなる大きな氷体があると推測せられた。

また、池の崖の砂を少し取り除くと、その下から固い氷が現れたほか、斜面にも氷の層が確認され、周辺にある土砂の下に、氷がかなりの範囲にあることが推定された。

さらに昨年十二月六日の調査では、水位が上がり、水中にあった氷体(雪氷)が水面に突き出た。

一連の調査で、池の底における構造が初めて明らかになり、十月下旬現在の池の底にも氷の存在が推定された。雪や氷は水に浮くはずだが、千蛇ヶ池の氷体は沈んでいた。伊藤さんらは、氷体が浮きしないのは、池の底にある岩盤層と一体化しているためと考察。そして、底盤の状態を「永久凍土」と言えるか、どうかの検討を進めている。

雪氷科学などによると、永久凍土は、少なくとも連続した回の冬その間の一夏をわたる期間より長く零度以下の温度を保つ土、または氷になっている状態。永久凍土は、シベリアなど地球上の陸地における一四割を占めるが、日本では富士山、大雪山で確認されているとされている。

しかし、立山連峰の内蔵助雪にも永久凍土が存在している可能性が出てきている。今年の学会で、国土地理院研究所と東京理科大学のグループが調査した底盤の気温変化や地盤の電気探査による調査結果を基にして、永久凍土が存在する可能性を報告している。

最近の異常気象は、科学者にとって、隠れていた事実をどう考える好機でもあるようだ。先駆的な雪の研究で知られる故・中谷宇吉郎の生誕百周年となる来年には、出身地の加賀市で記念事業が行われ、日本雪氷学会も開催される。研究の深まりを期待したい。



各期代表連絡員の皆様には、以下の区分で、同期の状況をお知らせしています。

A・・・イエローカード同封。次号より発送ストップ。

B・・・今回から発送ストップ。

C・・・もう発送ストップになっている

D・・・発送復活者。

E・・・納入済につき発送。 人数表示。

1-37期までの集計は、A144 B26 C64 D1 E226

38期からは、順にA対象に繰りあがっての督促となり

A + D + E (370) + 38-40期 (31) + 現役 (43) + & = 460部・・発注数

事務軽減の為に一括納入をお願いしている訳ですが、5年の間にばらつく為に、督促を兼ねて上記のような区分のチェックを必要としてしまいます。この区分に、振込票を同封するしないのチェックも混じり、あまりのややこしさに、封入作業を人にも頼めない有様です。

これら諸々のトラブルは、つきつめれば、「入会意志の確認」でスタートしていないに行き着いてしまいます。そして「入会意志」とは、「これまで」ではなく、「これから」についての意志表明であるべきと思います。

またも長くなってしまいました。次期総会までに、皆様のご意見を伺えれば幸いです。

OB会報「やまざと」12号

発行日 平成12年1月 ('99冬号)

発行者 奥名 正啓

編集責任者 舟田 節子

印刷 プリントショップ多田

金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会

事務局 ☎920-0911 金沢市橋場町10-49

☎076-222-9288 (舟田 節子)

E-mail settyan-f@muc.biglobe.ne.jp

URL : www02.u-page.so-net.ne.jp/pa2/ma-okuna/kuwv/

奥名 会長 E-mail ma-okuna@pa2.so-net.ne.jp

名倉 名簿担当 E-mail nagura@wnk.njk.co.jp